

令和 3 年度

地方独立行政法人広島市立病院機構の業務実績に係る評価結果（案）

令和 4 年 月

広島市

地方独立行政法人広島市立病院機構 各事業年度における業務の実績に関する評価について

1 評価方法

市長は、法人から提出された各事業年度における業務の実績を明らかにした報告書に記載されている小項目及び大項目に係る「項目別評価」並びに項目別評価を踏まえた報告事項全般に係る「全体評価」により評価を実施する。

2 項目別評価

(1) 法人による小項目に係る自己評価

市長は、次表のとおり、法人に5段階による自己評価を行わせるとともに、その結果及び評価理由並びに特筆すべき事項を記載した報告書を提出させる。

評価の記号	実施状況の説明
5	年度計画を大幅に上回って実施している。
4	年度計画を上回って実施している。
3	年度計画を順調に実施している。
2	年度計画を十分に実施できていない。
1	年度計画を大幅に下回っている。

(2) 市長による評価

ア 小項目評価

市長は、法人から提出された報告書により、事業年度における中期計画の実施状況を調査し、分析した上で、次表のとおり、小項目ごとに5段階により評定するとともに、その評定結果及び特筆すべき事項を評価結果報告書に記載する。

評価の記号	実施状況の説明
5	年度計画を大幅に上回って実施している。
4	年度計画を上回って実施している。
3	年度計画を順調に実施している。
2	年度計画を十分に実施できていない。
1	年度計画を大幅に下回っている。

イ 大項目評価

市長は、小項目評価結果に基づき、次表のとおり、大項目ごとに5段階により評定し、評価結果報告書に記載する。

評価の記号	実施状況の説明	評価の基準
5	中期計画の実現に向けて特筆すべき進捗状況にある。	特に市長が認める場合
4	中期計画の実現に向けて計画どおりに進んでいる。	すべての小項目評価が3～5の場合
3	中期計画の実現に向けて概ね計画どおりに進んでいる。	3～5の小項目評価の割合が概ね9割以上の場合
2	中期計画の実現のためにはやや遅れている。	3～5の小項目評価の割合が概ね9割未満の場合
1	中期計画の実現のために重要な改善すべき事項がある。	特に市長が認める場合

3 全体評価

(1) 評価方法

市長は、大項目ごとの評価点を、当該大項目の評価点の配分比率の割合に乗じて得た評価点の合計に基づき評定するとともに、その評定結果及び特筆すべき事項等を評価結果報告書に記載する。

(2) 大項目評価点の配分比率

大項目の評価点の配分比率の割合は、次表のとおりとする。

年度計画の区分	大項目	評価点の配分比率の割合	
第1 市民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上	1 市立病院として担うべき医療	32%	32%
	2 医療の質の向上	8%	32%
	3 患者の視点に立った医療の提供	8%	
	4 地域の医療機関等との連携	8%	
	5 市立病院間の連携の強化	4%	
	6 保健、医療、福祉、教育に係る行政分野への協力	4%	
第2 業務運営の改善及び効率化	1 業務運営体制の確立	4%	32%
	2 人材の確保、育成	8%	
	3 弾力的な予算の執行、組織の見直し	4%	
	4 意欲的に働くことのできる、働きやすい職場環境づくり	4%	
	5 外部評価等の活用	4%	
第3 財務内容の改善	経営の安定化の推進	8%	
第4 その他重要事項	安佐市民病院の建替えと医療機能の拡充	4%	4%
評価点の合計		5点満点(100%)	

(3) 評定基準

全体評価の評定は5段階とし、その基準は次表のとおりとする。

評価の基準	評価の記号及びコメント	
4. $5 < X$	S	法人の業務は、中期計画の達成に向けて極めて順調に実施されている。
3. $5 < X \leq 4.5$	A	法人の業務は、中期計画の達成に向けて順調に実施されている。
2. $5 < X \leq 3.5$	B	法人の業務は、中期計画の達成に向けて概ね順調に実施されている。
1. $5 < X \leq 2.5$	C	法人の業務は、中期計画の達成に向けて十分に実施されていない。
$X \leq 1.5$	D	法人の業務には、中期計画を達成するために重大な改善事項がある。

(注) Xは、全体評価における評価方法により導いた評価点(大項目評価点×配分比率の割合(%))の合計

地方独立行政法人広島市立病院機構 令和3年度業務実績に係る評価

全体評価

評価の記号

B：法人の業務は、中期計画の達成に向けて概ね順調に実施されている。

評価コメント

第2期中期計画期間の最終年度となる令和3年度の業務実績に係る評価を行うため、本市では、法人の業務実施状況や自己評価についてのヒアリングを実施するとともに、広島市病院事業地方独立行政法人評価委員会から本市の評価に対する意見聴取を行った。

業務実績評価においては、中期計画に掲げる「市立病院として担うべき医療」の取組について、安佐市民病院のがん診療機能の充実や舟入市民病院の感染症医療の提供などを有用な実績として評価した。

法人全体では、令和2年度と同様に、新型コロナウイルス感染症の影響により実施できない取組があったが、WEBを活用するなどし、地域の医療機関を対象とした研修会の開催や入院患者の退院前に後方支援病院とカンファレンスを行うなど地域包括ケアシステムの構築に向けた取組に努めていることに加えて、新型コロナウイルス感染症拡大時には、感染症患者の受入体制を強化するとともに県や市からの要請により、トリアージ外来やワクチン接種の実施、クラスター発生施設等への看護師の派遣など、近隣の病院等と連携し、公立病院として一丸となって取り組んだことを評価した。

一方、財務面では、主に新型コロナウイルス感染症関係補助金収入の増加により、一定の黒字を確保できたが、経常収支の安定した黒字化に向けて、今後とも、手術件数増の取組による入院・外来収入の増に努めるなど、経営改善に取り組む必要がある。

以上を総括し、本市が行った令和3年度の業務実績評価は、前述のとおり「中期計画の達成に向けて概ね順調に実施されている。」との結論に至ったものであるが、引き続き、地方独立行政法人の特長を最大限に生かし、より一層質の高い医療を提供するとともに、患者サービスの向上を図り、市立病院に求められる役割を継続的かつ安定的に果たすことを期待する。

業務運営等に関する改善事項等について

業務運営等に関する個別・具体的な事項について、改善その他必要な措置を講ずることを命ずる点はない。

なお、市立病院に求められる役割を果たす上で考慮すべきものとして、次の意見を申し添える。

- ・ 新型コロナウイルス感染症への対応については、各病院がそれぞれの役割に応じて、引き続き関係機関と連携・協力し、適切に対応すること。
- ・ 経営の安定化のために、診療報酬改定に関する調査・分析・検証を行い、新たな施設基準取得への取組などの収入確保に努め、安定した経営基盤を維持すること。
- ・ 病床利用率の向上やクリニカルパスの活用拡大などの年度計画を順調に実施できていない項目については、引き続き改善に向けて取り組むとともに、適正な病院運営のために、法人を挙げて職員の行動規範の徹底を図ること。

全体評価（評点）

年度計画の区分	大項目	評価点の配分比率 a	大項目評価点 b	評価の基準 a × b	評価の記号 (全体評価)
第1 市民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上	1 市立病院として担うべき医療	32%	3	0.96	B
	2 医療の質の向上	8%	4	0.32	
	3 患者の視点に立った医療の提供	8%	2	0.16	
	4 地域の医療機関等との連携	8%	4	0.32	
	5 市立病院間の連携の強化	4%	4	0.16	
	6 保健、医療、福祉、教育に係る行政分野への協力	4%	4	0.16	
第2 業務運営の改善及び効率化	1 業務運営体制の確立	4%	4	0.16	
	2 人材の確保、育成	8%	4	0.32	
	3 弾力的な予算の執行、組織の見直し	4%	4	0.16	
	4 意欲的に働くことのできる、働きやすい職場環境づくり	4%	4	0.16	
	5 外部評価等の活用	4%	4	0.16	
第3 財務内容の改善	経営の安定化の推進	8%	2	0.16	
第4 その他重要事項	安佐市民病院の建替えと医療機能の拡充	4%	4	0.16	
評価点の合計		(100%)		3.36	

※ 全体評価の評定は5段階とし、その基準は次表のとおりである。

評価の基準	評価の記号及びコメント	
4. $5 < X$	S	法人の業務は、中期計画の達成に向けて極めて順調に実施されている。
3. $5 < X \leq 4.5$	A	法人の業務は、中期計画の達成に向けて順調に実施されている。
2. $5 < X \leq 3.5$	B	法人の業務は、中期計画の達成に向けて概ね順調に実施されている。
1. $5 < X \leq 2.5$	C	法人の業務は、中期計画の達成に向けて十分に実施されていない。
$X \leq 1.5$	D	法人の業務には、中期計画を達成するために重大な改善事項がある。

(注) Xは、全体評価における評価方法により導いた評価点（大項目評価点×配分比率の割合（%））の合計

項目別評価(総括表)

大項目	小項目	評価の記号	
第1	市民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置		
1	市立病院として担うべき医療	3	
(1)	広島市民病院	ア 救急医療の提供	3
		イ がん診療機能の充実	3
		ウ 周産期医療の提供	3
		エ 災害医療の提供	3
		オ 低侵襲手術等の拡充	3
		カ 中央棟設備の老朽化等への対応	3
		キ その他	3
(2)	安佐市民病院	ア 救急医療の提供	3
		イ がん診療機能の充実	4
		ウ 災害医療の提供	3
		エ へき地医療の支援	3
		オ 低侵襲手術の拡充等	3
		カ 新病院での新たな取組の検討	3
		キ その他	3
(3)	舟入市民病院	ア 小児救急医療の提供	3
		イ 小児専門医療の充実	3
		ウ 感染症医療の提供	5
		エ 病院機能の有効活用	2
		オ 障害児(者)診療相談機能の充実	3
(4)	リハビリテーション病院・自立訓練施設	ア 総合的なリハビリテーションサービスの提供	3
		イ 回復期リハビリテーション医療の充実	3
		ウ 自立訓練施設の利用促進	3
		エ 相談機能の充実と地域リハビリテーションの推進	3
		オ 災害時の市立病院間のバックアップ機能の強化	3

大項目	小項目	評価の記号	
2	医療の質の向上	4	
(1)	医療需要の変化、医療の高度化への対応	ア 医療スタッフの知識の習得や技術の向上	3
		イ 資格取得の促進	3
		ウ 診療体制の充実	3
		エ 医療機器の整備・更新	3
	(2) チーム医療の推進	3	
	(3) 医療の安全確保の強化	3	
(4) 医療に関する調査・研究の実施	3		
(5) 災害医療体制の充実	4		
3	患者の視点に立った医療の提供	2	
(1)	病院情報・医療情報の発信	3	
	法令・行動規範の遵守	2	
(3)	安心して最適な医療の提供	ア 相談機能の強化	3
		イ インフォームド・コンセントの徹底	3
		ウ セカンドオピニオンの実施	3
		エ クリニカルパスの活用拡大	2
(4) 患者サービスの向上	3		
4	地域の医療機関等との連携	4	
(1)	地域の医療機関との役割分担と連携	ア 病院の役割分担に基づく紹介、逆紹介の促進等	3
		イ 地域連携クリニカルパスの運用拡大	3
(2)	地域の医療機関への支援	ア 高度医療機器の共同利用	3
		イ 安佐市民病院の北館に整備する病院への支援	3
		ウ 安佐市民病院における地域完結型医療の提供に向けた取組	3
(3)	保健機関、福祉機関との連携	ア 保健機関、福祉機関との連携	3
		イ 地域包括ケアシステムの構築に向けた的確な対応	3
5	市立病院間の連携の強化	4	
(1)	一つの病院群としての病院運営の推進		3
			3
(2) 広島市立病院機構医療情報システムの運用	3		
6	保健、医療、福祉、教育に係る行政分野への協力	4	
	保健、医療、福祉、教育に係る行政分野への協力	3	

大項目	小項目	評価の記号	
第2	業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置		
1	業務運営体制の確立	4	
	(1) 迅速かつ的確な組織運営	3	
	(2) 業務改善に取り組む風土づくり	3	
2	人材の確保、育成	4	
	(1) 病院を取り巻く環境変化に迅速、柔軟に対応した人材の確保	ア 診療体制の充実	3
		イ 多様な採用方法と雇用形態の活用	3
		ウ 医師確保の推進	3
		エ 看護師確保の推進	3
		オ 看護師等の安定的な職場定着の推進	3
		カ 病院間の人事交流の推進	3
	(2) 事務職員の専門性の向上	3	
	(3) 研修の充実	ア 多様な研修機会の提供と参加しやすい環境づくり	3
		イ 新規採用看護師等に対する指導・研修の充実	3
3	弾力的な予算の執行、組織の見直し	4	
	弾力的な予算の執行、組織の見直し	3	
4	意欲的に働くことのできる、働きやすい職場環境づくり	4	
	(1) 病院の実態に即した人事・給与制度の構築	3	
	(2) 適切な役割分担と業務の負担軽減	3	
	(3) ワーク・ライフ・バランスの推進	ア 子育てと仕事との両立の支援	3
		イ 長時間労働の是正	3
		ウ 年次有給休暇の取得推進	3
	(4) メンタルヘルス対策の実施	3	
5	外部評価等の活用	4	
	外部評価等の活用	3	
第3	財務内容の改善に関する目標を達成するためとるべき措置		
	経営の安定化の推進	2	
	(1) 中期目標期間中の経常収支の黒字化	3	
	(2) 診療科別・部門別の収支状況の把握と迅速な対応	3	
	(3) 経費の削減	3	
	(4) 収入の確保	2	

大項目	小項目	評価の記号
第4	その他業務運営に関する重要事項を達成するためとるべき措置	
	安佐市民病院の建替えと医療機能の拡充	4
	安佐市民病院の建替えと医療機能の拡充	3

項目別評価

<p>第1 市民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置</p> <p>1 市立病院として担うべき医療</p> <p>市立病院は、それぞれの病院の特徴を生かし、他の医療機関との役割分担、連携を図りながら、本市の医療施策上必要とされる医療を安定的に提供すること。</p> <p>(1) 広島市民病院、(2) 安佐市民病院</p>

<p>中期目標</p>	<p>ア 救急医療</p> <p>広島市民病院は、初期救急から三次救急までの救急医療を24時間365日体制で提供するとともに、引き続き救急医療コントロール機能の中心的な役割を担うこと。また、安佐市民病院は、県北西部地域等の中核病院として、引き続き実質的な三次救急医療を提供すること。</p> <p>イ がん医療</p> <p>地域がん診療連携拠点病院としての機能強化を図り、高度で先進的ながん医療を提供すること。</p> <p>ウ 周産期医療</p> <p>広島市民病院は、総合周産期母子医療センターとして、リスクの高い妊産婦や新生児への周産期医療を提供すること。</p> <p>エ 災害医療</p> <p>災害拠点病院として、災害時に、迅速かつ適切な医療を提供するとともに、災害医療における中心的な役割を果たすこと。</p> <p>オ へき地医療</p> <p>安佐市民病院は、へき地医療拠点病院として、また、市北部地域のみならず、県北西部地域等を対象とした中核病院として、関係医療機関に対する診療や医療従事者の研修等の支援に取り組むこと。</p>
-------------	---

中期計画	令和3年度	地方独立行政法人広島市立病院機構による自己評価		市長による評価	
	年度計画	評価理由等	記号	評価理由・コメント等	記号
<p>第2 市民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置</p> <p>1 市立病院として担うべき医療 (大項目)</p> <p>それぞれの病院の特徴を生かし、他の医療機関との役割分担、連携を図りながら、市民生活に不可欠な医療や高度で先進的な医療を安定的に提供します。</p>	<p>第1 市民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置</p> <p>1 市立病院として担うべき医療 (大項目)</p>				
<p>(1) 広島市民病院</p>	<p>(1) 広島市民病院</p>				

中期計画	令和3年度	地方独立行政法人広島市立病院機構による自己評価		市長による評価														
	年度計画	評価理由等		記号	評価理由・コメント等	記号												
<p>ア 救急医療の提供 (小項目)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・初期レベルの一次救急医療から、救命救急センターを備え一刻を争う重篤患者に対する三次救急医療までを24時間365日体制で提供します。 ・受入困難事案の救急患者を一旦受け入れ初期診療を行った上で、必要に応じて支援医療機関への転院を行う役割を担う救急医療コントロール機能病院として取り組みます。 ・医師会が運営する夜間急病センターとの連携、協力の下、一次救急医療の提供体制の適切な運営に努めます。 	<p>ア 救急医療の提供 (小項目)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一次から三次までの救急医療を24時間365日体制で提供 ・救急医療コントロール機能病院としての運営 ・一次救急医療の提供体制の適切な運営 (救急相談センター及び広島市医師会千田町夜間急病センターとの連携など) 	<p>【一次から三次までの救急医療を24時間365日体制で提供】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 一次から三次までの救急医療を24時間365日提供し、令和3年度は救急患者22,022人(救急車7,167台、ウォークイン14,855人)を受け入れた。 <p>【救急医療コントロール機能病院の運営】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 救急患者の転院受入れを行う支援病院(32病院)と連携を取りながら、受入困難事案の救急患者を受け入れた。 <table border="1" data-bbox="871 496 1610 587"> <thead> <tr> <th>区 分</th> <th>平成29年</th> <th>平成30年</th> <th>平成31年</th> <th>令和2年</th> <th>令和3年</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>受入困難事案の受入人数</td> <td>165人</td> <td>246人</td> <td>217人</td> <td>186人</td> <td>216人</td> </tr> </tbody> </table> <p>【一次救急医療の提供体制の適切な運営】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 軽症患者診療の分散を推奨するため、院内でのポスター掲示や救急外来でリーフレット等を配布することにより救急相談センター及び千田町夜間急病センターの案内を行うとともに、患者からの待ち時間等についての問合せには電話確認などで対応し、連携を図った。 		区 分	平成29年	平成30年	平成31年	令和2年	令和3年	受入困難事案の受入人数	165人	246人	217人	186人	216人	3	年度計画を順調に実施しているため、「3」と評価した。	3
区 分	平成29年	平成30年	平成31年	令和2年	令和3年													
受入困難事案の受入人数	165人	246人	217人	186人	216人													

中期計画	令和3年度	地方独立行政法人広島市立病院機構による自己評価		市長による評価	
	年度計画	評価理由等	記号	評価理由・コメント等	記号
<p>イ がん診療機能の充実（小項目）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域がん診療連携拠点病院として、豊富な治療実績や高度な医療機器を活用し、手術や化学療法、放射線治療を適切に組み合わせた集学的治療、緩和ケアを行います。 ・化学療法のニーズに対応できるよう、通院治療センターの体制等の充実を図ります。 ・「広島がん高精度放射線治療センター」と連携して質の高い医療を提供します。 	<p>イ がん診療機能の充実（小項目）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・手術、化学療法、放射線治療と、これらを適切に組み合わせた集学的治療の実施 ・緩和ケアセンター機能の充実 ・「がんゲノム医療センター」の開設に向けた検討 ・がんに関する様々な情報の提供（研修会の開催、がん教育の実施） 	<p>【手術、化学療法、放射線治療と、これらを適切に組み合わせた治療の実施】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 診療科ごとに、毎週、カンサーボード（病理、放射線部門等他職種を交えた診療協議）を行い、手術方法、手術後の化学療法、放射線治療などについて協議し、患者にとって最良の治療方法の検討を行った。また、困難事例については、必要に応じて、病院全体のカンサーボードを行った。 ○ 新規に保険適用されたロボット手術としては、腹腔鏡下膵体尾部腫瘍切除術の施設基準を取得、実施し、手術の適用の範囲を広げた。 <p>【緩和ケアセンター機能の充実】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 緩和ケア科医師、精神科医師、薬剤師、緩和ケア認定看護師、がん看護専門看護師、管理栄養士、医療相談員で構成。チームは痛みの緩和だけでなく、病気が招く心と身体のつらさに積極的に関わり生活の質の向上につなげた。 ○ 緩和ケアチームと緩和ケア外来、緩和ケア面談・浮腫外来が連携し、患者の全人的苦痛（患者が経験する様々な苦痛）の軽減を図った。 ○ 緩和ケア外来では、令和3年度に初診76件、再診642件の診療を行い、診療件数の増を図った（令和2年度は初診74件、再診559件）。 <p>【がんゲノム診療センターの開設に向けた検討】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 遺伝子検査から治療までを行うがんゲノム医療を円滑に進めていくため「遺伝子診療科」、「がんゲノム診療科」、「がん遺伝相談外来」を合わせた「がんゲノム診療センター」開設の検討を進め、名称を「遺伝子診療科」とし、令和4年4月に開設した。 <p>【がんに関する様々な情報の提供】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 医療情報サロンにおいて、がんに関する図書等の情報を常時更新し、閲覧ができるようにしている。 ○ 医療情報サロンにおいて、がん患者の家族を対象に講演会「がんとともにこころのサロン」を年5回Web開催（延べ28人参加）した。 ○ ホームページにがん治療に関する情報等を掲載し、周知を図った。 ○ 医療者ががん研修会（年6回）、がんセミナー（年5回）、緩和ケア研修会（年1回）を、Web開催を取り入れながら定期的に開催した。 ○ 医療支援センター内のがん相談支援センター・緩和ケアセンターにおいて、 	3	<p>年度計画を順調に実施しているため、「3」と評価した。</p>	3

中期計画	令和3年度	地方独立行政法人広島市立病院機構による自己評価		市長による評価	
	年度計画	評価理由等	記号	評価理由・コメント等	記号
	<ul style="list-style-type: none"> 「広島がん高精度放射線治療センター」との連携 	<p>がん患者やその家族から延べ1,749件の相談に応じた。</p> <p>【高精度放射線治療センターとの連携】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 広島がん高精度放射線治療センター（HIPRAC）の要員として、診療放射線技師1人を引き続き派遣した。また、令和3年度には68人の患者紹介を行った（令和2年度は68人）。 			
<u>ウ 周産期医療の提供（小項目）</u> 総合周産期母子医療センターとして、リスクの高い妊産婦や極低出生体重児に対する医療等、母体、胎児及び新生児に対する総合的で高度な周産期医療を提供します。	<u>ウ 周産期医療の提供（小項目）</u> <ul style="list-style-type: none"> 総合周産期母子医療センターの運営 無痛分娩の実施 	<p>【総合周産期母子医療センターの運営】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 新生児部門は、NICU（新生児集中治療室）9床、GCU（新生児治療回復室）24床で運営し、令和3年度は397人の入院があった。 ○ 産科部門は、一般病床36床で運営し、令和3年度は907件の出産（うち異常分娩515件）であった。 ○ 帝王切開を安全かつ速やかに実施するため、総合周産期母子医療センター内に手術室を整備し令和元年11月から運用を開始して、令和3年度は75件の手術を実施した。 <p>【無痛分娩の実施】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 無痛分娩にかかる料金設定を行い、令和4年3月に1例を実施した。 <p>【新型コロナウイルスに感染した妊産婦の受入】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 令和4年1月から、広島県の調整する「妊産婦のコロナ輪番」に広島市民病院も加わり、妊産婦の陽性患者の受入を開始した。 	3	年度計画を順調に実施しているため、「3」と評価した。	3
<u>エ 災害医療の提供（小項目）</u> <ul style="list-style-type: none"> 災害拠点病院として、地震や台風等の自然災害、大規模火災等の都市災害等に備え、自家発電設備等のライフライン機能の維持、医薬品の備蓄等を行い、災害時に、迅速かつ適切な医療提供ができる体制を確保します。 災害その他の緊急時には、 	<u>エ 災害医療の提供（小項目）</u> <ul style="list-style-type: none"> 災害拠点病院としてのライフライン機能の維持、医薬品の備蓄等 災害その他の緊急時における医療救護活動の実施 	<p>【災害拠点病院としてのライフライン機能の維持、医薬品の備蓄等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 災害時に備え、外部固定アンテナを有する衛星電話と衛星インターネット回線を整備し、自家発電設備等ライフラインの機能の維持、患者用の食糧、飲料水の確保、医薬品の備蓄に取り組み、災害時に、迅速かつ適切な医療提供ができる体制を維持した。 <p>【災害その他の緊急時における医療救護活動の実施】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 新型コロナウイルス感染症拡大予防のため、広島県看護協会主催の講習会は開催されなかったが、令和3年度は、災害支援ナースとして31人の登録となった。 	3	年度計画を順調に実施しているため、「3」と評価した。	3

中期計画	令和3年度	地方独立行政法人広島市立病院機構による自己評価		市長による評価																																						
	年度計画	評価理由等	記号	評価理由・コメント等	記号																																					
<p>広島市地域防災計画等に基づき、広島市長からの求めに応じて適切に対応するとともに、自らの判断で医療救護活動を行います。</p> <p>・DMAT（災害派遣医療チーム）の派遣要請に基づき、被災地へ医師等を派遣し、被災地の医療活動を支援します。</p>	<p>・災害時に迅速かつ適切な医療提供を確保するための業務継続計画（BCP）に基づく研修・訓練の実施</p> <p>・DMAT（災害派遣医療チーム）の派遣、スタッフの育成</p>	<p>【業務継続計画（BCP）に基づく研修・訓練の実施】</p> <p>○ 机上での災害対策本部運営実施訓練を行った。また、災害拠点病院の指定要件である外部固定アンテナを有する衛星電話と衛星インターネット回線を整備するとともに、職員の参集ルール等の見直しを行い業務継続計画（BCP）の改訂を行った。</p> <p>【DMATの派遣、スタッフの育成】</p> <p>○ 令和3年8月の大雨災害の際、広島県の要請を受けDMAT隊員（医師1名、看護師1名、診療放射線技師1名）が、浸水被害を受けた病院支援に向けた準備を行った。</p> <p>○ 「広島県DMATブラッシュアップ研修（全3回）」に医師1名が延べ3回、診療放射線技師1名が延べ1回参加した。</p> <p>○ 「DMAT技能維持研修（eラーニング）」に医師3名、看護師5名、診療放射線技師1名、薬剤師1名、臨床検査技師1名が参加した。</p> <p>○ 令和3年度から新たに始まった「広島県J-SPEED研修（ファシリテーター養成コース）」に医師1名が参加した。</p>																																								
<p><u>オ 低侵襲手術等の拡充（小項目）</u></p> <p>内視鏡下手術用ロボット「ダヴィンチ」の活用やカテーテル治療とバイパス手術などの外科手術を同時に行うことのできるハイブリット手術室の運用を進め、患者の身体的負担が少ない手術等を拡充します。</p>	<p><u>オ 低侵襲手術等の拡充（小項目）</u></p> <p>・患者の身体的負担の少ない内視鏡手術及び内視鏡的治療の推進</p>	<p>【内視鏡手術及び内視鏡的治療の推進】</p> <p>○ 患者の身体的負担が少ない内視鏡手術等を2,227件行った。</p> <p style="text-align: right;">(件)</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>平成29年度</th> <th>平成30年度</th> <th>令和元年度</th> <th>令和2年度</th> <th>令和3年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>内視鏡手術</td> <td>1,934</td> <td>2,060</td> <td>2,148</td> <td>1,848</td> <td>1,943</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">内視鏡的 治療（ESD）</td> <td>食道</td> <td>51</td> <td>56</td> <td>56</td> <td>35</td> <td>51</td> </tr> <tr> <td>胃</td> <td>264</td> <td>192</td> <td>197</td> <td>139</td> <td>162</td> </tr> <tr> <td>大腸</td> <td>88</td> <td>83</td> <td>48</td> <td>64</td> <td>71</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>403</td> <td>331</td> <td>301</td> <td>238</td> <td>284</td> </tr> </tbody> </table> <p>○ 新規に保険適用されたロボット手術として、腹腔鏡下腓体尾部腫瘍切除術の施設基準を取得し、実施した。</p> <p style="text-align: right;">(件)</p>	区分	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	内視鏡手術	1,934	2,060	2,148	1,848	1,943	内視鏡的 治療（ESD）	食道	51	56	56	35	51	胃	264	192	197	139	162	大腸	88	83	48	64	71	計	403	331	301	238	284	3	年度計画を順調に実施しているため、「3」と評価した。	3
区分	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度																																					
内視鏡手術	1,934	2,060	2,148	1,848	1,943																																					
内視鏡的 治療（ESD）	食道	51	56	56	35	51																																				
	胃	264	192	197	139	162																																				
	大腸	88	83	48	64	71																																				
	計	403	331	301	238	284																																				

中期計画	令和3年度	地方独立行政法人広島市立病院機構による自己評価		市長による評価	
	年度計画	評価理由等	記号	評価理由・コメント等	記号
<u>カ 中央棟設備の老朽化への対応（小項目）</u> 救命救急センター、ICU（集中治療室）、中央手術室等、病院の中核機能が集中する中央棟は、築後25年を経過し、建物設備の老朽化が進行していることから、計画的な改修など、老朽化への対応を行います。	<u>カ 中央棟設備の老朽化への対応（小項目）</u> <ul style="list-style-type: none"> ・非常用発電機改修 ・無停電電源装置改修 ・昇降機（3号機）改修 ・炉筒煙管ボイラー改修 	<u>【中央棟設備の改修】</u> <ul style="list-style-type: none"> ○ 非常用発電機については、仮設する非常用発電機の設置検討に時間を要したことから令和4年度に実施することにした。 ○ 無停電電源装置を改修した。 工期：令和2年12月3日～令和3年4月15日 ○ 昇降機（3号機）を改修した。 工期：令和3年9月6日～令和4年2月28日 ○ 地下2階の炉筒煙管ボイラーを改修した。 工期：令和2年11月20日～令和3年11月30日 	3	年度計画を順調に実施しているため、「3」と評価した。	3
	<u>キ その他（小項目）</u> (7) 脳血管内治療体制の充実 <ul style="list-style-type: none"> ・「脳卒中センター」を開設し、脳神経外科・脳血管内治療科、脳神経内科が脳卒中の初療から協力して診療を行う体制の充実 (4) 新型コロナウイルス感染症への対応 <ul style="list-style-type: none"> ・高度急性期病院の役割を維持しながら新型コロナウイルス感染症への適切な対応 	<u>【脳血管内治療体制の充実】</u> <ul style="list-style-type: none"> ○ 令和3年4月1日に「脳卒中センター（院内標榜）」を救命救急センター内に開設することで、脳神経外科・脳血管内治療科と脳神経内科が脳卒中の初期段階から協力して医療を提供できる体制を確保した。 <u>【新型コロナウイルス感染症への対応】</u> <ul style="list-style-type: none"> ○ 新型コロナウイルス感染患者を受け入れるための専用病棟を設け、令和3年度は延べ2,921人の入院患者を受け入れた。 	3	年度計画を順調に実施しているため、「3」と評価した。	3

中期計画	令和3年度	地方独立行政法人広島市立病院機構による自己評価		市長による評価	
	年度計画	評価理由等	記号	評価理由・コメント等	記号
(2) 安佐市民病院	(2) 安佐市民病院				
<u>ア 救急医療の提供（小項目）</u> ・ 県北西部地域等の救急医療体制の実態を踏まえ、引き続き実質的な三次救急医療を提供します。 ・ 医師会が運営する夜間急病センターとの連携、協力の下、一次救急医療の提供体制の適切な運営に努めます。	<u>ア 救急医療の提供（小項目）</u> ・ 県北西部地域等における実質的な三次救急医療を24時間365日体制で提供 ・ 一次救急医療の提供体制の適切な運営（安佐医師会可部夜間急病センターとの連携など） ・ 高齢の救急患者の自立・退院調整に向けた早期介入支援及び介護情報の共有体制強化（医療ソーシャルワーカー、退院調整看護師、医療クラークの配置等）	【実質的な三次救急医療を24時間365日体制で提供】 ○ 県北西部地域等における実質的な三次救急医療を24時間365日体制で提供し、令和3年度は、救急車5,028台、救急患者10,927人を受け入れた 【一次救急医療の提供体制の適切な運営】 ○ 令和3年度に安佐市民病院が受け入れた一次救急患者数は、1日当たり2.4人で、安佐医師会可部夜間急病センター開設以前の平成22年度の4.5人と比べ2.1人減となった。また、同センターが受け入れた令和3年度の1日当たりの患者数は新型コロナウイルス感染症の影響もあり2.4人と減少したが、同センターと連携して適切に運営を行った。 【高齢救急患者への早期介入支援及び介護情報の共有体制強化】 ○ 救急外来（中央処置室）に救急担当の医療ソーシャルワーカーが平日の日中に常駐し、高齢の救急患者の生活背景、社会資源利用の有無などを情報収集するとともに、速やかにケアマネージャーと連携して入院時からの早期退院支援を行った。 また、入院後は病棟担当の医療ソーシャルワーカーと退院調整看護師が情報共有し、円滑なベッドコントロールを行うPFM（Patient flow management）の推進により、患者及び家族が満足する医療・介護を提供しながら、在院日数の短縮を進めた。	3	年度計画を順調に実施しているため、「3」と評価した。	3
<u>イ がん診療機能の充実（小項目）</u> ・ 地域がん診療連携拠点病院として、豊富な治療実績や高度な医療機器を活用し、手術や化学療法、放射線治療を適切に組み合わせた集学的治療、緩和ケアを行います。 ・ PET-CT（陽電子断層撮影・コンピュータ断層撮影複合装置）や低被ばくCTを活用し、精度の高い	<u>イ がん診療機能の充実（小項目）</u> ・ 手術や化学療法、放射線治療を適切に組み合わせた集学的治療と緩和ケアの実施 ・ 乳がん診療の充実	【手術や化学療法、放射線治療を適切に組み合わせた治療と緩和ケアの実施】 ○ キャンサーボードを毎週開催し（令和3年度15件）、手術や化学療法、放射線治療などについて協議し、これらを適切に組み合わせた治療と緩和ケアを着実に行った。また、月に数回、院外専門家の意見を聴きながら実施した。 ○ 特に外来での化学療法については、手術や入院治療に比べ患者の負担が軽減されることや新しい薬剤の登場により適用対象が拡大したことから、積極的に取組んでおり、令和3年度の延べ件数は7,204件と令和2年度の6,784件から420件増加した。 【乳がん診療の充実】 ○ 女性職員による外来診療体制を充実強化するため、令和3年度に乳腺専門	4	化学療法や最新の機器による診断に積極的に取り組み、さらに女性医師の増員や女性専用病棟の設置による入院環境の整備など、年度計画を上回っていると認められるため、「4」と評価した。	4

中期計画	令和3年度	地方独立行政法人広島市立病院機構による自己評価		市長による評価	
	年度計画	評価理由等	記号	評価理由・コメント等	記号
診断を行います。		<p>の女性医師を1名増員し、超音波及び乳腺撮影の検査を行った。また、女性患者の専用病棟を設置し、入院環境を整備した。なお、当院の乳がん登録については、新型コロナウイルス感染症などの影響により、令和3年度が129件となり、令和2年度の127件と比べて、僅かな増加にとどまった。</p> <p>・MRI対応3D超音波診断装置による前立腺ガンの安全かつ効率的な診断</p> <p>・AIを活用した大腸内視鏡検査での診断精度向上と検査医の負担軽減</p> <p>・精密検査から治療までのワンストップ二次精密健診の検討</p> <p>・健診者からのWeb予約による二次検査・治療体制の充実</p> <p>・外来化学療法センターの機能充実（治療ベット数の増加等）</p> <p>・PET-CT（陽電子断層撮影・コンピュータ断層撮影複合装置）や低被ばくCTを活用した精度の高い診断の実施</p>			
		<p>【MRI対応3D超音波診断装置による前立腺ガンの安全かつ効率的な診断】</p> <p>○ 早期癌に対する病変の同定が確実にできるMRI対応3D超音波診断装置を令和3年8月に導入（広島県内2施設目）し、令和3年度末までに70例を行った。</p> <p>【AIを活用した大腸内視鏡検査での診断精度向上と検査医の負担軽減】</p> <p>○ AIの活用により大腸腫瘍発見率が10%向上した。更に、内視鏡経験が長い検査医のAI活用は大腸腫瘍発見率が高くなり、負担軽減につながっている。</p> <p>【精密検査から治療までのワンストップ二次精密健診の検討】</p> <p>○ ワンストップ二次精密検査を令和3年度に262件（肺がん24件、肝がん41件、乳がん35件、胃がん36件、大腸がん126件）実施した。そのうち、治療が必要な件数は50件（肺がん1件、肝がん1件、乳がん2件、胃がん1件、大腸がん45件）であった。</p> <p>【健診者からのWeb予約による二次検査・治療体制の充実】</p> <p>○ 乳がん、肺がん、肝がん、胃癌、大腸がんに係る健診者の二次精密検査について、Webを用いた予約体制を構築した。</p> <p>【外来化学療法センターの機能充実（治療ベット数の増加等）】</p> <p>○ 外来化学療法センターでの治療患者数増加に対応するため治療ベッド数を13ベッドから15ベッドに増床した。また、治療中の患者の採血を同センターで行うことにより業務の円滑化及びサービスの向上を図った。</p> <p>【PET-CTや低被ばくCTを活用した精度の高い診断の実施】</p> <p>○ 令和3年度は、PET-CTの撮影を1,295件、CT（PET-CTを除く。）の撮影を30,786件行い、がんの早期発見、転移や再発について、精度の高い診断を行った。</p>			

中期計画	令和3年度	地方独立行政法人広島市立病院機構による自己評価		市長による評価	
	年度計画	評価理由等	記号	評価理由・コメント等	記号
	<ul style="list-style-type: none"> 化学療法患者に対する歯科・歯科連携の実施 がんゲノム診療科を中心としたがんゲノム医療の提供 	<p>【化学療法患者の顎骨壊死の早期発見を目指した歯科連携の実施】</p> <p>○ 平成30年4月1日より、骨吸収抑制薬使用患者の地域連携バスの運用を開始しており、安佐市民病院で口腔管理を行っている患者数は132人で、令和3年度はそのうち4人について地域の歯科医院と連携を実施した。また、院内で6人の顎骨壊死を早期に発見することができた。</p> <p>【がんゲノム診療科を中心としたがんゲノム医療の提供】</p> <p>○ 令和2年4月から「がんゲノム診療科」を開設し、がんゲノム医療を提供している。令和3年度はパネル検査提出45件、解析成功率96%(43件)、推奨治療提示31件、推奨治療実施件数6例(治療到達率14%)であった。また、二次的所見から遺伝カウンセリングが推奨された8例のうち2例のカウンセリングを実施した。</p>			
<p>ウ 災害医療の提供(小項目)</p> <ul style="list-style-type: none"> 災害拠点病院として、地震や台風等の自然災害、大規模火災等の都市災害に備え、自家発電設備等のライフライン機能の維持、医薬品の備蓄等を行い、災害時に、迅速かつ適切な医療提供ができる体制を確保します。 災害その他の緊急時には、広島市地域防災計画等に基づき、広島市長からの求めに応じて適切に対応するとともに、自らの判断で医療救護活動を行います。 DMATの派遣要請に基づき、被災地へ医師等を派遣し、被災地の医療活動を支援します。 	<p>ウ 災害医療の提供(小項目)</p> <ul style="list-style-type: none"> 災害拠点病院としてのライフライン機能の維持、医薬品の備蓄等 災害時に迅速かつ適切な医療提供ができる体制を確保するため、業務継続計画(BCP)に基づく研修・訓練の実施 災害その他の緊急時における適切な医療救護活動の実施 DMATの派遣要請に基づき被災地へ医師等の派遣 	<p>【災害拠点病院としてのライフライン機能の維持、医薬品の備蓄等】</p> <p>○ 災害時に備え、自家発電設備等のライフライン機能の維持、医薬品の備蓄等に努め、災害時に、迅速かつ適切な医療提供ができる体制を維持した。</p> <p>【業務継続計画(BCP)に基づく研修・訓練の実施】</p> <p>○ 新型コロナウイルス感染症の影響により大規模な研修や訓練を実施することは困難であったが、計画に基づき小規模な人員で実施した。</p> <p>【災害その他の緊急時における医療救護活動の実施】</p> <p>○ 令和3年度は、災害支援ナースとして7人の登録となった。</p> <p>○ 令和3年度の医療救護活動の実績はなかったが、広島県主催によるDMAT(災害派遣医療チーム)の研修に医師、看護師及び業務調整員(事務職)が参加した。</p> <p>【DMATの派遣】</p> <p>○ 令和3年度は派遣要請が無かったため、活動の実績はなかった。また、新型コロナウイルス感染症により活動が制約される中、DMAT隊員を中心とした災害対策チーム会において、災害対策の検討などの取組を行った。</p>	3	<p>年度計画を順調に実施しているため、「3」と評価した。</p>	3

中期計画	令和3年度	地方独立行政法人広島市立病院機構による自己評価		市長による評価	
	年度計画	評価理由等	記号	評価理由・コメント等	記号
<u>エ ヘき地医療の支援（小項目）</u> ・ヘき地医療拠点病院として、市北部地域のみならず、県北西部地域等の医療状況等に応じて、引き続き医師の派遣に取り組みます。 ・県北西部地域等の医療従事者に対する研修の提供やWEB会議システムの活用により診療の質の向上を支援するとともに、交流の場を提供します。	<u>エ ヘき地医療の支援（小項目）</u> ・「広島県北西部地域医療連携センター」において、地域の医療提供体制維持の後方支援の継続と、多職種の人材育成の推進 ・ICT技術を活用した遠隔画像読影の推進	【地域の医療提供体制維持の後方支援と人材育成の推進】 ○ 令和元年9月に広島県北西部地域医療連携センターの運営を開始し、研修や派遣等の支援を充実させた。具体的には、令和2年12月から、芸北地域の医師会（安佐医師会、安芸高田市医師会、山県郡医師会）で、総合医として地域医療を支える若い医師を対象に、外部講師に依頼してオンラインで研修会を実施し、人材育成の推進を図った。 また、安芸太田病院に宿直支援を実施し、安芸太田病院、豊平診療所、雄鹿原診療所、市立三次中央病院、庄原赤十字病院、公立邑智病院に、医師派遣を実施した。 さらに安芸太田病院に対して広島大学ふるさと枠医師派遣による専門医研修を行っており、毎週、Webカンファレンスによる診療支援を実施している。なお、同院には医師だけでなく、看護師、薬剤師、理学療法士などの多職種の視察、交流を行いながら、実施可能な支援を行っている。 【ICT技術を活用した遠隔画像読影の推進】 ○ 安芸太田病院の遠隔画像読影を1日2件から6件実施した。令和3年度は総数510件の遠隔読影を行い、令和2年度の156件と比べて大きく増加した。	3	年度計画を順調に実施しているため、「3」と評価した。	3
<u>オ 低侵襲手術の拡充等（小項目）</u> 内視鏡下手術用ロボット「ダヴィンチ」を活用した手術の対象領域の拡大や心臓手術における小切開手術など患者の身体的負担が少ない手術の拡充と日帰り手術の推進等を行います。	<u>オ 低侵襲手術等の拡充（小項目）</u> ・内視鏡下手術用ロボットを活用した手術の対象領域の拡大及び啓発・広報活動の強化 ・MICS（小切開低侵襲心臓手術）、自己心膜を用	【内視鏡下手術用ロボットを活用した手術件数の増加】 ○ 令和3年度は泌尿器科領域において、腎がん22件、前立腺がん97件、膀胱がん13件のロボット支援下手術を実施した（令和2年度は腎がん17件、前立腺がん83件、膀胱がん12件実施）。 ○ 令和元年6月に胃がんに対する腹腔鏡下胃全摘、令和元年12月に直腸がんに対する腹腔鏡下直腸切除・切断術の内視鏡下手術用ロボットの施設認定が完了し、保険適用となった各手術を引き続き実施した（令和3年度末時点で胃がん延べ42件、直腸がん延べ66件実施）。 ○ 令和3年1月に子宮腫瘍に対する腹腔鏡下腔式子宮全摘の内視鏡下手術用ロボットの施設認定が完了し、保険適用となった（令和3年度末時点で延べ23件実施）。 【MICS（小切開低侵襲心臓手術）、自己心膜を用いた大動脈弁形成術の推進】 ○ 令和3年度に行った心臓弁膜症に対する手術30件のうち、大動脈弁疾患と	3	年度計画を順調に実施しているため、「3」と評価した。	3

中期計画	令和3年度	地方独立行政法人広島市立病院機構による自己評価		市長による評価	
	年度計画	評価理由等	記号	評価理由・コメント等	記号
	<p>いた大動脈弁形成術の推進</p> <p>・経口消化管内視鏡による内視鏡的全層切除術の推進</p> <p>・腹腔鏡、胸腔鏡を用いた低侵襲手術の推進</p> <p>・プロクター制度（ロボット支援手術の指導医認定制度）に則ったロボット手術術者の育成</p>	<p>僧帽弁疾患がそれぞれ15件ずつあった。このうち大動脈弁疾患については自己心膜を用いた大動脈弁形成術を4件、僧帽弁疾患についてはMICSを8件実施した。</p> <p>【経口消化管内視鏡による内視鏡的全層切除術の推進】</p> <p>○ 胃粘膜下腫瘍（SMT）に対して経口消化管内視鏡による内視鏡的全層切除術を2例実施した。</p> <p>【腹腔鏡、胸腔鏡を用いた低侵襲手術の推進】</p> <p>○ 低侵襲手術を推進するため、呼吸器外科（187件）、食道外科（7件）領域では、ほぼ全例で胸腔鏡を用いた手術とし、腹部手術（1,573件）では腹腔鏡を使用した手術を528件実施した。また、ロボット支援手術では適応症例を拡大し、泌尿器科（前立腺癌95件、腎癌32件、膀胱癌13件）、消化器外科（胃癌24件、直腸癌40件）の症例が増加している。産婦人科では、子宮良性疾患手術（12件）に加えて、令和3年度は子宮体癌に対する手術（10件）を開始した。新病院においては、食道癌、肺癌、縦隔腫瘍、膵臓癌に対する手術が行えるよう準備を進めている。</p> <p>【プロクター制度に則ったロボット手術術者の育成】</p> <p>○ 令和3年度に2名がロボット支援手術プロクター資格を取得するとともに、2名のロボット手術術者を新たに育成した。</p>			
<p><u>カ 新病院での新たな取組の検討（小項目）</u></p> <p>新病院における高度で先進的な医療の実施・拡充等を検討するとともに、その体制づくりや関連業務の検討を行います。</p>	<p><u>カ 新病院での新たな取組の検討（小項目）</u></p> <p>広島市北部医療センター安佐市民病院開設準備室において、以下の項目を検討及び開設準備</p> <p>・地域救命救急センターの整備</p>	<p>令和2年6月に設置した広島市立北部医療センター開設準備室で検討していた以下の項目について引き続き検討を進めた。また、令和3年11月には、診療機能、患者移送、物品移送、情報管理、電子カルテ運用、全体リハーサルの6つのグループに区分し、移転開設事務を具体的に進めた。</p> <p>【地域救命救急センターの整備】</p> <p>○ 新病院への地域救命救急センター整備に向けて、令和4年2月に救急医1名を増員した。（令和4年度は救急医を2名増員する予定である。）また、広島県とセンター設置の協議を行い、令和4年5月1日付けで設置が認められた。</p>	3	<p>年度計画を順調に実施しているため、「3」と評価した。</p>	3

中期計画	令和3年度	地方独立行政法人広島市立病院機構による自己評価		市長による評価	
	年度計画	評価理由等	記号	評価理由・コメント等	記号
	<ul style="list-style-type: none"> ・外来のセンター化によるチーム医療体制の充実 ・外来予約枠の整理、呼び出しシステム等の導入による「待たせない外来」の実現 ・身体合併症をもつ精神疾患患者に対応する精神病床の整備 ・循環器内科と心臓血管外科が一体となった心臓疾患チーム（ハートチーム）による医療の推進 ・外来で行うがん治療に関する部門を集約して設置される通院治療センターの運用 ・IOTを活用した看護業務の効率化 	<p>【外来のセンター化によるチーム医療体制の充実】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 外来WGにおいて、関連する診療科を7ブロック（脳心血管疾患先進医療センター、整形外科・顕微鏡脊椎脊髄センター、消化器センター、呼吸器センター、感覚器・アレルギーセンター、低侵襲手術センター、通院治療センター）に集約配置し、外来のセンター化を図ることとした。 <p>【呼び出しシステム等の導入による「待たせない外来」の実現】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 外来WGにおいて、外来診察予約基本ルールとして①適正な時間枠と診察患者人数の設定②診療内容により適正な時間枠を確保③再診、地域連携枠、コンサルテーション枠の調整④診察可能開始時間前の予約としない⑤検査部門の連携による患者導線の効率化等を検討し、「待たせない外来」を実現することとした。 <p>【身体合併症をもつ精神疾患患者に対応する精神病床の整備】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 精神科病棟の入院患者像の検討等を行った。 <p>【循環器内科と心臓血管外科の心臓疾患チームによる医療の推進】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 循環器内科・心臓血管外科医師、生理検査技師による心臓血管超音波検査カンファレンスの毎週実施、循環器内科・心臓血管外科・放射線診断科医師、放射線科看護師、臨床工学技士による腹部大動脈瘤に対するステントグラフト内挿術術前カンファレンスの実施により、患者の生活背景や手術時に留意すべき事項を共有している。 <p>【外来で行うがん治療に関する部門の集約及び運用の検討】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ がん治療に関する部門を集約し、複合的な業務を的確に実施できるよう運用等について検討を行った。 <p>【IOTを活用した看護業務の効率化の検討】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 患者の入眠状況の把握により、転倒・転落予防を図ることを目的としたスマートベッドや、タイムリーかつ誤りや漏れのない記録の実現に向けて、患者のバイタルデータ等を自動送信することが可能となるポケットチャートを、新病院のNFC連携機能として導入することを検討した。 			

中期計画	令和3年度	地方独立行政法人広島市立病院機構による自己評価		市長による評価	
	年度計画	評価理由等	記号	評価理由・コメント等	記号
	<ul style="list-style-type: none"> ・ハイブリッド手術室を含む、手術室の効率的な運用 ・新病院で提供する医療に適した医療機器の整備 ・ダウンサイジング後の病棟運用シュミレーション及び運用マニュアルの策定 ・情報システム統合による一元管理、各種医療機器の一元管理の検討 ・救急部門、外来部門から中央処置室への入室に伴う運用の策定 ・画像診断支援を目的としたAI（人工知能画像診断）の導入検討 	<p>【ハイブリッド手術室を含む、手術室の効率的な運用】</p> <p>○ 手術枠の見直し、医師の学会参加などで手術ができない場合の情報共有を行い、予定手術の効率化を図った。手術間のインターバルの短縮、手術の準備等に関するSPD（院内物流管理業務）業者や業務員との協力体制などにより、手術時間を短縮した。</p> <p>【新病院で提供する医療に適した医療機器の整備】</p> <p>○ 医療機器WGにおいて、及び病院長ヒアリングを行い、各部署で整備が必要な機器（手術用ロボット、APシステム等）を確定し、順次、購入・整備した。</p> <p>【ダウンサイジング後の病棟運用シュミレーション及びマニュアルの策定】</p> <p>○ 現病院の病床をダウンサイジングし、新病院の13病棟に分割するため、各科の将来患者像・患者数動向をシュミレーションし、各病棟を救急疾患患者対応病棟、予定手術患者対応病棟、がんの放射線・薬物療法に対応する病棟などに機能分化し、必要な人員配置と運用マニュアルを策定した。</p> <p>【情報システム統合による一元管理、各種医療機器の一元管理の検討】</p> <p>○ 統合診療支援プラットフォーム(CITA Clinical Finder)を導入し、電子カルテ、放射線、内視鏡など病院内の各システムのデータの一元化を図った。 今後、院内にある全ての『超音波診断装置』についても臨床検査部で一元管理を行い、稼働率の把握などを実施していく。</p> <p>【救急部門、外来部門から中央処置室への入室に伴う運用の策定】</p> <p>○ 救急患者は中央処置室で診療を行っているため、平日の日中は内科医による救急総合診療部体制を整備している。 このため、外来受診患者で処置が必要となった患者については中央処置室で処置を行い、緊急内視鏡や血管内治療が必要な患者については中央処置室から各部門へ搬送し緊急治療の後に入院病棟へ申し送りしている。 また、令和3年度は新型コロナウイルス感染症予防のため、レッドゾーン、グリーンゾーンに分け、外来受診患者も含めて診察する運用で院内クラスター発生を防止してきた。</p> <p>【画像診断支援を目的としたAI（人工知能画像診断）の導入検討】</p> <p>○ 新病院の新しい画像サーバーに対応させるため、Deep Learning 技術等を利用したAI診断が可能なシステムを導入することとした。</p>			

中期計画	令和3年度	地方独立行政法人広島市立病院機構による自己評価		市長による評価	
	年度計画	評価理由等	記号	評価理由・コメント等	記号
	<p>キ その他(小項目)</p> <p>(7) リハビリテーションの充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高度急性期病院としてのリハビリテーションの提供 ・転倒転落及び窒息、誤嚥に対する早期介入 ・医師、看護師等の多職種が共同して作成するリハビリテーション総合計画の積極的な活用 	<p>【高度急性期病院としてのリハビリテーションの提供】</p> <p>○ リハビリテーション処方書の翌日までにほぼ全ての患者への早期介入が実施できる体制を整えている。また、ICU病棟及び循環器病棟には専従・専任理学療法士を配置し重症患者に対する多職種協働による早期リハビリテーションを実施している。各病棟には窓口担当療法士を配置し、リハビリテーションに関する医師、看護師等からの相談等を受けやすい環境を築いている。</p> <p>【転倒転落及び窒息、誤嚥に対する早期介入】</p> <p>① 転倒・転落予防</p> <p>全ての転倒・転落事例の分析を行い、再発予防策を科内会議で検討した。定期的な「転倒・転落ニュース」、必要に応じた病棟看護師とのカンファレンスを通じて、安全な療養環境の設定を提案している。また、「標準予防策」を策定し、全病院職員に周知し、転倒・転落予防に努めた。結果、令和3年度は、事象レベル3b(骨折など)以上の発生は、昨年度より減少した(11件→9件)。転倒・転落発生率は令和3年4月に0.44%であったのが3月には2.5%に低下した。</p> <p>② 誤嚥・窒息予防</p> <p>緊急入院患者に対して、嚥下障害のリスク判定を医師、看護師が実施し、嚥下造影検査(VF)を行う「レッド」、スクリーニング検査を行う「イエロー」、「リスクなし」に3分類化した。</p> <p>言語聴覚士が介入したVF対応の結果、年間VF件数は1,789件となり、過去5年間毎年発生していたレベル3a(中等度)以上の重大な事故は起こっておらず、入院後の食事が原因で誤嚥性肺炎を発症したのは1例のみ、レベル2(軽度)の窒息事例は2例であった。</p> <p>【リハビリテーション総合計画の積極的な活用】</p> <p>○ 入院早期の段階で各科ごとにカンファレンスを実施し、多職種で共同して急性期から回復期、維持期、自宅までを見越した計画書を作成している。作成した計画書は療法士が家族に説明している。</p>	3	年度計画を順調に実施しているため、「3」と評価した。	3

中期計画	令和3年度	地方独立行政法人広島市立病院機構による自己評価		市長による評価	
	年度計画	評価理由等	記号	評価理由・コメント等	記号
	(i) 専門外来の実施 ・医療ニーズに応じた専門外来の実施（特定行為看護師の専門外来の実施） ・薬剤師外来実施に向けての取組	【医療ニーズに応じた専門外来の実施】 ○ 特定行為研修修了者による糖尿病患者へのインスリン量の調整及び療法指導を毎週木曜日に実施した。令和3年度の実施患者数は172人、延べ実施回数は592回であった。また、認定看護師によるがん患者の指導相談939件、助産師による助産外来222件、認定看護師による専門外来として、ストーマ外来340件、もの忘れ外来515件、心不全外来136件、リンパ浮腫外来86件（病棟往診を含む）を実施した（令和2年度は、糖尿病患者へのインスリン量の調整及び療法指導実施患者は、132人、延べ実施回数538件、がん患者の指導相談842件、助産外来201件、ストーマ外来339件、もの忘れ外来446件、心不全外来106件、リンパ浮腫外来61件（病棟往診を含む））。 【薬剤師外来実施に向けての取組】 ○ がん専門薬剤師及び認定薬剤師が空きスペースを利用して822件（令和2年度は804件）の患者に指導を行った また、週1回月曜日の午前中に医師の診察前に患者面談を行う「薬剤師外来」を160件行った。			
	(ii) 地域講演会の実施 ・アドバンス・ケア・プランニングに関する地域講演会の開催継続 ・各診療科による情報発信のための講演会の開催（オンラインでも参加できるハイブリッド形式の実施）	【アドバンス・ケア・プランニングに関する地域講演会の開催】 ○ アドバンス・ケア・プランニングに関する医療従事者向けの講演会を令和3年7月13日にWeb開催した。 ※ アドバンス・ケア・プランニング：患者本人と家族が医療者や介護提供者などと一緒に、現在の病気だけでなく、将来、意思決定能力が低下する場合に備えて、あらかじめ、終末期を含めた今後の医療や介護について話し合うことや、意思決定が出来なくなったときに備えて、本人に代わって意思決定をする人を決めておくプロセス 【各診療科による情報発信のための講演会の開催】 ○ 各診療科からの情報発信としてオンラインで参加が可能な講演会（ハイブリッド形式）を定期的に開催している。			
	(iii) 栄養管理の充実 ・入院前からの適切な栄養摂取のための栄養指導介入	【入院前からの適切な栄養摂取のための栄養指導介入】 ○ 侵襲の大きな術前の患者や入院前の高血糖状態など栄養管理が必要な患者			

中期計画	令和3年度	地方独立行政法人広島市立病院機構による自己評価		市長による評価	
	年度計画	評価理由等	記号	評価理由・コメント等	記号
	<ul style="list-style-type: none"> ・退院後の栄養指導の実施 ・低栄養対策の栄養指導の強化 (イ) 新型コロナウイルス感染症への対応 ・感染症協力医療機関としての新型コロナウイルス感染症への適切な対応 	<p>について、栄養室が介入し、栄養管理の必要性の説明や食事接種方法の提案を行った。</p> <p>【退院後の栄養指導の実施】</p> <p>○ 主に胃や腸の切除後での入院時栄養指導を行っている患者は、退院後、初回時の外来に食事摂取状況の確認等の栄養指導を実施している。また、他の疾患においても必要に応じて指導を行っている。</p> <p>【低栄養対策の栄養指導の強化】</p> <p>○ 入院時の栄養管理計画書で患者の抽出を行い、必要時に病棟訪問、食事調整等を実施している。外来時も医師や患者からの依頼により、個々の状態に合わせた栄養摂取の方法を提案している。</p> <p>【新型コロナウイルス感染症への適切な対応】</p> <p>○ 新型コロナウイルス感染症の対応として入院診療、CTトリアージ外来、発熱外来（休日・夜間の新型コロナウイルス感染症患者入院受入医療機関）、職員発熱外来を実施した。</p> <p>地域住民、職員に対して安佐医師会、広島県看護協会、安佐薬剤師会と協力してワクチン接種を積極的に実施した。</p>			

第1 市民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置

1 市立病院として担うべき医療

(3) 舟入市民病院

中期目標	ア 小児救急医療等、小児専門医療 小児救急医療拠点病院として、小児科の24時間365日救急診療を行うとともに、初期救急医療機関及び二次救急医療機関としての医療を提供すること。また、年末年始救急診療等を引き続き実施するとともに、小児診療に特長のある病院として小児心療科等の小児専門医療の充実を図ること。
	イ 感染症医療 広島二次保健医療圏における第二種感染症指定医療機関として、引き続き感染症患者の受入体制を維持すること。
	ウ 障害児(者)医療 医療的なケアが必要な重症心身障害児(者)の受入体制の充実を図るとともに、障害児(者)に対する診療相談機能を整備すること。

中期計画	令和3年度	地方独立行政法人広島市立病院機構による自己評価		市長による評価	
	年度計画	評価理由等	記号	評価理由・コメント等	記号
(3) 舟入市民病院	(3) 舟入市民病院				
<u>ア 小児救急医療の提供(小項目)</u> ・小児科の24時間365日救急診療を安定的に提供するため、引き続き、医師会、広島大学等の協力を得るとともに、市立病院間の応援体制の強化に取り組みます。また、重篤な小児救急患者の円滑な搬送を行うため、三次救急医療機関との連携を図ります。 ・トリアージナースの能力向上を図り、診療体制の強化に取り組みます。	<u>ア 小児救急医療の提供(小項目)</u> ・小児救急医療を24時間365日体制で提供 ・市立病院間の応援体制の整備及び三次救急医療機関との連携 ・トリアージナースの能力向上のための研修実施	【小児救急医療を24時間365日体制で提供】 ○ 令和3年度においても、医師会や広島大学等の協力を得て、24時間365日体制で小児救急医療を実施した。 【市立病院間の応援体制の整備及び三次救急医療機関との連携】 ○ 小児救急医療の実施に当たっては、市立病院間の応援体制を整えるとともに、重篤で高度医療が必要な患者については、広島大学病院などの三次救急医療機関に搬送し(26人)、一方で三次救急医療機関からも積極的に受け入れる(28人)などの連携を図った。 【トリアージナースの能力向上のための研修実施】 ○ 令和3年度においても、トリアージナース育成に関する研修やフォローアップ研修などを実施し、トリアージナースの能力の向上を図った。	3	年度計画を順調に実施しているため、「3」と評価した。	3

中期計画	令和3年度	地方独立行政法人広島市立病院機構による自己評価		市長による評価	
	年度計画	評価理由等	記号	評価理由・コメント等	記号
<u>イ 小児専門医療の充実（小項目）</u> 小児心療科において、精神療法等の個人療法やグループで治療を行う集団療法に加え、未治療者や治療中断者の重症化防止のための支援について検討を行います。また、小児科のアレルギー外来と連携し、アトピー疾患専門医による診療の充実を図ります。	<u>イ 小児専門医療の充実（小項目）</u> ・小児科入院患者に対する小児心療科のフォロー体制の充実に向けた検討	【小児科入院患者に対する小児心療科のフォロー体制の充実に向けた検討】 ○ 小児科入院患者に対し、科内カンファレンスや病棟カンファレンスを実施し、小児科医と病棟スタッフとの連携を行った。 ○ また、広島大学病院皮膚科のアトピー疾患専門医により、週1日の外来診療を行った。患者への細やかな外用薬の使用指導や院内小児科と連携した診療を行った。	3	年度計画を順調に実施しているため、「3」と評価した。	3
<u>ウ 感染症医療の提供（小項目）</u> ・第二種感染症指定医療機関として、重症急性呼吸器症候群（SARS）や新型インフルエンザ等の感染症患者への対応が迅速に行えるよう、平常時から医療体制を維持するとともに、感染症発生時には、市立病院を始めとする市内の関連病院と連携して対応します。 ・感染症専門資格の取得など教育研修への参加を促進し、職員の専門性の向上を図ります。	<u>ウ 感染症医療の提供（小項目）</u> ・第二種感染症指定医療機関としての病院運営 ・感染症医療に関する専門性の向上	【第二種感染症指定医療機関としての病院運営】 ○ 第二種感染症指定医療機関として、新型コロナウイルス感染症の発生に伴い、県や市、近隣の病院等と連携し、受入体制を強化した。 感染症患者の増加に伴い、6階病棟のみでなく5階病棟もコロナ対応として運営（令和3年5月18日～6月17日）し、受け入れ病床を拡大（34床→64床）して対応した。また、受入体制を強化するため、手術、原爆ドック、障害児者レスパイトに関しては、人数制限を行い対応するとともに、コロナ陽性者や発熱外来の受診者が増加した際には、一般患者の感染のリスクを考慮し、内科外来を2階の旧健康管理センターで、外科外来を5階病棟（5階病棟閉鎖時）で行った。 令和3年度は、新型コロナウイルス感染症の入院実患者1,145人、延べ入院患者7,689人（疑い患者を含む。）を受け入れた。 【感染症医療に関する専門性の向上】 ○ 感染制御認定薬剤師（BCPIC）の資格の取得又は更新をするため、感染制御専門薬剤師講習会へ2人参加した。 また、抗菌化学療法認定薬剤師の資格取得のため、抗菌化学療法認定薬剤師講習会へ2人参加したほか、医師1人、看護師1人が日本環境感染症学会学術講演会等にオンラインで参加した。	5	新型コロナウイルス感染拡大時には、感染症患者の受入病床を拡大し、前年度以上に多くの患者に対応した。さらに、発熱外来や陽性者外来の受入体制を強化するなど、その取組が年度計画を大幅に上回っていると認められるため、「5」と評価した。	5

中期計画	令和3年度	地方独立行政法人広島市立病院機構による自己評価		市長による評価	
	年度計画	評価理由等	記号	評価理由・コメント等	記号
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 新型インフルエンザ等対策マニュアルの運用 ・ 渡航者外来の運用 ・ 新型コロナウイルスの感染症患者への適切な対応 	<p>【新型インフルエンザ等対策マニュアルの運用】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 呉港湾新型インフルエンザ検疫措置訓練を毎年実施していたが、新型インフルエンザ等対策マニュアルの連絡・搬送等の確認を書面で開催し、資料提供により確認した。 ○ 新型コロナウイルス感染症の発生に伴い、令和2年1月から対応の検討を開始した。保健所と対応方針の確認を行った後に、院内で検討を重ね、同年1月30日に新型コロナウイルス感染症対策マニュアルを作成し、受入れ準備を行った。 以降、令和2年3月25日までに初期対応マニュアル（Ver.2-4）、同年8月21日までに蔓延期以降マニュアル（Ver.3-4）を改訂した。最終更新は令和4年2月8日（職員の接触者及び感染者への対応）、厚生労働省事務連絡等最新情報をマニュアルに追加し職員へ周知徹底した。 <p>【渡航者外来の運用】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 令和2年7月から実施しているビジネス渡航者に対する新型コロナウイルス感染症のPCR検査と証明書の発行を引き続き行った。 （令和3年4月～令和4年3月 PCR検査数：88件） <p>【新型コロナウイルスの感染症患者への適切な対応】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 感染拡大時には自宅・ホテル療養者等の症状悪化を防ぐため、発熱外来やコロナ陽性者外来の受入体制を強化した。それらに加え、濃厚接触者が増えてきたことから病院玄関前エリアに屋外テントを設置（テント設置は令和4年1月18日から2月22日まで）し、濃厚接触者外来を行った。 			
<u>工 病院機能の有効活用（小項目）</u> <ul style="list-style-type: none"> ・ 広島市民病院からの手術症例の受入れ強化を行うとともに、地域住民の緊急時の受入れ強化等に取り組みます。 ・ 法人における外科系研修医師の手術教育施設（トレーニング）として、良性疾患を中心とした手術 	<u>工 病院機能の有効活用（小項目）</u> <ul style="list-style-type: none"> ・ 救急患者やMRI検査を待つ患者等の積極的な受入れや手術教育施設としての外科系研修医の受入れなど広島市民病院との連携強化 	<p>【広島市民病院との連携強化】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 広島市民病院から急性期医療を終えた紹介患者を74人受け入れるとともに、地域の医療機関からの紹介患者についても受入手順を効率化し、積極的に受け入れた。 こうした広島市民病院をはじめとする医療機関からの受入れを推進するため、診療科医師や看護師等による医療連携運用会議を毎月開催し、入院患者の入退院状況の把握、調整に努め、運用体制の強化を図った。 しかし、小児科を除く内科・外科の病床利用率は、一般患者の減少とともに、新型コロナウイルス感染症に関連する患者を受け入れるために病棟閉鎖を行 	3	新型コロナウイルス感染症患者受入病床を除いても、病床利用率が年度計画を下回っているため、「2」と評価した。	2

中期計画	令和3年度	地方独立行政法人広島市立病院機構による自己評価			市長による評価																												
	年度計画	評価理由等			記号	評価理由・コメント等	記号																										
<p>を行います。</p> <p>【目標値】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>平成28年度実績</th> <th>令和3年度目標値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>病床利用率(%)</td> <td>82.9</td> <td>85.0</td> </tr> </tbody> </table> <p>※病床利用率は、小児科病床を除く内科、外科の病床利用率</p>	区分	平成28年度実績	令和3年度目標値	病床利用率(%)	82.9	85.0	<p>【目標値】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>令和3年度目標値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>病床利用率(%)</td> <td>77.9</td> </tr> </tbody> </table> <p>※病床利用率は、小児科病床を除く内科、外科の病床利用率 ※新型コロナウイルス感染症の影響を考慮し目標値を設定（以下の目標値において同じ。）</p>	区分	令和3年度目標値	病床利用率(%)	77.9	<p>うなど、一般の入院患者の抑制を行ったこと等により、年間平均では52.5%と目標の77.9%を下回った。</p> <p>○ コロナ禍の下、患者数の減により病床利用率は目標値を下回ったものの、広島市民病院をはじめ、他の医療機関が円滑な通常診療ができるよう自宅・ホテル療養中の陽性者に対する診療やコロナ疑い患者に対する検査を引き受けるとともに「休日夜間のコロナ受け入れ輪番」に年間を通じて積極的に協力するなど、舟入市民病院の有する病院機能を最大限活用した。</p> <p>○ 広島市民病院との間で共通の電子カルテシステムを使った、MRI検査の予約を行い、令和3年度は、検査を201件受け入れた（令和2年度は155件）。</p> <p>【実績】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>平成29年度実績</th> <th>平成30年度実績</th> <th>令和元年度実績</th> <th>令和2年度実績</th> <th>令和3年度実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>病床利用率(%)</td> <td>76.1</td> <td>76.8</td> <td>73.4</td> <td>51.0</td> <td>52.5</td> </tr> </tbody> </table> <p>※病床利用率は、小児科病床を除く内科、外科の病床利用率（新型コロナウイルス感染症患者を含む）</p> <p>【参考】新型コロナウイルス感染症患者受入病床等を除いて算出した病床利用率（単位：%）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>令和2年度実績</th> <th>令和3年度実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>病床利用率(%)</td> <td>74.8</td> <td>67.2</td> </tr> </tbody> </table>	区分	平成29年度実績	平成30年度実績	令和元年度実績	令和2年度実績	令和3年度実績	病床利用率(%)	76.1	76.8	73.4	51.0	52.5	区分	令和2年度実績	令和3年度実績	病床利用率(%)	74.8	67.2			
区分	平成28年度実績	令和3年度目標値																															
病床利用率(%)	82.9	85.0																															
区分	令和3年度目標値																																
病床利用率(%)	77.9																																
区分	平成29年度実績	平成30年度実績	令和元年度実績	令和2年度実績	令和3年度実績																												
病床利用率(%)	76.1	76.8	73.4	51.0	52.5																												
区分	令和2年度実績	令和3年度実績																															
病床利用率(%)	74.8	67.2																															
<p>オ 障害児（者）診療相談機能の充実（小項目）</p> <p>医療型重症心身障害児（者）短期入所利用者数の拡大を図り、障害児（者）への対応に関し知識・技術を持った職員の育成を行うなど、障害児（者）の診療相談機能の充実を図ります。</p>	<p>オ 障害児（者）診療相談機能の充実（小項目）</p> <ul style="list-style-type: none"> 医療型重症心身障害児（者）短期入所利用者数の拡大 障害児（者）への対応に関し知識・技術を持った職員の育成 	<p>【医療型重症心身障害児（者）短期入所利用者数の拡大】</p> <p>○ 医療型重症心身障害児（者）の短期入所利用者は延べ441人であった。新型コロナウイルス感染症に関連する患者を受け入れるために、令和3年5月17日～6月17日及び令和4年1月21日～3月17日の間はレスパイトの受け入れを1床に減らしたが、利用者は令和2年度に比べて延べ194人増加した。</p> <p>【障害児（者）への対応に関し知識・技術を持った職員の育成】</p> <p>○ 協会や研修会はオンラインで参加した。訪問看護ステーションなどとは交流を図り、知識を深めた。また施設見学は、1施設から依頼があり見学を受け入れた。</p>	3	年度計画を順調に実施しているため、「3」と評価した。	3																												

中期計画	令和3年度	地方独立行政法人広島市立病院機構による自己評価		市長による評価							
	年度計画	評価理由等	記号	評価理由・コメント等	記号						
		○ 院内においてレスパイト関係者会議や実務者会議を行い、情報を共有した。									
<p><u>カ 人間ドックの充実（小項目）</u></p> <p>市民の健康保持・増進等の観点から人間ドックの充実を図るとともに、特定健康診査・特定保健指導の実施体制を構築します。また、人間ドック機能評価の受審に向けて取組を進めます。</p> <p>【目標値】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>平成28年度実績</th> <th>令和3年度目標値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>人間ドック健診者数（人）</td> <td>2,131</td> <td>5,000</td> </tr> </tbody> </table> <p>※平成28年度実績は被爆者健康診断を除いた人数</p>	区分	平成28年度実績	令和3年度目標値	人間ドック健診者数（人）	2,131	5,000					
区分	平成28年度実績	令和3年度目標値									
人間ドック健診者数（人）	2,131	5,000									

第1 市民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置

1 市立病院として担うべき医療

(4) リハビリテーション病院・自立訓練施設

中期目標	<p>ア リハビリテーション医療 リハビリテーション病院は、脳血管障害や脊髄損傷などによる中途障害者に対して、高度で専門的な回復期リハビリテーション医療を継続的かつ安定的に提供すること。また、急性期病院と連携し、急性期の疾病治療・リハビリテーションと一体的かつ連続的な回復期のリハビリテーションを実施すること。</p> <p>イ 自立訓練 自立訓練施設は、リハビリテーション病院等の医療機関と連携を図りながら、利用者の家庭や職場、地域での生活再構築のための訓練等を行うこと。</p> <p>ウ 相談機能、地域リハビリテーション リハビリテーション病院・自立訓練施設は、関係機関と連携して、利用者からの相談を適切に受けられる体制を強化するとともに、退院・退所後の生活を支援すること。また、地域リハビリテーション活動を支援するなど、本市の身体障害者更生相談所等と連携して、リハビリテーションサービスを総合的かつ一貫して提供すること。</p> <p>エ 災害医療 リハビリテーション病院は、病院の立地条件を生かし、デルタ地帯が被災した場合に備え、他の市立病院のバックアップ機能を強化すること。</p>
------	---

中期計画	令和3年度	地方独立行政法人広島市立病院機構による自己評価		市長による評価	
	年度計画	評価理由等	記号	評価理由・コメント等	記号
(4) リハビリテーション病院・自立訓練施設	(4) リハビリテーション病院・自立訓練施設				
<p><u>ア 総合的なリハビリテーションサービスの提供（小項目）</u> 広島市身体障害者更生相談所、リハビリテーション病院及び自立訓練施設の運営責任者で構成する常設の運営調整会議を設置し、連携の維持を図り、これまでどおり3施設が連携した総合的なリハビリテーションサービスを安定的かつ継続的に提供します。</p>	<p><u>ア 総合的なリハビリテーションサービスの提供（小項目）</u> ・中途障害者の社会復帰、社会参加の促進及び生活の再構築のための一貫したリハビリテーションサービスの提供 ・3施設の運営責任者で構成する連絡会議の実施と連携強化</p>	<p>【総合的なリハビリテーションサービスの提供】</p> <p>○ 脳血管障害や脊髄損傷などによる中途障害者の社会復帰や社会参加を促進するため、高度で専門的な医療と自立のための訓練や相談など、生活の再構築のための一貫したリハビリテーションサービスを提供した。</p> <p>【連絡会議の実施等による3施設の連携強化】</p> <p>○ 3施設の運営責任者で構成する連絡会議の実施や、リハビリテーション病院及び自立訓練施設の各部署の運営責任者等で構成する病院・施設運営会議に広島市身体障害者更生相談所の運営責任者が参加することにより、3施設の連携強化を図った。</p> <p>○ リハビリテーション病院の医師が、広島市身体障害者更生相談所長を兼ね、判定業務などを担当するとともに、自立訓練施設の医師を兼ね、リハビリテーション計画の担当医、相談医を担っている。</p>	3	年度計画を順調に実施しているため、「3」と評価した。	3

中期計画	令和3年度	地方独立行政法人広島市立病院機構による自己評価			市長による評価																																			
	年度計画	評価理由等			記号	評価理由・コメント等	記号																																	
イ 回復期リハビリテーション医療の充実（小項目） ・広島市民病院、安佐市民病院などの急性期病院との連携強化を図り、急性期の疾病治療・リハビリテーションを経過した患者を受け入れ、日常生活機能の向上や社会復帰を目的とした専門的で集中的な回復期のリハビリテーションを継続的・一体的に提供します。 ・退院後の患者を中心に継続的リハビリテーション医療を提供するため、地域医療機関とも連携して、外来リハビリテーションや訪問リハビリテーション・訪問看護など在宅療養への支援の充実を図ります。 【目標値】 <table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>平成28年度実績</th> <th>令和3年度目標値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>患者1人当たりリハビリテーション実施単位数（単位/日）</td> <td>7.9</td> <td>8.4</td> </tr> <tr> <td>在宅復帰率（%）</td> <td>81.8</td> <td>82.0</td> </tr> </tbody> </table> ※在宅復帰率は、全入院患者を対象として算出	区分	平成28年度実績	令和3年度目標値	患者1人当たりリハビリテーション実施単位数（単位/日）	7.9	8.4	在宅復帰率（%）	81.8	82.0	イ 回復期リハビリテーション医療の充実（小項目） ・365日リハビリテーション医療の充実 【目標値】 <table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>令和3年度目標値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>患者1人当たりリハビリテーション実施単位数（単位/日）</td> <td>8.4</td> </tr> <tr> <td>在宅復帰率（%）</td> <td>82.0</td> </tr> </tbody> </table> ※在宅復帰率は、全入院患者を対象として算出 ・急性期病院である広島市民病院及び安佐市民病院との連携強化 ・退院支援と地域連携診療の推進	区分	令和3年度目標値	患者1人当たりリハビリテーション実施単位数（単位/日）	8.4	在宅復帰率（%）	82.0	【365日リハビリテーション医療の充実】 ○ 平日、土日祝日にかかわらず365日切れ目ないリハビリテーション医療を提供するため、平成29年度から土日祝日における療法士の平日並み配置を実施し、効果的な回復期リハビリテーション医療の提供に努めた。患者1人当たりのリハビリテーション実施単位数は8.5単位と、目標の8.4単位を上回り、在宅復帰率は85.6%と、目標値（82.0%）を上回った。 【実績】 <table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>平成29年度実績</th> <th>平成30年度実績</th> <th>令和元年度実績</th> <th>令和2年度実績</th> <th>令和3年度実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>患者1人当たりリハビリテーション実施単位数（単位/日）</td> <td>8.4</td> <td>8.5</td> <td>8.5</td> <td>8.5</td> <td>8.5</td> </tr> <tr> <td>在宅復帰率（%）</td> <td>82.0</td> <td>85.8</td> <td>85.4</td> <td>85.8</td> <td>85.6</td> </tr> </tbody> </table>			区分	平成29年度実績	平成30年度実績	令和元年度実績	令和2年度実績	令和3年度実績	患者1人当たりリハビリテーション実施単位数（単位/日）	8.4	8.5	8.5	8.5	8.5	在宅復帰率（%）	82.0	85.8	85.4	85.8	85.6	3	年度計画を順調に実施しているため、「3」と評価した。	3
	区分	平成28年度実績	令和3年度目標値																																					
患者1人当たりリハビリテーション実施単位数（単位/日）	7.9	8.4																																						
在宅復帰率（%）	81.8	82.0																																						
区分	令和3年度目標値																																							
患者1人当たりリハビリテーション実施単位数（単位/日）	8.4																																							
在宅復帰率（%）	82.0																																							
区分	平成29年度実績	平成30年度実績	令和元年度実績	令和2年度実績	令和3年度実績																																			
患者1人当たりリハビリテーション実施単位数（単位/日）	8.4	8.5	8.5	8.5	8.5																																			
在宅復帰率（%）	82.0	85.8	85.4	85.8	85.6																																			
【広島市民病院及び安佐市民病院との連携強化】 ○ 広島市民病院と安佐市民病院から急性期医療を終えた患者を受け入れ、高度で専門的な回復期リハビリテーション医療を提供した。令和3年度は、新型コロナウイルス感染症が収束しない中、広島市民病院からは168人、安佐市民病院からは112人の入院患者を受け入れ、全入院患者に占める割合も52.6%と、令和2年度の43.4%を上回った。（令和2年度は広島市民病院から130人、安佐市民病院から80人） ○ 広島市民病院及び安佐市民病院の地域連携担当者とそれぞれ協議の場を設け、相互の情報交換や連携強化を図った。また、スムーズな転院受入れのため、令和元年11月から実施している広島市民病院及び安佐市民病院に向けて空床及び待機状況等の情報提供を引き続き行った。 【退院支援と地域連携診療の推進】 ○ 患者が退院後に地域で療養や生活を継続できるよう、患者一人一人に担当の医療ソーシャルワーカーを充てて入院早期から退院支援を行った。また、地域の医療機関等との連携を進めて転院・退院調整の円滑化を図っ																																								

中期計画	令和3年度	地方独立行政法人広島市立病院機構による自己評価		市長による評価	
	年度計画	評価理由等	記号	評価理由・コメント等	記号
	<p>・認知症ケアチームによる認知症を合併した患者のケアの推進</p> <p>・排尿ケアチームによる下部尿路機能障害を有する患者のケアの推進</p> <p>・外来リハビリテーション（言語聴覚療法・理学療法・作業療法）・専門外来の実施</p>	<p>た。</p> <p>○ 地域の医療機関と連携した地域連携診療計画（地域連携クリニカルパス）の運用の拡大に努めた（令和3年度適用件数217件、令和2年度に対し39件増加）。</p> <p>【認知症を合併した患者のケアの推進】</p> <p>○ 身体疾患のために入院した認知症患者に対するケアの質の向上を図るため、入院前の生活状況等を踏まえた看護計画を作成するとともに、多職種による認知症ケアの専門チーム体制を整えてカンファレンス及び病棟ラウンドを週1回実施した。また、認知症ケアに関する研修会を、全職員を対象に実施した。</p> <p>○ 高齢の入院患者の支援として、看護師の入院時スクリーニングで抽出された要支援者について、日常生活能力や認知機能、意欲等を総合的に評価するとともにその評価結果を診療や退院支援に活用する取組を令和2年度から開始し、令和3年度も引き続き実施した。</p> <p>【排尿ケアチームによる下部尿路機能障害を有する患者のケアの実施】</p> <p>○ 下部尿路機能障害を有する患者に対して機能回復のための包括的排尿ケアを提供するため、令和2年11月に設置した排尿ケアチームと当該患者の診療を担う医師、看護師等との連携による排尿ケアを実施した。</p> <p>【外来リハビリテーション・専門外来の実施】</p> <p>○ 退院した患者に継続して外来でのリハビリテーションを提供するため、従来の言語療法に加え、平成28年度から理学療法及び作業療法を開始し、平成29年度から自立訓練施設の利用者を対象に加えるなど、外来リハビリテーションの充実を図ってきた。さらに、平成30年度診療報酬改定により回復期リハビリテーション病棟退院後3か月以内の外来リハビリテーションが可能となり、対象者が拡大したことから、理学療法及び作業療法の実施体制の充実を図った。</p> <p>令和3年度は新型コロナウイルス感染症が収束しない中、5月17日から10月14日の間、外来リハビリテーションの利用制限を行った影響から、同様に外来リハビリテーションを一時休止した令和2年度と同程度の延人数及び実施単位数となった。</p>			

中期計画	令和3年度	地方独立行政法人広島市立病院機構による自己評価					市長による評価																																																																										
	年度計画	評価理由等					記号	評価理由・コメント等	記号																																																																								
		<p>(外来リハビリテーションの実績)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区 分</th> <th>平成29年度</th> <th>平成30年度</th> <th>令和元年度</th> <th>令和2年度</th> <th>令和3年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>言語 延人数</td> <td>2,074人</td> <td>2,327人</td> <td>2,409人</td> <td>2,181人</td> <td>2,293人</td> </tr> <tr> <td>療法 実施単位数</td> <td>6,220単位</td> <td>6,956単位</td> <td>7,209単位</td> <td>6,519単位</td> <td>6,850単位</td> </tr> <tr> <td>理学 延人数</td> <td>623人</td> <td>1,338人</td> <td>1,891人</td> <td>1,699人</td> <td>1,737人</td> </tr> <tr> <td>療法 実施単位数</td> <td>1,916単位</td> <td>4,049単位</td> <td>5,656単位</td> <td>5,074単位</td> <td>5,204単位</td> </tr> <tr> <td>作業 延人数</td> <td>857人</td> <td>1,427人</td> <td>1,885人</td> <td>1,839人</td> <td>1,660人</td> </tr> <tr> <td>療法 実施単位数</td> <td>2,550単位</td> <td>4,271単位</td> <td>5,646単位</td> <td>5,525単位</td> <td>5,052単位</td> </tr> </tbody> </table> <p>○ 高次脳機能障害を有する外来リハビリテーション利用者に対する専門外来、糖尿病足病変等で歩行に支障をきたしている患者に対するフットケア外来、VF検査による摂食嚥下評価を実施した。</p> <p>神経難病患者に対する専門外来については、新型コロナウイルス感染症が収束しない中、短期入院リハビリテーションを利用する神経難病患者が減少した影響により、令和2年度に比べて利用者が減少した。</p> <p>(専門外来の実績(延人数))</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区 分</th> <th>平成29年度</th> <th>平成30年度</th> <th>令和元年度</th> <th>令和2年度</th> <th>令和3年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>高次脳機能障害外来</td> <td>755人</td> <td>829人</td> <td>983人</td> <td>966人</td> <td>1,086人</td> </tr> <tr> <td>フットケア外来</td> <td>65人</td> <td>85人</td> <td>79人</td> <td>68人</td> <td>67人</td> </tr> <tr> <td>神経難病リハ外来</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>37人</td> <td>32人</td> <td>5人</td> </tr> <tr> <td>摂食嚥下評価</td> <td>—</td> <td>3人</td> <td>4人</td> <td>1人</td> <td>1人</td> </tr> </tbody> </table>					区 分	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	言語 延人数	2,074人	2,327人	2,409人	2,181人	2,293人	療法 実施単位数	6,220単位	6,956単位	7,209単位	6,519単位	6,850単位	理学 延人数	623人	1,338人	1,891人	1,699人	1,737人	療法 実施単位数	1,916単位	4,049単位	5,656単位	5,074単位	5,204単位	作業 延人数	857人	1,427人	1,885人	1,839人	1,660人	療法 実施単位数	2,550単位	4,271単位	5,646単位	5,525単位	5,052単位	区 分	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	高次脳機能障害外来	755人	829人	983人	966人	1,086人	フットケア外来	65人	85人	79人	68人	67人	神経難病リハ外来	—	—	37人	32人	5人	摂食嚥下評価	—	3人	4人	1人	1人			
区 分	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度																																																																												
言語 延人数	2,074人	2,327人	2,409人	2,181人	2,293人																																																																												
療法 実施単位数	6,220単位	6,956単位	7,209単位	6,519単位	6,850単位																																																																												
理学 延人数	623人	1,338人	1,891人	1,699人	1,737人																																																																												
療法 実施単位数	1,916単位	4,049単位	5,656単位	5,074単位	5,204単位																																																																												
作業 延人数	857人	1,427人	1,885人	1,839人	1,660人																																																																												
療法 実施単位数	2,550単位	4,271単位	5,646単位	5,525単位	5,052単位																																																																												
区 分	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度																																																																												
高次脳機能障害外来	755人	829人	983人	966人	1,086人																																																																												
フットケア外来	65人	85人	79人	68人	67人																																																																												
神経難病リハ外来	—	—	37人	32人	5人																																																																												
摂食嚥下評価	—	3人	4人	1人	1人																																																																												
	・訪問リハビリテーション・ 訪問看護の実施	<p>【訪問リハビリテーション・訪問看護の実施】</p> <p>○ 退院した患者の在宅療養へのスムーズな移行及び継続的な在宅療養の維持を支援するため、平成27年度から医療保険による訪問リハビリテーション及び訪問看護を試行的に開始し、平成28年度からは介護保険適用者にも対象を拡大して実施してきた。令和3年度は、新型コロナウイルス感染症の感染状況を踏まえ一時的に休止した期間が、令和2年度よりも長期に及んだことから、訪問リハビリテーション及び訪問看護のいずれの実績も令和2年度を下回った。(休止期間：令和2年度 4月20日～5月10日、12月23日～1月24日 令和3年度 5月17日～10月14日、1月6日以降)</p>																																																																															

中期計画	令和3年度	地方独立行政法人広島市立病院機構による自己評価				市長による評価																																											
	年度計画	評価理由等				記号	評価理由・コメント等	記号																																									
<p>・地域リハビリテーション活動支援事業等の推進</p>	<p>(訪問リハビリテーションの実績)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>平成29年度</th> <th>平成30年度</th> <th>令和元年度</th> <th>令和2年度</th> <th>令和3年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>延人数</td> <td>59人</td> <td>61人</td> <td>49人</td> <td>43人</td> <td>9人</td> </tr> <tr> <td>実施単位数</td> <td>177単位</td> <td>183単位</td> <td>143単位</td> <td>159単位</td> <td>27単位</td> </tr> </tbody> </table> <p>(訪問看護の実績)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>平成29年度</th> <th>平成30年度</th> <th>令和元年度</th> <th>令和2年度</th> <th>令和3年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>延人数</td> <td>33人</td> <td>40人</td> <td>45人</td> <td>25人</td> <td>21人</td> </tr> </tbody> </table> <p>【地域リハビリテーション活動支援事業等の推進】</p> <p>○ 地域包括支援センター等が行う介護予防拠点の立上げ・運営支援や要支援者等に対する介護予防ケアマネジメント支援などに、広島市がリハビリテーション専門職（以下「リハ職」という。）を派遣する等の支援を行う地域リハビリテーション活動支援事業において、地域リハビリテーション広域支援センターとしてリハ職の派遣調整業務を広島市から受託している。</p> <p>令和3年度も令和2年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症の影響に伴う派遣先の事業の休止等により、派遣調整を行った人数は、コロナ禍以前よりも大きく減少した。</p> <p>また、令和元年度から、広島二次保健医療圏における「通いの場」設置の推進を目的として関係機関のネットワークを構築する事業を広島県から受託し、令和3年度も引き続き実施した。</p> <p>(リハ職派遣調整業務の実績) ※（ ）内は令和2年度</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>令和3年度 派遣調整人数</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>介護予防拠点整備における支援</td> <td>55人(72人)</td> <td>うちリハビリテーション病院からの派遣人数 9人(16人)</td> </tr> <tr> <td>介護予防ケアマネジメントの支援</td> <td>10人(4人)</td> <td>うちリハビリテーション病院からの派遣人数 2人(0人)</td> </tr> </tbody> </table>							区分	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	延人数	59人	61人	49人	43人	9人	実施単位数	177単位	183単位	143単位	159単位	27単位	区分	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	延人数	33人	40人	45人	25人	21人	区分	令和3年度 派遣調整人数	備考	介護予防拠点整備における支援	55人(72人)	うちリハビリテーション病院からの派遣人数 9人(16人)	介護予防ケアマネジメントの支援	10人(4人)	うちリハビリテーション病院からの派遣人数 2人(0人)			
	区分	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度																																											
延人数	59人	61人	49人	43人	9人																																												
実施単位数	177単位	183単位	143単位	159単位	27単位																																												
区分	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度																																												
延人数	33人	40人	45人	25人	21人																																												
区分	令和3年度 派遣調整人数	備考																																															
介護予防拠点整備における支援	55人(72人)	うちリハビリテーション病院からの派遣人数 9人(16人)																																															
介護予防ケアマネジメントの支援	10人(4人)	うちリハビリテーション病院からの派遣人数 2人(0人)																																															
<p>・通所リハビリテーションの実施</p>	<p>【通所リハビリテーションの実施】</p> <p>○ 退院後も集団コミュニケーション療法及び個別言語聴覚療法が必要な対象者に対し、令和元年10月から介護保険による短時間通所リハビリテーションを実施している。</p> <p>令和3年度も新型コロナウイルス感染症が収束しない中、1月6日から3月6日までの間、通所リハビリテーションを一時的に休止し、延利用人数は令和</p>																																																

中期計画	令和3年度	地方独立行政法人広島市立病院機構による自己評価		市長による評価									
	年度計画	評価理由等		記号	評価理由・コメント等								
		2年度を下回った。(令和2年度の休止期間は4月20日から5月10日及び12月23日から1月24日) (通所リハビリテーションの実績) <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>令和元年度</th> <th>令和2年度</th> <th>令和3年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>延人数</td> <td>84人</td> <td>182人</td> <td>180人</td> </tr> </tbody> </table>		区分	令和元年度	令和2年度	令和3年度	延人数	84人	182人	180人		
区分	令和元年度	令和2年度	令和3年度										
延人数	84人	182人	180人										
<u>ウ 自立訓練施設の利用促進</u> <u>(小項目)</u> <ul style="list-style-type: none"> リハビリテーション病院との連携を強化し、連続性のある訓練の実施と訓練内容の充実を図ります。 医療・福祉関係機関、福祉サービス事業者等との連携を強化し、地域からの施設利用の拡大を図ります。 施設の機能、提供する支援の充実のため、新たな障害福祉サービスの実施について検討します。 	<u>ウ 自立訓練施設の利用促進</u> <u>(小項目)</u> <ul style="list-style-type: none"> リハビリテーション病院と連携した連続性のある訓練の実施及び訓練内容の充実 <ul style="list-style-type: none"> 施設利用者の拡大(医療・福祉関係機関、福祉サービス事業者等との連携) 	【連続性のある訓練の実施及び訓練内容の充実】 ○ リハビリテーション病院の医師が、自立訓練施設の医師を兼ね、リハビリテーション計画の担当医として、連続性のある訓練を実施するとともに、医学的リハビリテーションを取り入れるなど、訓練内容の充実を図った。 ○ 高次脳機能障害等のある利用者について、リハビリテーション病院の言語外来リハビリテーションと連携した訓練を実施した。また、医学的リハビリテーションを必要とする自立訓練施設利用者に、リハビリテーション病院の外来リハビリテーション(理学療法、作業療法)を提供した。 ○ 令和3年度の施設利用者94人のうち、外来リハビリテーションを提供した施設利用者の数は46人で、提供回数は延べ1,757回となり、令和2年度と比べて外来リハビリテーションを提供した施設利用者数は増加したものの、提供回数は減少した。(令和2年度 施設利用者数38人、提供回数延1,946回)。 ○ 令和3年度の施設利用者のうち、リハビリテーション病院退院患者は31人で、全施設利用者に占める割合は33.0%と令和2年度と比べて減少した。(令和2年度は35人で、全施設利用者に占める割合は38.9%)。 一方、他の医療機関退院患者は24人で、全施設利用者に占める割合は25.5%と令和2年度と比べて増加した。(令和2年度は14人で、全施設利用者に占める割合は15.6%)		3	年度計画を順調に実施しているため、「3」と評価した。	3							
		【施設利用者の拡大】 ○ 医療機関、地域包括支援センター、相談支援事業所、行政機関、関係団体等に対して職員訪問(26カ所)、案内文の送付(100カ所)、オンライン施設見学(4カ所)を実施し連携を図った。 これらの取組により、月平均の施設利用者数は、51人となった。											

中期計画	令和3年度	地方独立行政法人広島市立病院機構による自己評価							市長による評価																			
	年度計画	評価理由等							記号	評価理由・コメント等	記号																	
		(施設利用者数の実績) <table border="1"> <thead> <tr> <th>区 分</th> <th>平成 26 年度</th> <th>平成 27 年度</th> <th>平成 28 年度</th> <th>平成 29 年度</th> <th>平成 30 年度</th> <th>令和元 年度</th> <th>令和 2 年度</th> <th>令和 3 年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>月平均利用者数 (契約者数)</td> <td>38人</td> <td>44人</td> <td>41人</td> <td>41人</td> <td>46人</td> <td>57人</td> <td>54人</td> <td>51人</td> </tr> </tbody> </table>							区 分	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元 年度	令和 2 年度	令和 3 年度	月平均利用者数 (契約者数)	38人	44人	41人	41人	46人	57人	54人	51人		
区 分	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元 年度	令和 2 年度	令和 3 年度																				
月平均利用者数 (契約者数)	38人	44人	41人	41人	46人	57人	54人	51人																				
	・就労定着支援サービスの実施	【就労定着支援サービスの実施】 ○ 新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響を考慮し、事業所指定申請を見合わせていたが、令和4年4月よりサービスを開始することとし、令和4年2月に申請を行った。																										
<u>エ 相談機能の充実と地域リハビリテーションの推進(小項目)</u> ・利用者の状況に応じた退院・退所後の生活支援ができるよう、地域の医療・保健・福祉関係機関と連携した相談機能の充実を図ります。 ・広島市身体障害者更生相談所と連携して、地域リハビリテーションの推進を図ります。	<u>エ 相談機能の充実と地域リハビリテーションの推進(小項目)</u> ・利用者の状況に応じた生活支援ができるよう医療支援室及び身体障害者特定支援事業所による相談の実施 ・広島市身体障害者更生相談所と連携した地域リハビリテーションの推進	【相談機能の充実と地域リハビリテーションの推進】 ○ 医療支援室において入院患者一人一人に担当する医療ソーシャルワーカーを充てて、入院から退院後までの生活上の心配事等について相談に応じた。 ○ リハビリテーション病院内に平成27年9月に設置した身体障害者特定相談支援事業所の相談支援専門員により、障害福祉サービスを利用するための「サービス等利用計画案」作成など、地域の医療・保健・福祉機関と連携した相談支援を行った。 ○ リハビリテーションをテーマとした市政出前講座は新型コロナウイルス感染症の影響により中止した。医療機関等におけるリハビリテーションの技術支援を目的とした研修会については、新型コロナウイルス感染症の感染防止のため、他の地域リハビリテーション広域支援センターの指定病院及び広島県と合同でオンライン研修を実施した。(なお、新型コロナウイルス感染症が収束しなかったことから、令和2年度に続き令和3年度も市民公開講座の開催を中止した。) また、身体障害者更生相談所と連携して、院内において車椅子や歩行器などの福祉用具の展示を行った。							3	年度計画を順調に実施しているため、「3」と評価した。	3																	

中期計画	令和3年度	地方独立行政法人広島市立病院機構による自己評価		市長による評価	
	年度計画	評価理由等	記号	評価理由・コメント等	記号
<p>オ 災害時の市立病院間のバックアップ機能の強化（小項目）</p> <p>西風新都に立地し、高速道路インターチェンジに近接するというリハビリテーション病院の地理的条件を生かし、デルタ地帯が被災した場合に備え、他の市立病院の診療情報の保管や医薬品等の備蓄などバックアップ機能の強化を図るとともに、DMATの受入拠点、広域搬送拠点としての活用について検討します。</p>	<p>オ 災害時の市立病院間のバックアップ機能の強化（小項目）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・DMATの受入拠点及び広域搬送拠点としての活用についての検討 ・後方支援病院としての新型コロナウイルス感染症への適切な対応 	<p>【DMATの受入拠点等についての検討】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ DMATの受入拠点及び広域搬送拠点として施設内の提供可能なスペース等の想定などの活用の具体的な内容について、引き続き検討を行った。 <p>【後方支援病院としての新型コロナウイルス感染症への適切な対応】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 新型コロナウイルス感染症患者の受入医療機関の後方支援として、新型コロナウイルス感染症が回復後、引き続き入院管理が必要な患者の転院受入を行った（舟入市民病院から5人、安佐市民病院から2人、広島市民病院から3人、県立広島病院から9人、ほか県内医療機関から2人）。 ○ 新型コロナウイルス感染症拡大による物流途絶の場合に備え、病院間での調整が行えるよう、マスクなどの診療材料を備蓄した。 	3	<p>年度計画を順調に実施しているため、「3」と評価した。</p>	3

第1 市民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置

2 医療の質の向上

(1) 医療需要の変化、医療の高度化への対応

中期目標 医療スタッフの知識の習得や技術の向上、診療科の再編などによる診療体制の充実を図るとともに、医療機器の整備・更新等を計画的に進めることなどにより、医療需要の変化や医療の高度化に的確に対応した医療を提供すること。

中期計画	令和3年度	地方独立行政法人広島市立病院機構による自己評価		市長による評価	
	年度計画	評価理由等	記号	評価理由・コメント等	記号
<p>2 医療の質の向上（大項目）</p> <p>(1) 医療需要の変化、医療の高度化への対応</p> <p>医療需要の変化、医療の高度化に的確に対応した医療が提供できるよう、医療スタッフの知識の習得や技術の向上、診療科の再編などによる診療体制の充実を図るとともに、計画的な医療機器の整備・更新を進めます。</p>	<p>2 医療の質の向上（大項目）</p> <p>(1) 医療需要の変化、医療の高度化への対応</p>				
	<p>ア 医療スタッフの知識の習得や技術の向上（小項目）</p> <p>・院外の学会・研修会等への参加機会を確保するとともに院内研修の充実</p>	<p>【院外の学会・研修会等への参加機会の確保】</p> <p>○ 業務に関わる院外の学会や研修会等へ、法人負担での参加機会を確保した。</p> <p>【院内研修の充実】</p> <p>○ 医療スタッフが日々高度化する医療知識、技術を身に付けていくため、各病院において、がん研修会やがんセミナー、基礎看護技術研修会、臨床検査研修会など専門分野に関する研修会、多職種を対象とした感染対策研修会、リスクマネジメント研修会等を実施した。</p> <p>○ 各病院で保険診療に関する研修を行った。</p> <p>○ 各病院とも、全職員を対象とした令和4年度診療報酬改定に関する研修を行った。</p> <p>○ 安佐市民病院では、ロボット支援手術を行うために、新型コロナウイルス感染症の感染対策を取りながら、必要な術者・助手等の研修を行い、令和2年度から子宮良性疾患手術の保険適用を開始した（子宮良性疾患10例）。今後、食道がん、肺がん、縦隔腫瘍、膵がんに対しても手術可能となるように研修会への参加、指導医を招へいしてのロボット支援手術の実施範囲の拡大</p>	3	年度計画を順調に実施しているため、「3」と評価した。	3

中期計画	令和3年度	地方独立行政法人広島市立病院機構による自己評価		市長による評価	
	年度計画	評価理由等	記号	評価理由・コメント等	記号
	<ul style="list-style-type: none"> ・新規採用職員の合同研修会の開催 ・看護師を対象とした市立病院間の交流研修の実施 ・キャリア開発ラダーを活用した看護師の質の向上（広島市民病院、安佐市民病院、舟入市民病院） ・特定行為研修施設を含めた教育・研修管理センターの開設準備（安佐市民病院） 	<p>に取り組む。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 舟入市民病院では、医療安全や感染対策、倫理研修等については従来、集合研修で行っていた。令和3年度は、昨年と同様に新型コロナウイルス感染対策として、基本的にはパソコンの閲覧とし、研修対象者全員の閲覧形式とした。集合研修を行う場合は、最大40人までに制限して実施した。 ○ リハビリテーション病院では、個人情報・プライバシー、救命救急、感染管理、ストレスコントロールと医療安全、認知症ケア、排尿ケアなどについての研修を概ね月1回から2回の割合で実施した。 <p>【合同研修会の開催】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 職場への円滑な適応を図ることを目的とした、新規採用職員の合同研修については、新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、各職員の動画視聴による研修に変更した。 <p>【市立病院間の交流研修の実施】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 各病院の看護師の知識の習得や技術の向上を図るため、4病院間の交流研修を実施した。 <p>【キャリア開発ラダーを活用した看護師の質の向上】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 広島市民病院では、令和3年度のジェネラリストラダー新規取得が237人で、合計797人（看護師全体の78.6%）が取得している。マネジメントラダー新規取得者が25人、合計164人（主任看護師及び看護師長の77%）が取得している。 ○ 安佐市民病院では、令和3年度のキャリアラダー認定者（更新も含む）131名、マネジメントラダー認定者（更新も含む）が14人であった。 ○ 舟入市民病院では、キャリアラダー及びマネジメントラダーの研修内容を見直した。また、新人教育研修の見直しとして、夜勤導入の可否に関するチェックリストを作成し、夜勤導入の時期を検討した。 <p>【特定行為研修施設を含めた教育・研修管理センターの開設準備】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 教育研修管理センター開設準備室を設置し、令和5年度の特定行為研修施設開設に向けて、具体的な実施内容を院内会議で検討し、令和4年度から「外科術後病棟管理領域パッケージ」の実施を決定した。また、特定行為研修に加えて、医師・歯科医師の初期臨床研修・専門医研修、資格取得・管理、図書室・ 			

中期計画	令和3年度	地方独立行政法人広島市立病院機構による自己評価		市長による評価																												
	年度計画	評価理由等	記号	評価理由・コメント等	記号																											
		スキルアップセンター・会議室管理を集約して行うセンターを新病院開設に合わせて設置することとした。																														
	イ 資格取得の促進(小項目) ・医療機能の向上に必要な資格取得の支援	<p>【医療機能の向上に必要な資格取得の支援】</p> <p>○ 専門教育を受けるために必要な費用等を法人が負担し認定看護師等の資格取得を促進した。</p> <p>(資格取得の状況)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>職種</th> <th>令和3年度資格取得状況等 /認定看護師等総数(年度末)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="5">広島</td> <td rowspan="5">看護師</td> <td>・クリティカルケア認定看護師修了者 1人</td> </tr> <tr> <td>・緩和ケア認定看護師修了者 1人</td> </tr> <tr> <td>・認定看護管理者取得者 1人</td> </tr> <tr> <td>・認定看護師研修修了者 手術看護 1人</td> </tr> <tr> <td>・認定看護師研修修了者 皮膚・排泄ケア 1人</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>・特定行為研修修了者 2人</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>(令和3年度末) 認定看護師 30人 特定行為研修修了者 3人 認定看護管理者 5人</td> </tr> <tr> <td>安佐</td> <td>看護師</td> <td>(令和3年度末) 認定看護師 17人 特定行為研修修了者 6人 がん看護専門看護師 1人</td> </tr> <tr> <td>舟入</td> <td>看護師</td> <td>(令和3年度末) 認定看護師 8人</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">リハビリ</td> <td>看護師</td> <td>・感染管理認定看護師修了者 1人 (令和3年度末) 認定看護師 4人 特定行為研修修了者 1人</td> </tr> <tr> <td>療法士</td> <td>・回復期セラピストマネジャー 1人 (令和3年度末) 回復期セラピストマネジャー 4人</td> </tr> </tbody> </table> <p>【がん診療に携わる医師に対する緩和ケア研修会】</p> <p>○ 広島市民病院及び安佐市民病院では、地域がん診療連携拠点病院として、実施が定められている緩和ケア研修会を実施した。</p> <p>(広島市民病院) 研修日：令和3年10月28日、修了医師数及び他職種：28人 (安佐市民病院) 研修日：令和3年11月13日、修了医師数及び他職種：17人</p>	区分	職種	令和3年度資格取得状況等 /認定看護師等総数(年度末)	広島	看護師	・クリティカルケア認定看護師修了者 1人	・緩和ケア認定看護師修了者 1人	・認定看護管理者取得者 1人	・認定看護師研修修了者 手術看護 1人	・認定看護師研修修了者 皮膚・排泄ケア 1人			・特定行為研修修了者 2人			(令和3年度末) 認定看護師 30人 特定行為研修修了者 3人 認定看護管理者 5人	安佐	看護師	(令和3年度末) 認定看護師 17人 特定行為研修修了者 6人 がん看護専門看護師 1人	舟入	看護師	(令和3年度末) 認定看護師 8人	リハビリ	看護師	・感染管理認定看護師修了者 1人 (令和3年度末) 認定看護師 4人 特定行為研修修了者 1人	療法士	・回復期セラピストマネジャー 1人 (令和3年度末) 回復期セラピストマネジャー 4人	3	年度計画を順調に実施しているため、「3」と評価した。	3
区分	職種	令和3年度資格取得状況等 /認定看護師等総数(年度末)																														
広島	看護師	・クリティカルケア認定看護師修了者 1人																														
		・緩和ケア認定看護師修了者 1人																														
		・認定看護管理者取得者 1人																														
		・認定看護師研修修了者 手術看護 1人																														
		・認定看護師研修修了者 皮膚・排泄ケア 1人																														
		・特定行為研修修了者 2人																														
		(令和3年度末) 認定看護師 30人 特定行為研修修了者 3人 認定看護管理者 5人																														
安佐	看護師	(令和3年度末) 認定看護師 17人 特定行為研修修了者 6人 がん看護専門看護師 1人																														
舟入	看護師	(令和3年度末) 認定看護師 8人																														
リハビリ	看護師	・感染管理認定看護師修了者 1人 (令和3年度末) 認定看護師 4人 特定行為研修修了者 1人																														
	療法士	・回復期セラピストマネジャー 1人 (令和3年度末) 回復期セラピストマネジャー 4人																														

中期計画	令和3年度	地方独立行政法人広島市立病院機構による自己評価		市長による評価	
	年度計画	評価理由等	記号	評価理由・コメント等	記号
	<u>ウ 診療体制の充実(小項目)</u> ・遠隔(オンライン)診療の継続実施(安佐市民病院)	【遠隔診療の実施(安佐市民病院)】 ○ 令和元年度に糖尿病透析予防指導管理料の算定対象となる患者に対してオンライン診療(※)が出来るシステムを導入し、令和3年度においても引き続き遠隔診療を実施した。 ※透析予防診療チームがリアルタイムでの画像を介したコミュニケーションが可能な情報通信機器を活用して、「糖尿病治療ガイド」等に基づき、患者の食事指導や運動指導などを必要に応じて実施	3	年度計画を順調に実施しているため、「3」と評価した。	3
	<u>エ 医療機器の整備・更新(小項目)</u> ・治療計画用マルチスライスCT装置の更新(広島市民病院) ・IVR-CT装置システムの更新(広島市民病院)	【医療機器の整備、更新(広島市民病院)】 ○ 治療計画用マルチスライスCT装置(令和3年9月)及びIVR-CT装置システム(令和4年3月)を更新した。	3	年度計画を順調に実施しているため、「3」と評価した。	3

第1 市民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置

2 医療の質の向上

(2) チーム医療の推進

中期目標	各医療スタッフが診療科や職種を越えて連携し、良好なコミュニケーションの下でそれぞれの専門性を生かした高度で質の高いチーム医療を推進すること。
------	--

中期計画	令和3年度	地方独立行政法人広島市立病院機構による自己評価		市長による評価	
	年度計画	評価理由等	記号	評価理由・コメント等	記号
<p><u>(2) チーム医療の推進(小項目)</u></p> <p>個々の患者の病状や、緩和ケア、褥(じょく)瘡(そう)対策、呼吸ケア、栄養サポート等の課題に対応するため、医療スタッフが診療科や職種を越えて連携し、専門的、総合的な医療を提供するチーム医療を推進します。</p>	<p><u>(2) チーム医療の推進(小項目)</u></p> <p>・多職種による緩和ケア、褥瘡対策、呼吸ケア、栄養サポート等のチーム活動の実施</p>	<p>【多職種による緩和ケア、褥瘡対策、呼吸ケア等のチーム活動の実施】 (広島市民病院)</p> <p>○ 安全・安心で専門的、総合的な医療を提供するために、専門職としてのスキルアップを図り、チーム医療の活動を推進している。患者の生活の質(QOL)の向上のため、多職種チームで連携し、医療・看護を提供している。</p> <p>・<u>緩和ケアチーム</u> 医師、薬剤師、がん看護専門看護師、緩和ケア認定看護師、管理栄養士、社会福祉士で構成。チームは痛みの緩和だけでなく、病気が原因となる心と身体のつらさに多職種で関わり生活の質の向上に取り組んだ。</p> <p>・<u>栄養サポートチーム(NST)</u>、<u>褥瘡対策部会</u> 医師、看護師、薬剤師、臨床検査技師、理学療法士、管理栄養士、言語聴覚士で構成。全疾患を対象に適切な栄養管理が行えるようサポートした。また、創傷や褥瘡の予防に介入することで合併症の減少や入院期間の短縮に取り組んだ。</p> <p>・<u>摂食・嚥下・口腔ケア部会(SEKチーム)</u> 医師、薬剤師、言語聴覚士、理学療法士、作業療法士、管理栄養士、歯科衛生士、摂食・嚥下障害看護認定看護師、医事課事務員で構成。週1回の定期的なラウンドを行い、嚥下機能を正確に評価し、適切な食形態での提供を行うとともに、嚥下リハビリを継続的に実施することで嚥下機能回復に取り組んだ。</p> <p>・<u>転倒・転落予防対策チーム</u> 医師、リスクマネージャー(RM)、看護師、薬剤師、臨床検査技師、臨床工学技士、施設担当者、理学療法士、作業療法士で構成。転倒転落事故の原因分析、自己予防策の検討及び提言を行った。また、環境ラウンドを行い環境改善と、転倒転落ゼロ継続日数を掲示することで患者の意識付けができた。</p> <p>・<u>呼吸ケアサポートチーム(RST)</u> 医師、集中治療認定看護師、救急看護認定看護師、呼吸療法認定士、理学療</p>	3	<p>年度計画を順調に実施しているため、「3」と評価した。</p>	3

中期計画	令和3年度	地方独立行政法人広島市立病院機構による自己評価		市長による評価	
	年度計画	評価理由等	記号	評価理由・コメント等	記号
		<p>法士、臨床工学技士、薬剤師で構成。院内のICUでの研修など、従事する医療スタッフのスキルアップを図った。</p> <p>・<u>通院治療センターのチーム医療</u> 癌腫やレジメン（治療計画）、有害事象が複雑化する中、高度な知識と技術が求められる医師、看護師、薬剤師、管理栄養士で構成。個々の患者の病状やニーズに応じた適切な対応を行った。</p> <p>・<u>リエゾン・認知症ケア部会</u> 医師、認知症看護認定看護師、精神科認定看護師、看護師、薬剤師、公認心理師、社会福祉士、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士で構成。せん妄・認知機能障害、認知症疾患、精神症状のある入院患者のケアを実践しスタッフへの助言、スキルアップのための研修を実施した。また、多職種で統一した対応ができるようにせん妄予防対策の標準化を図った。</p> <p>・<u>在宅療養支援部会</u> 医師、看護師、医療相談員、薬剤師、管理栄養士で構成。在宅で療養される患者の実態に応じた支援の検討・対応を行った。</p> <p>・<u>周産期トータルサポートチーム</u> 医師、看護師、医療相談員、薬剤師、心理療法士で構成。妊産婦のメンタルサポートを行った。</p> <p>・<u>子ども虐待防止委員会</u> 医師、看護師、医療相談員、心理療法士で構成。小児期（18歳未満）の虐待防止のための支援を行った。</p> <p>・<u>排尿ケアチーム</u> 医師、看護師、理学療法士、作業療法士で構成。腹腔内術後、前立腺関連、脳神経系の後遺症に伴う排尿障害の患者へ、排尿ケアリンクナース（※）を中心にチーム医療を行った。患者の要望に応えるため、自己導尿や尿漏れ改善のため骨盤底筋群体操の指導を実施した。また、自部署で排尿ケアが行えるための院内研修を実施した。</p> <p>※ リンクナース：専門チームや委員会と病棟看護師とをつなぐ役割を担う看護師</p> <p>○ チーム医療の推進成果発表会 チーム医療の推進成果発表会は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため開催できなかったものの、看護部8部署が「看護の質向上への取組」の発表を行った。</p>			

中期計画	令和3年度	地方独立行政法人広島市立病院機構による自己評価		市長による評価	
	年度計画	評価理由等	記号	評価理由・コメント等	記号
		<p>(安佐市民病院)</p> <p>○ チーム医療の推進は、患者に対し専門的、総合的な医療を提供するために不可欠なものであると同時に職員の職種間のコミュニケーションの活性化や職員の満足度向上にも寄与している。</p> <p>各チームは、基本的に月1回、定例会議を開催し、新型コロナウイルスの状況を鑑みながらラウンドを実施した。各活動の概要は以下のとおり。</p> <p>・<u>院内感染対策チーム</u></p> <p>インフェクションコントロールドクター（ICD ※1）の資格を有する医師、感染管理認定看護師、感染制御認定薬剤師、抗菌化学療法認定薬剤師、感染制御認定臨床微生物検査技師、臨床工学技士、歯科衛生士、保健師で構成。サーベイランス（※2）を行い、医療関連感染の状況を把握し、感染対策が確実に行えるようにICTラウンド（※3）を実施した。また、全職員を対象とした院内研修（年2回）の企画、運営を行い、感染対策の指導・教育を行った。さらに、感染対策加算2の病院とのカンファレンスはウェブ会議を実施し、地域の医療機関と感染対策の情報共有、感染対策の向上に努めた。</p> <p>※1 ICD：医師、看護師、薬剤師、臨床検査技師など、多くの職種の役割を理解した感染制御の専門家</p> <p>※2 サーベイランス：各感染症の発症動向を調査し、分析を行うこと。</p> <p>※3 ICTラウンド：ICTとは感染制御チームを意味し、ラウンドとは病棟や病室内の見回りを意味することで、感染制御チームが病棟や病室内を見回りすること。</p> <p>・<u>災害対策チーム</u></p> <p>麻酔集中治療科医師、救急看護認定看護師、DMAT登録の看護師と薬剤師の他に、臨床検査技師、診療放射線技師、臨床工学技士、総務課職員で構成。院内の災害マニュアルの見直し検討や、災害対策の検討を行い増加する自然災害に対応できるよう取り組んだ。</p> <p>・<u>医療安全対策チーム</u></p> <p>リスクマネジャーの外科医師・看護師長を中心に小児科医師、外科医師、看護師、薬剤師、臨床検査技師、診療放射線技師、臨床工学技士、理学療法士、事務職で構成。IA報告（※）の分析・検討などを通して、システム改善に取り組んだ。特に、モニターラウンド（MACT）、転倒転落ラウンドを行い、医療事故防止に努めた。転倒転落に関連した新聞（七転び八起き）を発刊し、転倒転落予防に関する意識を高め医療事故防止に努めた。</p>			

中期計画	令和3年度	地方独立行政法人広島市立病院機構による自己評価		市長による評価	
	年度計画	評価理由等	記号	評価理由・コメント等	記号
		<p>また、院内研修の企画・運営を行い、全職員が参加するようにビデオ研修を実施し、職員の意識向上に努めた。</p> <p>※ I A報告：I Aとはインシデント・アクシデントを指しており、それが発生した場合 I A報告を行う。</p> <p>・<u>救急総合診療トリアージチーム</u> 総合診療内科医師、後期研修医、救急看護認定看護師、看護師、診療放射線技師、医療ソーシャルワーカー、医事課職員で構成。トリアージナーズの育成を図り、トリアージの検証を行ってスキルアップを図ると共に、救急場面の課題や救急患者の社会的問題への対応などの検討を行った。</p> <p>・<u>看護部褥瘡対策チーム</u> 皮膚排泄ケア認定看護師と各部署の看護師で構成。皮膚科医師、皮膚排泄ケア認定看護師、薬剤師、臨床検査技師、栄養士などで構成される褥瘡対策委員会の下部組織として、新型コロナウイルス感染症が流行する中ではあったが必要な各部署のラウンドを実施。患者ラウンドで、直接的な指導・教育を図った。高齢患者も増え、スキンケア予防にも力を入れた。</p> <p>・<u>摂食・嚥下チーム</u> 脳外科医師、歯科医師、摂食嚥下障害看護認定看護師、薬剤師、言語聴覚士、栄養士、歯科衛生士で構成。NST委員会の下部組織として、週1回のラウンドを行い、患者の口腔ケア、口から食べることへの支援を図り、栄養状態の改善、経口摂取が可能となる患者支援を実践した。誤嚥窒息プロトコルに基づいて、誤嚥のリスクが高い患者に対して早期介入を行った。また、摂食機能療法を3,992件実施し、機能回復に積極的に介入した。</p> <p>・<u>緩和ケアチーム</u> 精神科医師、麻酔集中治療科医師、放射線科医師、外科医師、内科医師、泌尿器科医師、歯科医師、緩和ケア認定看護師、看護師、薬剤師、歯科衛生士、医療ソーシャルワーカー、心理療法士で構成。緩和ケアラウンドを定期的に行い、身体的・心理的・スピリチュアルな苦痛の緩和や症状マネジメントなどの指導・支援を図り、患者のQOL向上を目指した活動をした。</p> <p>・<u>呼吸サポートチーム</u> 呼吸器内科医師、麻酔集中治療科医師、循環器内科医師、外科医師、集中ケア認定看護師、呼吸療法士の有資格者や呼吸器を使用する部署の看護師、薬剤師、理学療法士、栄養士、歯科衛生士、臨床工学技士で構成。呼吸器装着期間の短縮、再挿管率の減少を目的としてラウンドをしている。また気管切開患者に対して安全な管理を行えることを目的として集中ケア認定看護師</p>			

中期計画	令和3年度	地方独立行政法人広島市立病院機構による自己評価		市長による評価	
	年度計画	評価理由等	記号	評価理由・コメント等	記号
		<p>は週一回ラウンドしている。OJTを通して適正な皮膚ケアの実施や、予測されるリスクへの対応をスタッフと共に行っている。ラウンドの継続により気管切開患者関連のIAは減少している。</p> <p>・<u>心不全サポートチーム</u></p> <p>循環器内科医師、慢性心不全看護認定看護師、看護師、薬剤師、臨床検査技師、理学療法士、作業療法士、栄養士、医療ソーシャルワーカー、臨床工学技士、医療クラークで構成。入院・外来患者・家族を対象とした心不全教室や、院内患者会WAP友の会の集いは新型コロナウイルス感染症の影響により中止となった。認定看護師による病院訪問や病棟で少人数での心不全教室を継続し薬剤調整カンファレンスで減薬への取り組みも行った。慢性疾患患者の緩和ケアについても検討・普及を図った。</p> <p>・<u>糖尿病チーム</u></p> <p>代謝内分泌内科医師、糖尿病認定看護師、糖尿病療養士の資格を有する看護師、薬剤師、臨床検査技師、理学療法士、作業療法士、栄養士及び歯科衛生士で構成。糖尿病患者・家族への治療・療養支援を行い、重症化予防に努めている。令和3年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により糖尿病教室は中止した。</p> <p>・<u>高齢者総合支援チーム</u></p> <p>総合診療内科医師、精神科医師、神経内科医師、循環器内科医師、外科医師、認知症看護認定看護師、看護師、薬剤師、作業療法士、栄養士、医療ソーシャルワーカーで構成。高齢者のせん妄対策や退院支援、尊厳死に関わる問題の検討などに取り組んでいる。介入依頼件数は1,039件で(令和2年346件)増加した。各病棟にリンクナースを配置し、教育・指導を図った。</p> <p>・<u>ASA肝臓チーム</u></p> <p>内科医師、肝臓コーディネーターの資格を有する看護師、薬剤師、臨床検査技師、栄養士、医療クラークで構成。慢性肝疾患患者・家族の支援、針刺し事故後の職員サポートを目的として活動した。入院患者のB型・C型肝炎ウイルスキャリア者の受診奨励を図った。</p> <p>・<u>排尿ケアチーム</u></p> <p>泌尿器科医師、泌尿器科病棟看護師長、排尿ケア講習会修了看護師、薬剤師、理学療法士で構成。尿路感染防止と排尿ケアの自立を支援し、患者の活動性の向上、QOLの向上を図ることを目的に活動し、排尿自立の改善人数は140人で、依頼件数の81%であった。</p> <p>・<u>特定集中治療室早期離床リハビリチーム</u></p>			

中期計画	令和3年度	地方独立行政法人広島市立病院機構による自己評価		市長による評価	
	年度計画	評価理由等	記号	評価理由・コメント等	記号
		<p>ICU専従医師、理学療法士、看護師で構成。187人のリハビリ介入を実施した。</p> <p><u>・抗菌薬適正使用支援チーム（AST）</u> インфекションコントロールドクターの資格を有する医師、感染管理認定看護師、抗菌薬化学療法認定薬剤師、感染制御認定臨床微生物検査技師で構成。抗菌薬使用の評価かつ適正使用の推進を図るため、感染症治療のモニタリング及び評価を行い主治医にフィードバックするとともに、微生物検査、臨床検査が適正に利用できるよう体制を整備した。</p> <p><u>・周術期管理チーム</u> 麻酔科医師、外科医師、看護師、薬剤師、作業療法士、栄養士、歯科衛生士で構成。患者の高齢化や重症化が進む中、周術期医療の安全・質の向上を目的に安心して手術を受けることができるよう、多職種で入院前から周術期のリスク評価・支援を実施している。令和3年度の介入件数は1,104件で前年度より70件増加した。</p> <p>(舟入市民病院)</p> <p>○ 専門職としてのスキルアップを図り、安全・安心で専門的、総合的なチーム医療体制を構築するため、院内に部会、委員会を設立し活動を推進した。各活動の概要は以下のとおり。</p> <p><u>・栄養サポートチーム（NST）</u> 内科医師、外科医師、看護師、栄養士、薬剤師、理学療法士等で構成。定期的にカンファレンス及び患者訪問により患者個々に合った食事調整や輸液の提案、摂食指導等を行った。摂食・嚥下チームや褥瘡対策チームとも連携した栄養管理を行っている。</p> <p><u>・緩和ケアチーム</u> 内科医師、外科医師、看護師、栄養士、薬剤師、理学療法士で構成。週1回の症例検討や看取り後に行うカンファレンスを行った。患者の「最後まで自分らしく生きたい」その願いをサポートすることをコンセプトとしている。地域の病院からの緩和ケア患者を積極的に受け入れて連携を図った。</p> <p><u>・摂食・嚥下チーム</u> 内科医師、歯科医師、摂食・嚥下障害看護認定看護師、理学療法士、栄養士、歯科衛生士で構成。嚥下機能の正確な評価と口から食べることへの支援を行い、患者の生活の質の向上につなげた。具体的には、患者の口腔ケア、摂食時のポジショニング、食事形態の工夫などを行い、口腔内の機能</p>			

中期計画	令和3年度	地方独立行政法人広島市立病院機構による自己評価		市長による評価	
	年度計画	評価理由等	記号	評価理由・コメント等	記号
		<p>を改善し、誤嚥性肺炎の予防、栄養状態の改善を目指した。</p> <p>・<u>院内感染対策チーム</u> 定期的な部署ラウンド、他病院と連携して総合評価などを実施した。院内での感染対策上の問題をICT会議などで議論し、感染対策委員会へ提案、改善などを行った。</p> <p>新型コロナウイルス感染対策として、令和2年1月30日に新型コロナウイルス感染症対策マニュアルを作成し運用を開始した。必要時に評価しながら改訂を繰り返した。厚生労働省事務連絡や各種ガイドラインを参考に電子カルテを利用して情報共有した結果、院内で職員、患者の集団感染は発生しなかった。</p> <p>・<u>抗菌薬適正使用支援チーム（AST）</u> 大学病院から感染症専門医の派遣を受け、感染症専門医、感染管理認定看護師、抗菌薬化学療法認定薬剤師、臨床微生物検査技師により毎週月曜日15時から特定抗菌薬使用患者、血液培養陽性症例のコンサルテーション業務（電子カルテへのコメント入力）、内服抗菌薬チェック等を月平均30症例実施した。感染対策連携共通プラットフォームに登録し毎月データを提出し、また適宜、抗菌薬使用に関する相談を感染症専門医、薬剤師が行った。</p> <p>・<u>医療安全対策チーム</u> IA報告より対策立案や指針、マニュアルの改訂、システムの改善等を行い、定期的な院内ラウンドを通してマニュアルの周知を行った。医師・看護師・薬剤師・臨床検査技師・放射線技師・理学療法士・管理栄養士による院内ラウンドを実施し医療事故防止に努めた。院内研修の企画・運営も行い、職員の医療安全文化の醸成に努めた。</p> <p>・<u>褥瘡対策チーム</u> 皮膚排泄ケア認定看護師、医師、薬剤師、臨床検査技師、理学療法士、栄養士、各部署のリンクナースで患者ラウンドを行った。</p> <p>・<u>虐待防止チーム</u> 虐待を含む不適切な療養環境にある子どもや高齢者、障害児者、その家族に対し支援の方法を検討、実施した。虐待に関する院内研修の企画・運営も行い、職員の意識の向上に努めた。</p> <p>・<u>小児救急トリアージチーム</u> トリアージカンファレンスを定期的に行い、トリアージの検証（アンダー・トリアージ、オーバー・トリアージ）や稀少症例の検討などを行った。トリアージナースの育成の他、小児救急看護分野の院内認定看護師の育成も</p>			

中期計画	令和3年度	地方独立行政法人広島市立病院機構による自己評価		市長による評価	
	年度計画	評価理由等	記号	評価理由・コメント等	記号
		<p>行い、小児救急患者のアセスメント能力のスキルアップを図った。</p> <p>(リハビリテーション病院)</p> <p>○ チーム医療としてNST・栄養管理、摂食・嚥下、褥瘡対策などの活動を行っており、院内で活動状況の発表を行った。各活動の概要は以下のとおり。</p> <p><u>・栄養サポートチーム (NST)</u></p> <p>医師、歯科医師、看護師、栄養士、薬剤師、臨床検査技師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、歯科衛生士で構成。定期的なミールラウンド後のカンファレンスにて、摂取状況等の把握も行い、リハビリテーションをより効果的に進めるための栄養管理を実施した。</p> <p><u>・摂食・嚥下チーム</u></p> <p>医師、歯科医師、看護師、言語聴覚士、栄養士等で構成。摂食嚥下評価や摂食嚥下訓練・スタッフ指導等を定期的に行い、「口から食べる機能回復」に貢献した。令和3年度の摂食嚥下支援は対象人数77人、延べ件数453件(令和2年度対象人数32人、延べ件数236件)であった。</p> <p><u>・褥瘡対策チーム</u></p> <p>医師、皮膚排泄ケア認定看護師、看護師、理学療法士、作業療法士、薬剤師、栄養士で構成。定期的なラウンドを行い、褥瘡の予防対策に向け、チームアプローチを実施した。令和3年度の褥瘡発生率は0.4%(令和2年度0.2%)であった。</p> <p><u>・感染対策チーム</u></p> <p>医師、看護師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、薬剤師、臨床検査技師、歯科衛生士、保健師等で構成。毎月のICTラウンドや部署内研修、感染対策マニュアルの改訂などを実施した。令和3年度は看護師1人が感染管理認定看護師教育課程を修了し、院内のマニュアル整備とシステム構築に向けた取組を行った。新型コロナウイルス感染症対策として、職員のマスク・手洗い・体調管理の徹底、クラスター防止対策の環境調整などの職員教育を実施した。</p> <p><u>・リスクマネジメントチーム</u></p> <p>医師、医療安全管理者、看護師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、薬剤師、臨床検査技師、診療放射線技師、事務、管理栄養士、歯科衛生士、心理療法士等で構成。毎月のラウンドや部署内研修を行い、医療事故防止に努めた。また、リスクマネジメントマニュアルの改訂などを実施した。また、リハビリテーション病院で発生しやすいリスクについて、以下の小チームを</p>			

中期計画	令和3年度	地方独立行政法人広島市立病院機構による自己評価		市長による評価	
	年度計画	評価理由等	記号	評価理由・コメント等	記号
		<p>設置し、専門的に調査・検討している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・転倒転落対策チーム 転倒転落の事例を毎週集計し、必要時、原因・発生機序などを分析し、職員への注意喚起や情報発信等を行う。ベッドサイド環境のラウンドも実施した。 ・薬剤対策チーム 薬剤関連（内服・注射・点滴）に関するIAを集計し、原因・発生機序を分析しマニュアル改訂や再発防止に向けた職員へのフィードバックをした。注射・点滴関連の衛生材料の検討も実施した。 ・その他の事例対策チーム 高次脳機能障害や認知力低下のある患者による離院・離棟、暴言暴力、給食関連、院内連携などのIAを集計し安全で安心な医療体制づくりに向けた情報発信を実施した。 ・<u>離床促進チーム</u> 看護師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士で構成し、リハビリ時間以外に身体能力強化訓練を実施した。毎日行う立ち上がり訓練や排便体操は、令和3年度延べ6,037人（令和2年度8,462人）が参加した。なお、教育サロンは、新型コロナウイルス感染症の感染防止のため実施しなかった。 ・<u>患者サービス向上チーム</u> 看護師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士が企画し、筋力強化訓練、全職員が協力して患者参加のコンサートやリフレッシュ（嚥下・排便）体操などを実施している。なお、教育サロン及び座談会は、新型コロナウイルス感染症の感染防止のため実施しなかった。開催頻度は月1回程度のものから毎日のものまであり、参加者は令和3年度延べ8,498人（令和2年度7,748人）であった。 ・<u>認知症ケアチーム</u> 医師、認知症看護認定看護師、社会福祉士、作業療法士及び薬剤師等で構成。身体疾患のために入院した認知症患者に対する病棟での対応力とケアの質の向上を図るための活動を行った。令和3年度は対象人数140人、延べ7,805件（令和2年度対象人数110人、延べ5,875件）であった。また、全職員を対象に認知症ケアに関する研修会を実施した。 ・<u>排尿ケアチーム</u> 医師、皮膚・排泄ケア認定看護師、理学療法士、作業療法士で構成。令和2年11月から開始し、下部尿路機能障害を持つ患者に対し、排尿誘導や動作 			

中期計画	令和3年度	地方独立行政法人広島市立病院機構による自己評価		市長による評価	
	年度計画	評価理由等	記号	評価理由・コメント等	記号
	<ul style="list-style-type: none"> 生活機能改善支援センターの開設準備(安佐市民病院) 高度急性期医療を支えるhospitalistによる診療科、職種を超えた医療の推進(安佐市民病院) 	<p>訓練、指導など機能回復のための包括的なケアを提供した。定期的なカンファレンスやラウンドにて、評価・実践・教育を行った。令和3年度は延べ739件(令和2年度延べ202件)に介入した。</p> <p>【生活機能改善支援センターの開設準備(安佐市民病院)】</p> <p>○ 新病院でのPFMの促進と関連医療・福祉機関とのより密で信頼を得られる関係性を構築することを目的に、主に高齢入院患者を対象として、入院治療開始時から退院後の生活までの生活環境・栄養状態・ADL(日常生活活動度)を把握・評価するために、組織横断的に介入する組織としてのセンター開設準備を行った。</p> <p>栄養室・リハビリテーション科を中心に活動する体系を検討しており、得られた患者情報を医療支援センター・診療統括部・薬剤部・看護部・TQMセンターなどと情報を共有し、患者の良好な状態維持に努め、さらには関連医療・福祉機関への情報提供まで行える活動のサポートを予定している。</p> <p>【hospitalistによる診療科、職種を超えた医療の推進(安佐市民病院)】</p> <p>○ 内科医は、全員、総合診療医との認識を共有しており、平日日中の内科救急患者は内科系の各診療科に受診する救急総合診療部体制を整備している。この体制ではまず救急患者の初期診療を行い、専門診療が必要な患者のスクリーニングを行っている。このうち、高齢者の感染症など総合的な入院診療が必要な患者は初療にあたった内科系診療科を主担当科とし、あわせて救急担当医療ソーシャルワーカー、入退院支援看護師と早期から情報共有し、円滑なPFMに努めている。</p> <p>さらに令和3年度からは整形外科の入院患者に対して総合診療科医師がhospitalistとして周術期の総合的診療に介入し、薬剤師とポリファーマシー対策も進めている。</p> <p>このように、体制を強化し、合併症予防による医療安全の確保、円滑なPFMによる退院支援を推進している。</p>			

第1 市民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置

2 医療の質の向上

(3) 医療の安全確保の強化

中期目標 医療事故や院内感染、ヒヤリ・ハットなどに関する情報収集・分析の実施、予防及び再発防止への取組などにより、市民に信頼される安全な医療を提供すること。また、医療安全に係る体制やマニュアルを継続的に見直すことなどにより、医療安全対策の強化を図ること。

中期計画	令和3年度	地方独立行政法人広島市立病院機構による自己評価		市長による評価	
	年度計画	評価理由等	記号	評価理由・コメント等	記号
<p>(3) 医療の安全確保の強化(小項目)</p> <p>市民に信頼される安全な医療を提供するため、医療安全管理委員会等が中心となり、医療安全に関する情報の収集・分析、医療事故等の発生防止や対応マニュアルの作成、院内研修の実施を行うことなどにより、医療安全対策を徹底します。</p>	<p>(3) 医療の安全確保の強化(小項目)</p> <p>・医療安全対策の徹底 関連情報の収集・分析、対応マニュアルの点検、作成、院内研修等の実施 複数の医療機関と連携した医療安全対策に関する評価の実施</p> <p>持参薬、転倒転落等IA(インシデントアクシデント)件数が多い事象の再発防止に向けた対策の徹底(安佐市民病院)</p>	<p>【医療安全対策の徹底】</p> <p>○ 広島市民病院では、医療安全管理室に専従の医療安全管理者2人を配置し、医療安全管理を行った。また、県立広島病院、リハビリテーション病院と連携し、医療安全対策に関する相互評価を実施した。</p> <p>○ 安佐市民病院では、TQMセンター(医療安全対策担当)に、専従の医療安全管理者1人を配置し、医療安全管理を行った。また、安芸太田病院、JA吉田総合病院、野村病院及びメリィハウス西風新都病院の4医療機関と連携して、医療安全対策に関する相互評価を実施した。</p> <p>○ 舟入市民病院では、医療支援室に、専従の医療安全管理者1人を配置し、医療安全管理を行った。また、中電病院や共立病院、安芸市民病院と連携し、医療安全対策に関する相互評価を実施した。</p> <p>○ リハビリテーション病院では、医療支援室に専任の医療安全管理者1人を配置し、医療安全管理を行った。また、広島市民病院と連携し、医療安全対策に関する相互評価を実施した。</p> <p>○ 各病院とも、事例検討会やワーキンググループ活動で、事例の改善策の検討や医療安全関連のマニュアル等の見直し・整備を行った。</p> <p>○ 各病院とも各部署に、リスクマネジャーを配置し、IA報告を取りまとめ、各職種で構成される委員会に毎月報告するとともに、毎月部長会などで報告し院内への周知・情報の共有化を図った。</p> <p>【IA件数が多い事象の再発防止に向けた対策(安佐市民病院)】</p> <p>○ リハビリテーション科と協働し、転倒転落の環境ラウンドを実施し、部署のスタッフと転倒転落予防の器具選択を行い、転倒予防に努めた。また、再発防止に向けて、IAが報告された事例については、リハビリテーション科のスタッフが療養環境を評価し、適切な転倒予防器具の選択を行った。</p>	3	<p>年度計画を順調に実施しているため、「3」と評価した。</p>	3

中期計画	令和3年度	地方独立行政法人広島市立病院機構による自己評価		市長による評価	
	年度計画	評価理由等	記号	評価理由・コメント等	記号
	<p>診断レポート未読管理の実施（安佐市民病院）</p> <p>・院内感染の防止 新型コロナウイルス感染症をはじめとする感染症に関する情報収集、院内の調査・監視、職員への指導・啓発等の実施 抗菌薬適正使用支援チームによる指導の実施（広島市民病院、安佐市民病院、舟入市民病院）</p>	<p>【診断レポート未読管理の実施（安佐市民病院）】</p> <p>○ 放射線レポートについて診療放射線技師と医師が共同で未読レポートの目視によるチェックや未読医師への連絡を253件行った。 また、病理レポートについて臨床検査技師と医師が共同して未読レポートの目視によるチェックを1,676件行った。</p> <p>【院内感染の防止】 （広島市民病院）</p> <p>○ 医療支援センターに専従の感染管理認定看護師1人を配置し、月に1回の感染対策委員会開催のほか、感染制御チームと抗菌薬適正使用支援チームを設置し、院内の感染予防と管理に取り組んだ。また、全職員を対象とした感染対策教育として、eラーニングを12月に実施し、Web（ZOOM）による研修会を1月に開催した。</p> <p>○ 新型コロナウイルス感染症拡大防止対策として次の対策を実施した。 ・入院患者との面会禁止措置の実施 ・病院内の通抜けを防止するため入口の一部閉鎖 ・発熱外来の設置 ・病院見学、実習受入れの制限 ・職員には、医療従事者であることを自覚し、責任ある行動を取るよう周知</p> <p>○ 令和2年度から新型コロナウイルス感染症対策本部を設置しており、毎週対策本部会議を開催し、更に必要に応じて臨時的に必要な情報共有や専用病棟の開設や閉鎖、診療制限等といった感染拡大防止対策等の協議を行った。 （安佐市民病院）</p> <p>○ TQMセンターに専従の感染管理認定看護師1人を配置し、院内感染対策チームとサーベイランス、巡視活動、研修などを行うとともに、抗菌薬適正使用支援チーム（AST）において、抗菌薬使用の評価かつ適正使用の推進を図るため、感染症治療のモニタリング等を行い、必要時に介入を実施した。</p> <p>○ 感染対策加算2の病院とのカンファレンスはウェブ会議を実施し、地域の医療機関と感染対策の情報共有、感染対策の向上に取り組んだ。新型コロナウイルス感染症の感染対策に関しては、マニュアルの作成及び見直し、ゾーニングの実施、コロナ専用病棟の運用、面会制限の実施、外来トリアージ（病院玄関での入館者、面会者の体温測定）、体調不良者の就業制限の徹底を実施した。 （舟入市民病院）</p> <p>○ 新型コロナウイルスの感染防止としてマニュアルの見直しを行い、対応でき</p>			

中期計画	令和3年度	地方独立行政法人広島市立病院機構による自己評価		市長による評価	
	年度計画	評価理由等	記号	評価理由・コメント等	記号
		<p>るよう体制整備を行った。また、前記の感染症に関する研修会や感染防止のためのガウンテクニックの習得に向けたトレーニング等を実施した。さらに、面会制限、外来トリアージ（面会者・患者の体温測定）、職員の体温測定と体温管理表への記載、体調不良者の把握と舟入市民病院発熱外来への受診等健康管理の強化、一部の委員会及び研修会の中止又はビデオ形式研修等への変更、院内外の研修参加の自粛を行った。</p> <p>（リハビリテーション病院）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 感染対策委員会で新型コロナウイルス感染症対策マニュアルの見直しを行うとともに、新型コロナウイルス感染症対策本部において院内感染予防を最優先とした発生段階ごとの対策の周知徹底や、面会の禁止及び緩和、外来リハビリテーション等の利用制限の実施及び終了などについて検討した（令和3年度は対策本部会議を7回開催した。）。 ○ 職員に対して、病院長が健康管理などについて徹底するよう指導した。 新型コロナウイルス感染症が急拡大した1月13日から3月6日までの間、公共交通機関の混雑を回避するため、事務室職員2人について時差出勤を実施した。 ○ 後方支援病院として新型コロナウイルス感染症が回復後、引き続き入院管理が必要な患者を受け入れるに当たり、受入患者に対する感染対策やリハビリテーションの実施方法等について随時見直しを行った。 			

第1 市民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置

2 医療の質の向上

(4) 医療に関する調査・研究の実施

中期目標

職員の自主的な研究活動を支援するとともに、治験を積極的に推進するなど、質の高い医療の提供と医療水準の向上を図るための調査・研究に取り組むこと。

中期計画	令和3年度	地方独立行政法人広島市立病院機構による自己評価		市長による評価	
	年度計画	評価理由等	記号	評価理由・コメント等	記号
<p>(4) 医療に関する調査・研究の実施 (小項目)</p> <p>職員の自主的な研究活動を支援するとともに、研究成果の情報発信に努めます。また、治験等の臨床研究の推進に積極的に取り組みます。</p>	<p>(4) 医療に関する調査・研究の実施 (小項目)</p> <ul style="list-style-type: none"> 職員の自主的な研究活動の支援と研究成果の発信 <p>・患者の意見を尊重した治験等臨床研究の推進</p>	<p>【職員の自主的な研究活動の支援と研究成果の発信】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 職員の自主的な研究成果を発表する場として、院内機関誌（広島市民病院「医誌」、安佐市民病院「業績集」）の発行や学会での発表に配慮した勤務シフトの見直しなどを行った。広島市民病院では、職員向けにインターネットによる文献検索サイトや国内外の医療雑誌を収録した電子ジャーナル及び研修医向け臨床医学情報サイトと契約した。舟入市民病院では、院内において自主的な研究活動の発表会を実施した。リハビリテーション病院では、学会発表や論文発表などを取りまとめた年報を作成し、院内において自主的な研究活動の発表会を実施した。 ○ 広島市民病院では、医療機関等から提案の研究内容に賛同し積極的に共同研究事業に参画しており、日本医療研究開発機構（AMED）委託費による東京医療センター（1件）、国立がん研究センター（1件）、岐阜大学（1件）、防衛医科大学校（1件）、広島大学病院（1件）との共同研究事業（計5件）を行った。 ○ 安佐市民病院では、医療機関等から提案の研究内容に賛同し積極的に共同研究事業に参画しており、日本医療研究開発機構（AMED）委託費による静岡がんセンター（2件）、国立がん研究センター（1件）及び京都府立医科大学（1件）とのがん治療に関する共同研究事業（計4件）を行った。 ○ 舟入市民病院では、令和2年3月から、抗ウイルス効果が期待される薬剤の投与による新型コロナウイルス感染症患者の臨床情報に関する観察研究（国立国際医療研究センター レジストリ研究、藤田医科大学 COVID-19 観察研究）に登録し、令和3年度においても症例報告を行った。 <p>【患者の意見を尊重した治験等臨床研究の推進】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 広島市民病院では、治験参加の同意を得る際には、副作用や参加のメリット・デメリットをより詳しく説明し、患者の理解を十分に得た上で実施して 	3	<p>年度計画を順調に実施しているため、「3」と評価した。</p>	3

中期計画	令和3年度	地方独立行政法人広島市立病院機構による自己評価		市長による評価	
	年度計画	評価理由等	記号	評価理由・コメント等	記号
		<p>いる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 安佐市民病院では、臨床研究について倫理的、科学的妥当性を倫理委員会で審議している。治験を実施する際には、患者に対して文書による説明を行った上で同意を得ている。 令和3年度は、研究倫理とは別に臨床倫理についても委員会を設け、治療のあり方について検討した。 ○ 舟入市民病院では、臨床研究について倫理的、科学的妥当性を倫理委員会で審議している。 ○ リハビリテーション病院では、臨床研究について倫理的、科学的妥当性を倫理委員会で審議している。診療情報等を研究目的に利用するに当たっては、入院時に患者に対し文書で説明し、同意を得ている。 			

第1 市民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置
 2 医療の質の向上
 (5) 災害医療体制の充実

中期目標 広島市地域防災計画等に基づき、日頃から防災関係機関や他の災害拠点病院との連携を図るとともに、災害時には、病院機能を維持し、迅速に災害医療の提供を行うことができる体制を整備すること。

中期計画	令和3年度	地方独立行政法人広島市立病院機構による自己評価		市長による評価	
	年度計画	評価理由等	記号	評価理由・コメント等	記号
<p>(5) 災害医療体制の充実(小項目)</p> <p>災害その他の緊急時には、広島市地域防災計画等に基づき、広島市長からの求めに応じて適切に対応するとともに、自らの判断で医療救護活動を行います。また、広島市の防災関係機関等と連携を図り、市立病院として求められる医療の提供等を行います。</p>	<p>(5) 災害医療体制の充実(小項目)</p> <ul style="list-style-type: none"> 災害その他の緊急時における、医療救護活動の実施 看護体制が維持できる必要人員の確保 災害時公衆衛生チームによる災害時リハビリテーションの実施(リハビリテーション病院) 	<p>【災害その他の緊急時における、医療救護活動の実施】</p> <p>(広島市民病院)</p> <ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、令和2年度と同様に広島県看護協会主催の講習は開催されなかったが、令和3年度は、災害支援ナースとして31人の登録となった。 令和3年8月の大雨災害の際、広島県の要請を受けDMAT隊員(医師1名、看護師1名、診療放射線技師1名)が、浸水被害を受けた病院支援に向けた準備を行った。 新型コロナウイルス感染症患者対応では、看護師の派遣を行い、クラスター発生施設に延べ8人、酸素センターに延べ13人、輸液センターに延べ13人の派遣を行った。また、宿泊療養者対応として広島県と業務委託契約を締結し、令和3年4月1日～6月27日、8月3日～10月22日、令和4年1月3日～3月25日について、夜間対応を含むオンコール体制で対応した。 <p>(安佐市民病院)</p> <ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、広島県看護協会主催の講習は開催されなかったが、令和3年度は、災害支援ナースとして7人の登録となった。 令和3年度の医療救護活動の実績はなかったが、広島県主催によるDMAT(災害派遣医療チーム)の研修に医師、看護師、事務職が参加した。 <p>(舟入市民病院)</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和3年度は、災害支援ナース9人の登録があり、2人の看護師に公益社団法人日本看護協会のオンライン研修を受講させた。 	4	<p>新型コロナウイルス感染症拡大時には、クラスター発生施設等への看護師の派遣や宿泊療養者対応を行うとともに、8月の大雨災害時にはリハビリテーション病院に福祉避難所を設置し、避難者の受入を行うなど、年度計画を上回っていると認められるため、「4」と評価した。</p>	4

中期計画	令和3年度	地方独立行政法人広島市立病院機構による自己評価		市長による評価	
	年度計画	評価理由等	記号	評価理由・コメント等	記号
		<ul style="list-style-type: none"> ○ 研修会を開催するなど、防災に関する意識付けを行った。 ○ 新型コロナウイルス感染症の対応として、広島県からの応援要請を受け、県内の施設や病院に感染管理認定看護師を派遣し、指導を行った。 <p>【災害時リハビリテーションの実施（リハビリテーション病院）】 （リハビリテーション病院）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 災害その他緊急時には、広島県地域リハビリテーション広域支援センターとして、広島県災害時公衆衛生チーム（リハビリチーム）に理学療法士等を派遣し、避難所での災害時リハビリテーションを行う体制を整備している。 ○ リハビリテーション病院・自立訓練施設では、平成25年度に広島市と福祉避難所の設置及び管理運営に係る協定書を締結し、要請があった際は避難が必要な障害者、要介護者等を受け入れることとしている。令和3年8月14日に大雨特別警報が発表された際に、広島市安佐南区災害対策本部からの要請により、福祉避難所を設置し、避難者2人を受け入れた。 ○ 新型コロナウイルス感染症患者の受入医療機関の後方支援として、新型コロナウイルス感染症が回復後、引き続き入院管理が必要な患者の転院受入を行った（舟入市民病院5人、安佐市民病院2人、広島市民病院3人、県立広島病院9人、その他県内医療機関2人）。 ○ 新型コロナウイルス感染症の施設クラスター発生に伴う応援要請があり、看護師1人を派遣した。 ○ 新型コロナウイルス感染症対応で業務が逼迫している舟入市民病院に、トリアージや新型コロナ病棟での業務応援として看護師1人を派遣した。 			

第1 市民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置

3 患者の視点に立った医療の提供

(1) 病院情報・医療情報の発信

中期目標	ア 診療内容や治療実績などの患者等が病院を選択する上で必要な情報、病院の現状や地域の医療機関との役割分担に係る市民の理解を促進する情報及び健康づくりや疾病に関する情報を積極的に提供すること。 イ 病院の運営内容や経営状況についての情報及び医療に関する研究成果などの情報を、市民に分かりやすく発信すること。
------	---

中期計画	令和3年度	地方独立行政法人広島市立病院機構による自己評価		市長による評価	
	年度計画	評価理由等	記号	評価理由・コメント等	記号
3 患者の視点に立った医療の提供 (大項目)	3 患者の視点に立った医療の提供 (大項目)				
(1) 病院情報・医療情報の発信 (小項目) ・ ホームページや広報紙等を利用した病院の特色や治療実績等の積極的な情報発信に取り組むとともに、病院の現状や地域の医療機関との役割分担に係る市民の理解を促すための情報及び健康づくりや疾病に関する情報を市民に分かりやすい形で発信します。 ・ 病院の運営、財務に関する計画や実績、医療に関する研究成果等を市民に分かりやすい形で公表します。また、地方独立行政法人化の目的や効果について、広報します。	(1) 病院情報・医療情報の発信 (小項目) ・ 市立病院機構及び各病院のホームページの充実 ・ 病院の現状や地域の医療機関との役割分担に係る市民の理解を促すための情報の発信	【ホームページの充実】 ○ 広島市民病院では、広報等の新規情報の掲載を迅速に行うとともに、時宜を得た掲載情報の更新を行った。 ○ 安佐市民病院では、紙媒体からPCやスマートフォンなどの電子媒体による情報公開へ切替え、充実を図った。患者・家族に視覚的に分かりやすいホームページとするため、動画配信、SNSを駆使した最新の情報公開を行っている。また、各診療科からの情報発信としてオンラインで参加が可能な講演会（ハイブリッド形式）を定期的に開催している。 ○ 舟入市民病院では、他病院と連携を図り、ホームページに年末年始救急診療の待ち時間表示を行った。 ○ リハビリテーション病院では、各種情報の新規掲載や更新を行うよう努めており、令和2年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴う面会制限やリモート面会の実施、外来リハビリテーション等の利用制限など感染防止対策についての情報提供に努めた。 【病院の現状や地域の医療機関との役割分担に係る市民の理解を促すための情報の発信】 ○ 各病院の扱った症例と施術内容、研究業績等の医療情報は、学会や、各病院のホームページ、病院の発行する広報誌及び情報誌で情報提供した。 ○ 広島市民病院では、国立研究開発法人科学技術振興機構が作成しているインターネット上の文献データベースに「医誌」を登録し、掲載している論文の概要を公開した。 ○ 広島市民病院のホームページにおいて、同病院の役割である救急医療コントロール機能（受入困難事案の救急患者を一旦受け入れて初期診療を行った	3	年度計画を順調に実施しているため、「3」と評価した。	3

中期計画	令和3年度	地方独立行政法人広島市立病院機構による自己評価		市長による評価	
	年度計画	評価理由等	記号	評価理由・コメント等	記号
		<p>上で、必要に応じて支援医療機関へ転院させるもの)や地域医療連携についての情報を提供している。</p> <p>また、トップページから「外来担当医一覧」にタブを設け、診療科の「診療内容」、「診療分野」とその分野の「外来担当医」、「医師情報詳細」にアクセスしやすいように設定した。</p> <p>○ 安佐市民病院では、ホームページ掲載の「院内がん登録集計表（広島県共通様式）」を更新した他、過去10年のがん診療における患者傾向をまとめ掲載した。また、地元医師会の学会にて安佐市民病院の高齢者がん診療の現状、特に高齢化と機能分化について発表を行い、地域の医療職へ情報発信を行った。</p> <p>○ 安佐市民病院では、広報誌やホームページにおいて、地域医療連携についての救急医療体制の紹介及び窓口の明記を行った。また、病院正面玄関入口に登録医の医療機関の地図、紹介チラシを配置した「地域医療連携マップ」を掲示し、受診相談やかかりつけ医紹介に活用した。</p> <p>○ 舟入市民病院のホームページでは、小児患者の利用が多いことから、夜間や休日などの診療時間外に病院を受診するかどうかの判断の目安を掲載するとともに、子どもの急なけが・事故・病気への対応が行えるよう、広島小児救急医療相談電話（こどもの救急電話相談）の案内や休日夜間の診療のための「小児救急の待ち時間情報」を提供した。</p> <p>○ 舟入市民病院では、地域の公民館と協働し、地域住民を対象に健康づくり活動や地域のクリニックや訪問看護ステーション、介護施設、薬局などから医療職を対象に、多職種合同地域連携研修会を計画していたが、新型コロナウイルス感染症の流行により、実施できなかった。</p> <p>○ リハビリテーション病院のホームページでは、診療内容や施設の概要を病院早わかりスライドショーで紹介するとともに、病院及び自立訓練施設の利用についての相談窓口を明記して、転院や入所の手続きなどについて情報提供を行った。</p> <p>また、リハビリテーション病院が発行する広報誌においても令和3年度は診療実績、ロボットスーツによるリハビリテーションや自立訓練施設の紹介などの情報提供に努めた。</p> <p>このほか、令和3年度は前年度に引き続き、広島市の広報番組においてリハビリテーション病院、自立訓練施設、広島市身体障害者更生相談所が一体となって障害者の社会復帰を支援していることをPRした。</p>			

中期計画	令和3年度	地方独立行政法人広島市立病院機構による自己評価		市長による評価	
	年度計画	評価理由等	記号	評価理由・コメント等	記号
	・病院の運営、財務に関する計画や実績等の公表	【病院の運営、財務に関する計画や実績等の公表】 ○ 市立病院機構のホームページに、法人の基本理念や基本方針、中期計画、年度計画などを公表するとともに、財務諸表や事業報告書、業務実績に係る評価結果等を掲載した。			

第1 市民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置

3 患者の視点に立った医療の提供

(2) 法令・行動規範の遵守

中期目標

医療法を始めとする関係法令を遵守することはもとより、市立病院としての行動規範と倫理に基づき、適正な病院運営を行うこと。また、個人情報保護及び情報公開に関しては、本市条例等に基づき適切に対処するとともに、情報セキュリティ対策の強化に取り組むこと。

中期計画	令和3年度	地方独立行政法人広島市立病院機構による自己評価		市長による評価	
	年度計画	評価理由等	記号	評価理由・コメント等	記号
<p>(2) 法令・行動規範の遵守 (小項目)</p> <p>医療法を始めとする関係法令及び行動規範の遵守についての研修等を行い、職員の意識を向上させ、適正な病院運営に取り組みます。また、広島市立病院機構情報セキュリティポリシーに基づき、個人情報を適正に取り扱います。</p>	<p>(2) 法令・行動規範の遵守 (小項目)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・倫理・サービスに関する研修の実施などによる服務規律の徹底 ・広島市立病院機構情報セキュリティポリシーに基づく、個人情報の適正な取扱い 	<p>【服務規律の徹底】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ サービス規律の徹底を図るため、新規採用職員を対象に、サービス規律に関する法人の規程の説明や過去の処分事例の紹介等、新型コロナウイルス感染症の拡大により、機構全体での合同研修が開催できなかったが、各職員の動画視聴による研修を実施した。 ○ 金品受領禁止や飲酒運転防止等、サービス規律の遵守について、文書により職員へ周知徹底し、綱紀粛正を図った。 ○ 研修等を実施したものの、飲酒運転による懲戒解雇処分事案が1件発生した。この件においては、直ちに当該病院の部長会において、改めて飲酒運転防止のための取組を周知するとともに、各病院長に対して、文書により飲酒運転の根絶に向けた周知徹底を行った。 <p>【個人情報の適正な取扱い】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 広島市立病院機構情報セキュリティポリシーに基づき、令和3年度はビデオ教材による情報セキュリティ研修を実施し、個人情報の適正な取扱いについて、職員への意識向上を図った。 	2	<p>サービス規律の遵守のため、規程等の周知徹底や研修による意識の向上を図ったことは認められるが、職員の飲酒運転による懲戒解雇処分事案が1件発生したため、「2」と評価した。</p>	2

第1 市民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置

3 患者の視点に立った医療の提供

(3) 安心して最適な医療の提供

中期目標	ア 患者の権利を尊重し、患者中心の医療であることを十分に認識するとともに、患者やその家族が抱える様々な不安や問題などの相談に積極的に対応することで、安心して医療を受けられる環境を提供すること。
	イ インフォームド・コンセント（患者自身が医療内容を理解・納得し、自分に合った治療法を選択できるよう、患者に十分な説明を行った上で同意を得ること。）を徹底することで、信頼と満足の得られる医療を提供すること。
	ウ セカンドオピニオン（診断や治療方針について主治医以外の医師から意見を聴くこと。）の充実により、患者に合った診療の選択を支援すること。
	エ クリニカルパス（疾病別に退院までの治療内容を標準化した計画書）の活用拡大などにより、入院から退院まで安全・適正かつ効率的な医療を提供すること。

中期計画	令和3年度	地方独立行政法人広島市立病院機構による自己評価		市長による評価							
	年度計画	評価理由等	記号	評価理由・コメント等	記号						
(3) 安心して最適な医療の提供	(3) 安心して最適な医療の提供										
<p><u>ア 相談機能の強化(小項目)</u> 安心して医療を受けられる環境を提供するため、医療支援センター等の相談支援体制を強化し、疾病や入院等に関することや、退院後の療養や介護支援など、患者やその家族が抱える様々な不安や問題などの相談に積極的に対応します。</p>	<p><u>ア 相談機能の強化(小項目)</u> ・手術を受ける患者に対し周術期を通じ安心・安全な医療を提供するため、周術期外来を開設（広島市民病院） ・患者相談窓口業務の充実（安佐市民病院、舟入市民病院）</p>	<p>【周術期外来の開設（広島市民病院）】 ○ 令和3年1月から、入院支援室、麻酔科、手術室連携による呼吸器外科を対象とした周術期外来を試行開設した。その結果、介入により術後合併症が少なく、入院日数短縮や患者の不安軽減が見られ、介入の有益性が認められたことから、本格的な周術期外来の開設に向けて検討を行っている。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>令和2年度(1~3月)</th> <th>令和3年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>呼吸器外科症例の介入</td> <td>16件</td> <td>106件</td> </tr> </tbody> </table> <p>【患者相談窓口業務の充実】 ○ 安佐市民病院では、広島医療圏の中核病院として前方連携、後方連携に積極的に取り組み地域包括ケアシステムの中で患者が安心して地域での生活が送れるように支援した。 ○ 安佐市民病院では、地域との連携強化に向けて、コロナ禍においても可能な限り地域の医療機関への直接訪問やWebの使用による「顔の見える連携」に取り組んだ。また、退院後の地域の医療機関への紹介にあたっては、積極的にWebカンファレンスを開催し患者の退院後の生活支援に取り組んだ。さらに、看護連携フォーラムをWeb開催することにより、地域施設との連携を図ることができた。 ○ 安佐市民病院では、入退院支援3,745件、退院時共同指導36件、保険医共同指導5件、多機能共同指導23件を実施した。 (令和2年度入退院支援3,231件、退院時共同指導37件、保険医共同指導3件、</p>	区分	令和2年度(1~3月)	令和3年度	呼吸器外科症例の介入	16件	106件	3	年度計画を順調に実施しているため、「3」と評価した。	3
区分	令和2年度(1~3月)	令和3年度									
呼吸器外科症例の介入	16件	106件									

中期計画	令和3年度	地方独立行政法人広島市立病院機構による自己評価		市長による評価	
	年度計画	評価理由等	記号	評価理由・コメント等	記号
	<ul style="list-style-type: none"> ・自殺未遂者支援窓口と医療機関等との連携（広島市民病院、安佐市民病院） ・緊急入院患者への早期の介入（安佐市民病院） 	<p>多機能共同指導 22 件）。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 舟入市民病院では、相談窓口対応のできるスタッフを増員し、素早い対応を行い問題解決できるよう各部署と調整を行った。 <p>【自殺未遂者支援窓口と医療機関等との連携】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 広島市民病院では、令和3年度も引き続き広島市が進める自殺未遂者の自殺再企図防止支援事業への協力を継続するとともに、弁護士会「自死ハイリスク者のための支援事業」にも協力し自殺再企図防止に取り組んだ。 ○ 安佐市民病院では、広島市からの委託を受け、平成30年4月から自殺未遂者支援コーディネーターの配置を行うなど、支援体制を構築し、引き続き、「自傷患者への早期介入を行う」ことを目標とし、月1回、市の担当部署（精神保健福祉センター）や他の病院（広島市民病院等）のコーディネーターとともに会議を行い、支援内容の実施報告や課題等について協議を実施した。 <p>【緊急入院患者への早期の介入（安佐市民病院）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 救急担当の医療ソーシャルワーカーが中央処置室に常駐し、入退院支援看護師とともに入院患者に対する早期介入による円滑なPFMに努めている。令和3年度は特に脳神経疾患領域の後方支援病院への連携強化に努め、患者や患者家族が安心して治療を受けることができる体制を強化した。新病院では、地域救命救急センターを設置するため、入院時重症患者対応メディエーターの育成を推進することとしている。 			
<u>イ インフォームド・コンセントの徹底（小項目）</u> インフォームド・コンセント（患者自身が医療内容を理解・納得し、自分に合った治療法を選択できるよう、患者に十分な説明を行った上で同意を得ること。）を徹底し、患者の権利を尊重し、信頼と満足を得られる医療を提供します。	<u>イ インフォームド・コンセントの徹底（小項目）</u> <ul style="list-style-type: none"> ・患者の権利を尊重し、信頼と満足を得られる医療を提供できるよう、インフォームド・コンセントの徹底 ・患者の情報共有と情報を活用した支える医療（治療・ケアの方向性）の推進 	<p>【インフォームド・コンセントの徹底】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 各病院において、治療方法の決定に当たっては、インフォームド・コンセントを徹底し、患者の権利を尊重し、信頼と満足を得られる医療を提供した。 <p>【患者の情報共有と情報を活用した支える医療の推進】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ リハビリテーション病院では、多職種が参加するカンファレンスで患者に関する情報共有を行い、その情報を反映させた「リハビリテーション総合実施計画書」を作成し、患者に渡して、リハビリテーションの状況や今後の回復目標などを説明した。 	3	年度計画を順調に実施しているため、「3」と評価した。	3

中期計画	令和3年度	地方独立行政法人広島市立病院機構による自己評価		市長による評価																																																								
	年度計画	評価理由等	記号	評価理由・コメント等	記号																																																							
<p>ウ セカンドオピニオンの実施 (小項目)</p> <p>セカンドオピニオン (診断や治療方針について主治医以外の医師から意見を聴くこと。) を実施するとともに、市立病院の患者が、他の医療機関でのセカンドオピニオンを希望する場合には、適切に支援します。</p>	<p>ウ セカンドオピニオンの実施 (小項目)</p> <p>・セカンドオピニオンの実施及び他の医療機関を希望する患者の適切な支援</p>	<p>【セカンドオピニオンの実施及び他の医療機関を希望する患者の適切な支援】</p> <p>○ 各病院において、セカンドオピニオンを自由に依頼することができる旨を院内に掲示するとともに、ホームページにも掲載し、患者への周知を図った。</p> <p>(セカンドオピニオン件数 (令和3年度) ※ () 内は令和2年度)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>病院が受けた件数</th> <th>他院を紹介した件数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>広島市民病院</td> <td>70件 (85件)</td> <td>80件 (71件)</td> </tr> <tr> <td>安佐市民病院</td> <td>5件 (0件)</td> <td>23件 (19件)</td> </tr> <tr> <td>舟入市民病院</td> <td>—</td> <td>2件 (3件)</td> </tr> <tr> <td>リハビリテーション病院</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> </tbody> </table>	区分	病院が受けた件数	他院を紹介した件数	広島市民病院	70件 (85件)	80件 (71件)	安佐市民病院	5件 (0件)	23件 (19件)	舟入市民病院	—	2件 (3件)	リハビリテーション病院	—	—	3	<p>年度計画を順調に実施しているため、「3」と評価した。</p>	3																																								
区分	病院が受けた件数	他院を紹介した件数																																																										
広島市民病院	70件 (85件)	80件 (71件)																																																										
安佐市民病院	5件 (0件)	23件 (19件)																																																										
舟入市民病院	—	2件 (3件)																																																										
リハビリテーション病院	—	—																																																										
<p>エ クリニカルバスの活用拡大 (小項目)</p> <p>クリニカルバス (疾病別に退院までの治療内容を標準化した計画書) の活用を拡大するとともに、既存のクリニカルバスを適時見直し、良質な医療を安全、適正かつ効率的に提供します。</p> <p>【目標値】クリニカルバス適用率 (単位: %)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>平成28年度実績</th> <th>令和3年度目標値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>広島市民病院</td> <td>49.9</td> <td>55.0</td> </tr> <tr> <td>安佐市民病院</td> <td>51.0</td> <td>55.0</td> </tr> <tr> <td>舟入市民病院</td> <td>38.9</td> <td>50.0</td> </tr> <tr> <td>リハビリテーション病院</td> <td>62.5</td> <td>64.0</td> </tr> </tbody> </table> <p>※適用率は、新入院患者のうちクリニカルバスを適用した患者の割合</p>	区分	平成28年度実績	令和3年度目標値	広島市民病院	49.9	55.0	安佐市民病院	51.0	55.0	舟入市民病院	38.9	50.0	リハビリテーション病院	62.5	64.0	<p>エ クリニカルバスの活用拡大 (小項目)</p> <p>・クリニカルバスの活用の拡大及び既存のクリニカルバスの検証・適時見直し</p> <p>【目標値】クリニカルバス適用率 (単位: %)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>令和3年度目標値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>広島市民病院</td> <td>55.0</td> </tr> <tr> <td>安佐市民病院</td> <td>55.0</td> </tr> <tr> <td>舟入市民病院</td> <td>50.0</td> </tr> <tr> <td>リハビリテーション病院</td> <td>64.0</td> </tr> </tbody> </table> <p>※適用率は、新入院患者のうちクリニカルバスを適用した患者の割合</p>	区分	令和3年度目標値	広島市民病院	55.0	安佐市民病院	55.0	舟入市民病院	50.0	リハビリテーション病院	64.0	<p>【クリニカルバスの活用の拡大及び既存のクリニカルバスの検証・適時見直し】</p> <p>○ 各病院とも、院内のクリニカルバス委員会において、クリニカルバスの活用拡大に努めた。広島市民病院では、看護師勉強会を開催しDPCについての理解を促進するとともに、DPCを利用して全国と当院の平均在院日数を比較した分析も行い、既存のクリニカルバスの見直し・作成、適用率向上のための協議を行った結果、24件の新規バス作成、既存のバス1件を見直した。安佐市民病院では、新規に4件のバスを作成したほか、8件のバスの見直しを行った。また、バスをバリエーション分析方法により再検討し、バスの最適化を行った。舟入市民病院では、新型コロナウイルス感染症のバスについて、治療薬の変更に伴い見直しを行い、活用した。</p> <p>【実績】クリニカルバス適用率 (単位: %)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>平成29年度実績</th> <th>平成30年度実績</th> <th>令和元年度実績</th> <th>令和2年度実績</th> <th>令和3年度実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>広島市民病院</td> <td>51.9</td> <td>51.1</td> <td>51.1</td> <td>51.7</td> <td>49.1</td> </tr> <tr> <td>安佐市民病院</td> <td>50.0</td> <td>52.2</td> <td>53.5</td> <td>52.5</td> <td>50.5</td> </tr> <tr> <td>舟入市民病院</td> <td>54.2</td> <td>48.0</td> <td>47.8</td> <td>49.5</td> <td>69.1</td> </tr> <tr> <td>リハビリテーション病院</td> <td>59.9</td> <td>62.0</td> <td>62.9</td> <td>60.0</td> <td>60.6</td> </tr> </tbody> </table> <p>※適用率は、新入院患者のうちクリニカルバスを適用した患者の割合</p>	区分	平成29年度実績	平成30年度実績	令和元年度実績	令和2年度実績	令和3年度実績	広島市民病院	51.9	51.1	51.1	51.7	49.1	安佐市民病院	50.0	52.2	53.5	52.5	50.5	舟入市民病院	54.2	48.0	47.8	49.5	69.1	リハビリテーション病院	59.9	62.0	62.9	60.0	60.6	3	<p>舟入市民病院以外の病院のクリニカルバスの適用率が年度計画を下回っているため、「2」と評価した。</p>	2
区分	平成28年度実績	令和3年度目標値																																																										
広島市民病院	49.9	55.0																																																										
安佐市民病院	51.0	55.0																																																										
舟入市民病院	38.9	50.0																																																										
リハビリテーション病院	62.5	64.0																																																										
区分	令和3年度目標値																																																											
広島市民病院	55.0																																																											
安佐市民病院	55.0																																																											
舟入市民病院	50.0																																																											
リハビリテーション病院	64.0																																																											
区分	平成29年度実績	平成30年度実績	令和元年度実績	令和2年度実績	令和3年度実績																																																							
広島市民病院	51.9	51.1	51.1	51.7	49.1																																																							
安佐市民病院	50.0	52.2	53.5	52.5	50.5																																																							
舟入市民病院	54.2	48.0	47.8	49.5	69.1																																																							
リハビリテーション病院	59.9	62.0	62.9	60.0	60.6																																																							

第1 市民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置

3 患者の視点に立った医療の提供

(4) 患者サービスの向上

中期目標

常に患者やその家族の立場を考え、温かく心のこもった対応ができるよう、職員の接遇の一層の向上を図ること。また、患者等のニーズを的確に捉え、療養環境の改善や待ち時間の短縮などに取り組むとともに、患者満足度の高いよりきめ細やかなサービスの提供に努めること。

中期計画	令和3年度	地方独立行政法人広島市立病院機構による自己評価		市長による評価	
	年度計画	評価理由等	記号	評価理由・コメント等	記号
<p>(4) <u>患者サービスの向上</u> (小項目)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 接遇研修等を実施し、常に患者やその家族の立場を考え、温かく心のこもった対応ができるよう、職員の接遇の一層の向上を図ります。また、定期的なアンケート調査などにより、患者やその家族のニーズを把握し、よりきめ細やかなサービスの提供に努めます。 ・ 外来の診察・検査・会計の待ち時間の短縮に向けた改善方策の検討を行い、可能な取組から実施するとともに、病院給食について、個々の入院患者の病状や体質に配慮しながらも、おいしい給食となるよう、改善に取り組みます。 	<p>(4) <u>患者サービスの向上</u> (小項目)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 接遇研修等の実施 	<p>【接遇研修等の実施】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 広島市民病院では、接遇・身だしなみ自己チェックの実施、接遇研修会においては資料配布、全部署への冊子「さわやかマナー」の配付を行い、接遇対応能力の向上に取り組んだ。 また、患者及び家族等の負担軽減を図るため、入院患者が入院生活に必要な物品を洗濯付きで貸与する「入院セットサービス」システムを導入した。 ○ 安佐市民病院では、令和3年度の年間目標を「あいさつで ひろがる笑顔 心のゆとり」と定め、新型コロナウイルスの感染防止に配慮しながら、挨拶運動の代わりに期間中は電子カルテの待ち受け画面に標語等を表示させる等、工夫をして接遇の向上に取り組んだ。 ○ 舟入市民病院では、病院全職員に対し、eラーニングを導入して接遇研修を実施した。また、看護科の患者サービス委員会が中心となって、入院患者と外来患者を対象に接遇に関するアンケートの実施や接遇標語を毎日唱和し、接遇の向上に取り組んだ。 ○ リハビリテーション病院では、挨拶・声掛けを目標として掲げ（各執務室に目標を掲示）、接遇に取り組んでおり、令和4年1月に「さわやかあいさつ運動」を実施した。 また、リハビリテーション病院では、新型コロナウイルス感染症の感染防止に伴う面会制限や外出・外泊制限が続く入院患者や入所者を元気づけるため、令和3年12月に広島市立沼田高校吹奏楽部、広島市立伴中学校吹奏楽部、広島市立大塚中学校和太鼓部の演奏動画を病棟及び自立訓練施設で上映した。 <p>【アンケート調査結果を踏まえた対応の検討、実施】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 広島市民病院では、令和3年10月に入院患者と外来患者を対象とした患者アンケートを実施し、アンケート結果をとりまとめ、医療の質改善委員会で報告を行い、幹部会、部長会及び看護師長会を通じて院内に周知を図った。 	3	<p>年度計画を順調に実施しているため、「3」と評価した。</p>	3
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 病院の対応のアンケート調査の実施及び調査結果を踏まえた対応の検討、実施 				

中期計画	令和3年度	地方独立行政法人広島市立病院機構による自己評価		市長による評価	
	年度計画	評価理由等	記号	評価理由・コメント等	記号
	<ul style="list-style-type: none"> ・外来の診察・検査・会計の待ち時間の短縮に向けた改善方策の検討、実施 ・病院給食についてのアンケート調査の実施及び委託業者と連携した改善方策の検討、実施 	<p>○ 安佐市民病院では、入院患者は年間を通じて、外来患者は令和3年11月末から12月初めの一週間にわたり、患者満足度アンケート調査を実施した。調査結果（入院患者分は月単位で取りまとめ）については、院内で情報共有を行い、待ち時間の短縮など各部門における運用の見直しや患者サービスの向上に関する取組の参考データとして活用した。</p> <p>○ 舟入市民病院では、令和4年3月に患者満足度アンケート調査を実施した。また、院内の患者サービス委員会において調査結果を踏まえた対応を検討している。</p> <p>○ リハビリテーション病院では、患者満足度アンケート調査を年2回実施し、調査結果をホームページで公表した。また、院内のサービス向上委員会で調査結果を踏まえた対応を検討した。</p> <p>【外来の診察・検査・会計の待ち時間の短縮に向けた改善方策の検討、実施】</p> <p>○ 広島市民病院では、令和3年9月より再来受付機の稼働開始時間を午前7時から午前7時30分に変更するとともに、再来受付機の受付時間を診察・検査の予約時間の1時間30分前からと制限を設けることで、中央処置室における診察前採血待ち患者の早朝からの混雑緩和に取り組んだ。</p> <p>○ 安佐市民病院では、外来待ち時間の実態調査を令和3年11月に実施した。外来待ち時間短縮の取り組みを行い、令和2年度と比較して採血のある診察待ち時間が8分、採血のない診察待ち時間は9分短縮した。</p> <p>○ 舟入市民病院では、待ち時間の長い年末年始救急診療期間について、期間中の配置職員の適正配置などにより、時間短縮に取り組んだ。</p> <p>【病院給食についてのアンケート調査の実施及び委託業者と連携した改善方策の検討、実施】</p> <p>○ 広島市民病院では、令和3年に日本人の食事摂取基準の改定に伴い、院内約束食事箋の改定および献立の全体的な見直しを行った。令和3年12月に患者アンケート調査を①味付け②品数③1品の量④盛りつけ⑤温度⑥全体の6項目で実施した結果、平均91%の満足度評価であった。特に常食は9.0g→7.5gに塩分を引き下げたが、味付けの評価は昨年より約7%「薄い」と回答した人は減少し、治療食も含め減塩でも美味しいレシピ調整を行うことができた。</p> <p>委託業者と季節の果物やカット野菜の使用を取り入れるなどの調整を図り、冷凍の葉野菜の使用頻度の減少、食べやすさの改善を図った。また、人員配置、作業工程の見直しを業者と協議改善し、調理終了から提供までの時間の短縮に取り組み食事の質の向上を図った。</p>			

中期計画	令和3年度	地方独立行政法人広島市立病院機構による自己評価		市長による評価	
	年度計画	評価理由等	記号	評価理由・コメント等	記号
	<p>・病院給食のサイクルメニューの拡充（広島市民病院）</p> <p>・入退院支援の推進（広島市民病院、安佐市民病院）</p>	<p>○ 安佐市民病院では、令和3年10月に患者アンケートを実施した結果、食事に対する全体の評価は「良い」「やや良い」「ふつう」合わせて89%の評価であった（やや悪い：5% 悪い：1% 無回答：5%）。前年度は88%であり、ほぼ同様の結果であった。給食委託業者との連携として、嚥下食の形態やとろみの平準化に取り組んだ。また、令和2年度から新型コロナウイルス感染症患者の受入れを行っているが、急遽一般病棟が閉鎖となったときに昼食の適時提供ができない対応として、委託業者と連携して非常食をディスポ容器で提供した。妊産婦の食事内容改善策として、アンケート実施後おやつの内容を変更し、令和2年12月から引き続き出産祝い膳を食器や内容を大幅に変更し、好評を得ている。</p> <p>○ 舟入市民病院では、令和3年9月に患者アンケートを実施した結果、「良い」「やや良い」「ふつう」を合わせた評価は、昨年同様の96%であった。食事全体の印象について、ディスポ食器を使用している感染病棟にて「良い」「やや良い」「ふつう」を合わせて96%、食器を一部更新した一般病棟で100%と高評価であった。また、委託業者との給食会議を行い、給食内容の調整等を実施した。</p> <p>○ リハビリテーション病院では、年1回全患者を対象に嗜好調査を実施し、意見を反映した献立の変更・追加を行うとともに、委託業者と連携し、院内感染対策に対応した配膳場所の見直しなど、業務の改善を図っており、令和2年度から導入した選択メニュー制（月1回）を、令和3年度も引き続き実施した。</p> <p>また、患者満足度アンケート調査では、食事についてアンケートの質問ごとに、回答内容を「良い」＝5点、「やや良い」＝4点、「やや悪い」＝2点、「悪い」＝1点として換算して平均点を算出しており、「料理全体の印象」についての点数は5点満点中4.16点であった。</p> <p>【病院給食のサイクルメニューの拡充（広島市民病院）】</p> <p>○ 令和3年度に全体の献立の見直しを行い、新規料理の作成、及び品数を1品増やすなど内容の拡充を行った。また長期入院の方への満足度向上のため、14日サイクルを21日サイクルへ変更するよう委託業者と調整を行い、令和4年度中の実施を目標としている。</p> <p>【入退院支援の推進】</p> <p>○ 広島市民病院では、地域の医療機関からのスムーズな患者の受入れとともに、オンラインカンファレンス（令和3年度実績21件）を試み、積極的に患者の退院後の生活支援にも取り組んだ。</p>			

中期計画	令和3年度	地方独立行政法人広島市立病院機構による自己評価		市長による評価	
	年度計画	評価理由等	記号	評価理由・コメント等	記号
	<p>・患者の入退院における諸問題の早期解決を目的としたP F M運用の検討と導入（安佐市民病院）</p> <p>・患者及びその家族等の利便性向上に向けた入院セット等の導入（広島市民病院・リハビリテーション病院）</p>	<p>○ 広島市民病院では、入院支援室を通じて、地域の歯科医との連携（周術期患者の紹介）の強化を継続し、口腔機能の管理による合併症予防に取り組んだ。また、薬剤師外来を併設し、かかりつけ薬局との連携に取り組んだ。</p> <p>○ 入院時における多職種連携の強化を図るため、療養支援計画書の作成を導入し、患者の療養支援に取り組んだ。</p> <p>○ 広島市民病院では、入退院支援 2,395 件、退院時共同指導 119 件、介護支援等連携 765 件を実施した。</p> <p>○ 安佐市民病院では、令和 2 年度に引き続き、地域の医療機関からのスムーズな患者の受入れ、退院後の地域の医療機関への紹介に取り組むとともに、より積極的に患者の退院後の生活支援に取り組んだ。</p> <p>○ 安佐市民病院では、地域の医科歯科連携の継続や術前データの管理、薬剤師、栄養士と連携した入院前からの支援を充実させた。入退院支援を 3,745 件、退院時共導指導 36 件を実施した。</p> <p>【P F M運用の検討と導入（安佐市民病院）】</p> <p>○ 入院支援センターの体制を整え、予定入院患者のP F Mについて早期から取り組んできた。しかし、緊急入院患者のP F Mについて不十分であったため、令和 3 年度は医療支援センター配下の退院支援委員会と生活機能改善センター準備室が協同し、特に高齢患者の入退院支援に努め、医療ソーシャルワーカーの早期介入による必要な社会資源の導入、カンファレンスによる円滑なP F Mを実施して緊急入院患者の在院日数短縮、早期の後方支援病院への連携、介護体制の充実、在宅復帰への不安の解消に努めた。部長会、医局会でアナウンスすることにより、多職種、特に医師のP F Mについての理解と協力が得られるようになってきた。</p> <p>【患者及びその家族等の利便性向上に向けた入院セット等の導入】</p> <p>○ 広島市民病院では、入院患者が入院生活に必要な物品を洗濯付きで貸与する「入院セットサービス」システムの本格運用を開始した。</p> <p>○ リハビリテーション病院では、患者及び家族等の負担軽減を図るため、令和 3 年度から紙おむつ及びタオルセットの提供サービスを開始した。</p>			

中期計画			令和3年度		地方独立行政法人広島市立病院機構による自己評価						市長による評価		
			年度計画		評価理由等						記号	評価理由・コメント等	記号
【目標値】患者満足度(単位:%)			【目標値】患者満足度(単位:%)		【実績】患者満足度(単位:%)								
区分	平成28年度 実績	令和3年度 目標値	区分	令和3年度 目標値	区分	平成29年度 実績	平成30年度 実績	令和元年度 実績	令和2年度 実績	令和3年度 実績			
広島市民病院	90.9	90.0	広島市民病院	90.0	広島市民病院	83.1	93.0	94.3	93.2	90.3			
安佐市民病院	82.7	90.0	安佐市民病院	90.0	安佐市民病院	74.3	71.4	92.1	91.3	91.8			
舟入市民病院	76.8	90.0	舟入市民病院	90.0	舟入市民病院	79.5	79.8	80.4	74.9	85.5			
リハビリテー ション病院	96.1	95.0	リハビリテー ション病院	95.0	リハビリテー ション病院	96.6	96.3	93.4	97.4	96.2			
※病院の対応に「満足」と回答した利用者の割合			※病院の対応に「満足」と回答した利用者の割合		※病院の対応に「満足」と回答した利用者の割合								

第1 市民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置

4 地域の医療機関等との連携

(1) 地域の医療機関との役割分担と連携

中期目標	ア 地域全体でより良い医療を提供する観点から、基幹病院等のみならず、かかりつけ医を始めとする地域の医療機関との適切な役割分担と連携を図ること。 イ 地域連携クリニカルパス（治療を行う複数の医療機関が治療方針を共有するための診療計画書）を作成・運用するとともに、他の医療機関との診療情報の共有化などにより、急性期から回復期、在宅医療までの一貫性のある医療を提供すること。
------	---

中期計画	令和3年度	地方独立行政法人広島市立病院機構による自己評価		市長による評価	
	年度計画	評価理由等	記号	評価理由・コメント等	記号
4 地域の医療機関等との連携 (大項目)	4 地域の医療機関等との連携 (大項目)				
(1) 地域の医療機関との役割分担と連携	(1) 地域の医療機関との役割分担と連携				
ア 病院の役割分担に基づく紹介、逆紹介の促進等（小項目） 地域の医療機関や医師会との連携を強化し、地域の医療機関との適切な役割分担の下、紹介患者の受入れ、患者の紹介を積極的に行い、より多くの患者に必要なとされる医療を提供する体制の維持に努めます。また、基幹病院をはじめとする病院間の医療機能の分化と連携等については、市民にとってより良い地域医療を提供していくという観点に立って検討を行います。	ア 病院の役割分担に基づく紹介、逆紹介の促進等（小項目） ・各地区の医師会との意見交換の場の設置などによる顔の見える連携づくり ・医療支援センター等による連携の強化	<p>【各地区医師会との連携】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 各病院とも、地区医師会との交流、意見交換の場を通じて連携を深めた。 ○ 広島市民病院では、地域医療機関との合同で、地域医療機関と広島市民病院の職員を対象に、日常診療における広い知識の習得を目的として、マルチケアフォーラムを年2回行った。 ○ 安佐市民病院では、安佐医師会、安芸高田市医師会、山県郡医師会、安佐歯科医師会との情報・意見交換会を令和3年10月28日に実施した。 ○ 舟入市民病院では、例年出席していた中区医師会との連絡会議が新型コロナウイルス感染症感染対策のため、令和3年度は開催されなかった。 <p>【医療支援センター等による連携の強化等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 各病院とも、地域の医療機関からのスムーズな患者の受入れ、退院後の地域の医療機関への紹介に取り組むとともに、より積極的に患者の退院後の生活支援に取り組んだ。 ○ 広島市民病院では、入院支援室を通じて、地域の歯科医との連携（周術期患者の紹介）強化を継続し、口腔機能の管理による合併症予防に取り組んだ。また、薬剤師外来を併設し、かかりつけ薬局との連携に取り組んだ。 ○ 広島市民病院では、入退院支援を2,395件、退院時共同指導を119件、介護支援等連携を76件実施した。 ○ 安佐市民病院では、入退院支援を令和3年度は3,744件実施した。社会背 	3	年度計画を順調に実施しているため、「3」と評価した。	3

中期計画	令和3年度	地方独立行政法人広島市立病院機構による自己評価			市長による評価																																												
	年度計画	評価理由等	記号	評価理由・コメント等	記号																																												
	<p>・広島県基幹病院連携強化実行委員会への参加</p> <p>・Webによる退院支援カンファレンスの実施(安佐市民病院)</p>	<p>景が複雑な患者や多くの医療処置を必要とする患者の退院を支援するために、入院支援センター・外来と連携した入院前カンファレンス・入院時支援を実施すると共に、退院前の地域・関連医療機関との合同カンファレンスを62件、介護支援連携を92件、退院直後の在宅訪問を16件実施した。</p> <p>○ 舟入市民病院では、医療支援室の医療ソーシャルワーカーや看護師業務配分を見直し、入退院支援の充実を図るとともに、退院前訪問指導も行った。また、医療支援室職員が、地域の訪問看護ステーション等への訪問を、延べ115件行い積極的に連携作りを行った。</p> <p>【広島県基幹病院連携強化実行委員会への参加】</p> <p>○ 令和3年度は会議が開催されなかったが、市民にとってより良い地域医療を提供していくために、基幹病院をはじめとする病院間の医療機能の分化と連携について検討を進めた。</p> <p>【Webによる退院支援カンファレンスの実施(安佐市民病院)】</p> <p>○ 令和3年度はWebによる退院支援カンファレンスを積極的に実施した。県外の患者家族との顔の見えるカンファレンスも実施し、患者の現在の状態や意思確認がリアルタイムで家族にも確認でき、非常に有意義であった。脳神経外科では後方支援病院とのWebカンファレンスを実施しており、円滑なPFMに結びついている。新病院ではICT環境を整え、Webによる退院支援カンファレンスが可能な環境整備を進め、カンファレンス実施件数を拡大する。</p> <p>【実績】患者紹介率(地域の医療機関から市立病院への紹介)</p>																																															
	<p>【目標値】患者紹介率(地域の医療機関から市立病院への紹介)(単位:%)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>平成28年度実績</th> <th>令和3年度目標値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>広島市民病院</td> <td>70.0</td> <td>74.0</td> </tr> <tr> <td>安佐市民病院</td> <td>80.3</td> <td>82.5</td> </tr> <tr> <td>舟入市民病院</td> <td>31.0</td> <td>35.0</td> </tr> </tbody> </table> <p>※紹介率=初診紹介患者の数/(初診患者の数-(救急車による初診搬送患者の数+時間外における初診外来患者の数))×100</p>	区分	平成28年度実績	令和3年度目標値	広島市民病院	70.0	74.0	安佐市民病院	80.3	82.5	舟入市民病院	31.0	35.0	<p>【目標値】患者紹介率(地域の医療機関から市立病院への紹介)(単位:%)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>令和3年度目標値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>広島市民病院</td> <td>74.0</td> </tr> <tr> <td>安佐市民病院</td> <td>82.5</td> </tr> <tr> <td>舟入市民病院</td> <td>35.0</td> </tr> </tbody> </table> <p>※紹介率=初診紹介患者の数/(初診患者の数-(救急車による初診搬送患者の数+時間外における初診外来患者の数))×100</p>	区分	令和3年度目標値	広島市民病院	74.0	安佐市民病院	82.5	舟入市民病院	35.0	<p>(単位:%)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>平成29年度実績</th> <th>平成30年度実績</th> <th>令和元年度実績</th> <th>令和2年度実績</th> <th>令和3年度実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>広島市民病院</td> <td>71.8</td> <td>73.7</td> <td>74.9</td> <td>75.8</td> <td>77.1</td> </tr> <tr> <td>安佐市民病院</td> <td>85.2</td> <td>89.9</td> <td>89.5</td> <td>92.2</td> <td>90.3</td> </tr> <tr> <td>舟入市民病院</td> <td>31.9</td> <td>35.6</td> <td>41.3</td> <td>36.2</td> <td>29.8</td> </tr> </tbody> </table> <p>※紹介率=初診紹介患者の数/(初診患者の数-(救急車による初診搬送患者の数+時間外における初診外来患者の数))×100</p>	区分	平成29年度実績	平成30年度実績	令和元年度実績	令和2年度実績	令和3年度実績	広島市民病院	71.8	73.7	74.9	75.8	77.1	安佐市民病院	85.2	89.9	89.5	92.2	90.3	舟入市民病院	31.9	35.6	41.3	36.2	29.8		
区分	平成28年度実績	令和3年度目標値																																															
広島市民病院	70.0	74.0																																															
安佐市民病院	80.3	82.5																																															
舟入市民病院	31.0	35.0																																															
区分	令和3年度目標値																																																
広島市民病院	74.0																																																
安佐市民病院	82.5																																																
舟入市民病院	35.0																																																
区分	平成29年度実績	平成30年度実績	令和元年度実績	令和2年度実績	令和3年度実績																																												
広島市民病院	71.8	73.7	74.9	75.8	77.1																																												
安佐市民病院	85.2	89.9	89.5	92.2	90.3																																												
舟入市民病院	31.9	35.6	41.3	36.2	29.8																																												

中期計画	令和3年度	地方独立行政法人広島市立病院機構による自己評価				市長による評価																																											
	年度計画	評価理由等				記号	評価理由・コメント等	記号																																									
<p>【目標値】患者逆紹介率（市立病院から地域の医療機関への紹介）（単位：％）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>平成28年度実績</th> <th>令和3年度目標値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>広島市民病院</td> <td>93.7</td> <td>95.0</td> </tr> <tr> <td>安佐市民病院</td> <td>122.3</td> <td>100.0</td> </tr> <tr> <td>舟入市民病院</td> <td>24.5</td> <td>28.5</td> </tr> </tbody> </table> <p>※1 患者逆紹介率＝逆紹介患者の数／（初診患者の数－（救急車による初診搬送＋時間外における初診外来患者の数））×100</p> <p>※2 当該年度の逆紹介患者の数には、当該年度以前からの診療期間の長い患者も含まれるため、当該年度の初診患者の数を上回り、逆紹介率が100％を超える場合がある。</p>	区分	平成28年度実績	令和3年度目標値	広島市民病院	93.7	95.0	安佐市民病院	122.3	100.0	舟入市民病院	24.5	28.5	<p>【目標値】患者逆紹介率（市立病院から地域の医療機関への紹介）（単位：％）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>令和3年度目標値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>広島市民病院</td> <td>95.0</td> </tr> <tr> <td>安佐市民病院</td> <td>100.0</td> </tr> <tr> <td>舟入市民病院</td> <td>28.5</td> </tr> </tbody> </table> <p>※1 患者逆紹介率＝逆紹介患者の数／（初診患者の数－（救急車による初診搬送＋時間外における初診外来患者の数））×100</p> <p>※2 当該年度の逆紹介患者の数には、当該年度以前からの診療期間の長い患者も含まれるため、当該年度の初診患者の数を上回り、逆紹介率が100％を超える場合がある。</p>	区分	令和3年度目標値	広島市民病院	95.0	安佐市民病院	100.0	舟入市民病院	28.5	<p>【実績】患者逆紹介率（市立病院から地域の医療機関への紹介）（単位：％）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>平成29年度実績</th> <th>平成30年度実績</th> <th>令和元年度実績</th> <th>令和2年度実績</th> <th>令和3年度実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>広島市民病院</td> <td>94.7</td> <td>94.4</td> <td>98.6</td> <td>111.9</td> <td>105.0</td> </tr> <tr> <td>安佐市民病院</td> <td>130.8</td> <td>137.1</td> <td>140.6</td> <td>152.1</td> <td>153.5</td> </tr> <tr> <td>舟入市民病院</td> <td>22.9</td> <td>24.8</td> <td>28.4</td> <td>30.9</td> <td>29.7</td> </tr> </tbody> </table> <p>※患者逆紹介率＝逆紹介患者の数／（初診患者の数－（救急車による初診搬送＋時間外における初診外来患者の数））×100</p> <p>○ 広島市民病院及び安佐市民病院において、紹介率・逆紹介率とも目標を達成した。舟入市民病院は紹介率は目標を達成できなかったが、逆紹介率は目標を達成した。</p>	区分	平成29年度実績	平成30年度実績	令和元年度実績	令和2年度実績	令和3年度実績	広島市民病院	94.7	94.4	98.6	111.9	105.0	安佐市民病院	130.8	137.1	140.6	152.1	153.5	舟入市民病院	22.9	24.8	28.4	30.9	29.7			
区分	平成28年度実績	令和3年度目標値																																															
広島市民病院	93.7	95.0																																															
安佐市民病院	122.3	100.0																																															
舟入市民病院	24.5	28.5																																															
区分	令和3年度目標値																																																
広島市民病院	95.0																																																
安佐市民病院	100.0																																																
舟入市民病院	28.5																																																
区分	平成29年度実績	平成30年度実績	令和元年度実績	令和2年度実績	令和3年度実績																																												
広島市民病院	94.7	94.4	98.6	111.9	105.0																																												
安佐市民病院	130.8	137.1	140.6	152.1	153.5																																												
舟入市民病院	22.9	24.8	28.4	30.9	29.7																																												
<p><u>イ 地域連携クリニカルバスの運用拡大（小項目）</u></p> <p>一貫性のある医療を提供し、治療効果の一層の向上を図るため、地域連携クリニカルバス（治療を行う複数の医療機関が治療方針を共有するための診療計画書の作成・運用の拡大に取り組めます。</p>	<p><u>イ 地域連携クリニカルバスの運用拡大（小項目）</u></p> <p>・地域の医療機関と連携した地域連携クリニカルバスの運用の見直し</p>	<p>【地域連携クリニカルバスの運用の見直し】</p> <p>○ 各病院とも、地域連携クリニカルバスの運用の拡大等に取り組んだ。</p> <p>○ 広島市民病院では、地域連携クリニカルバスの運用を拡大するため、医療者がん研修会（年6回）、がんセミナー（年5回）、マルチケアフォーラム（年2回）を定期的に開催し、連携病院に参加の案内を呼びかけ、研修会等を通じて参加者と同病院との医療連携を深めた。</p> <p>○ 安佐市民病院では、地域の開業医・勤務医等と合同で研修会を実施して、地域連携クリニカルバスの運用の拡大に努めた。</p> <p>○ リハビリテーション病院では、地域連携活動を継続して実施することにより、地域連携クリニカルバス対象疾患（脳卒中・大腿骨頸部骨折）患者の紹介入院の増加に努めた。</p>	3	年度計画を順調に実施しているため、「3」と評価した。	3																																												

中期計画	令和3年度	地方独立行政法人広島市立病院機構による自己評価								市長による評価																																																										
	年度計画	評価理由等								記号	評価理由・コメント等	記号																																																								
		(地域連携クリニカルバスの種類及び運用件数) (各年度3月末現在 単位:件)																																																																		
		<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">区 分</th> <th colspan="2">平成29年度</th> <th colspan="2">平成30年度</th> <th colspan="2">令和元年度</th> <th colspan="2">令和2年度</th> <th colspan="2">令和3年度</th> </tr> <tr> <th>種類 件数</th> <th>運用 件数</th> <th>種類 件数</th> <th>運用 件数</th> <th>種類 件数</th> <th>運用 件数</th> <th>種類 件数</th> <th>運用 件数</th> <th>種類 件数</th> <th>運用 件数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>広島市民病院</td> <td>10</td> <td>448</td> <td>11</td> <td>534</td> <td>10</td> <td>570</td> <td>10</td> <td>539</td> <td>10</td> <td>582</td> </tr> <tr> <td>安佐市民病院</td> <td>11</td> <td>461</td> <td>11</td> <td>499</td> <td>12</td> <td>483</td> <td>12</td> <td>430</td> <td>12</td> <td>421</td> </tr> <tr> <td>リハビリテー ション病院</td> <td>2</td> <td>148</td> <td>2</td> <td>188</td> <td>2</td> <td>185</td> <td>2</td> <td>178</td> <td>2</td> <td>217</td> </tr> </tbody> </table>										区 分	平成29年度		平成30年度		令和元年度		令和2年度		令和3年度		種類 件数	運用 件数	種類 件数	運用 件数	種類 件数	運用 件数	種類 件数	運用 件数	種類 件数	運用 件数	広島市民病院	10	448	11	534	10	570	10	539	10	582	安佐市民病院	11	461	11	499	12	483	12	430	12	421	リハビリテー ション病院	2	148	2	188	2	185	2	178	2	217			
区 分	平成29年度		平成30年度		令和元年度		令和2年度		令和3年度																																																											
	種類 件数	運用 件数	種類 件数	運用 件数	種類 件数	運用 件数	種類 件数	運用 件数	種類 件数	運用 件数																																																										
広島市民病院	10	448	11	534	10	570	10	539	10	582																																																										
安佐市民病院	11	461	11	499	12	483	12	430	12	421																																																										
リハビリテー ション病院	2	148	2	188	2	185	2	178	2	217																																																										

第1 市民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置

4 地域の医療機関等との連携

(2) 地域の医療機関への支援

中期目標	<p>ア 市立病院が保有する高度医療機器の共同利用などにより、地域の医療機関を支援すること。また、地域の医療従事者を対象としたオープンカンファレンス等各種研修会の開催などにより、地域の医療人材の育成に努めること。</p> <p>イ 安佐市民病院の北館に整備する病院（以下「北館の病院」という。）等の関係医療機関への医師の派遣等に取り組むとともに、北館の病院が本市の医療政策を支える病院として、建替え後の安佐市民病院と連携して地域医療を担うことができるよう、本市や関係機関と協議の上、北館の病院に十分な支援を行うこと。</p> <p>ウ 建替え後の安佐市民病院は、県北西部地域の公立病院等とのネットワークの中で中核病院としての役割を果たしていくことを踏まえ、地域完結型医療の提供に向けた取組を進めること。</p>
------	---

中期計画	令和3年度	地方独立行政法人広島市立病院機構による自己評価		市長による評価																					
	年度計画	評価理由等	記号	評価理由・コメント等	記号																				
(2) 地域の医療機関への支援	(2) 地域の医療機関への支援																								
<p><u>ア 高度医療機器の共同利用</u> <u>(小項目)</u></p> <p>市立病院が保有する高度医療機器の共同利用の促進により、地域の医療水準の向上を図ります。また、地域の医療従事者を対象としたオープンカンファレンス等各種研修会等を開催し、市立病院における症例や医療技術等の医療情報を提供することなどにより、地域の医療人材の育成に協力するとともに、「顔の見える連携関係」を構築します。</p>	<p><u>ア 高度医療機器の共同利用</u> <u>(小項目)</u></p> <p>・高度医療機器の共同利用の促進による地域の医療水準の向上</p>	<p>【高度医療機器の共同利用等の促進による地域の医療水準の向上】</p> <p>○ 令和3年度は以下のとおり、地域の医療機関による高度医療機器の共同利用が行われた。</p> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <caption>(令和3年度高度医療機器共同利用件数) (件)</caption> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>CT</th> <th>MR I</th> <th>その他</th> <th>合計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>広島市民病院</td> <td>143</td> <td>79</td> <td>7</td> <td>229</td> </tr> <tr> <td>安佐市民病院</td> <td>844</td> <td>294</td> <td>549</td> <td>1,687</td> </tr> <tr> <td>リハビリテーション病院</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> </tbody> </table> <p>(注) その他の主な内訳は、胃カメラ・胃ろう交換など</p> <p>○ 開放型病床は、広島市民病院に34床設けており、利用登録している地域の医療機関の医師数は令和3年度末で251人、令和3年度の病床利用率は116.9%であった。また、開放病床運営委員会を书面開催し、活用の促進等について協議、検討を行った。安佐市民病院では9床を設けており、利用登録している地域の医療機関の医師数は令和3年度末で387人、利用率は100%であった。舟入市民病院では5床を設けており、利用登録している地域の医療機関の医師数は令和3年度末で62人、利用率は44.5%であった。</p> <p>※他の病床に余裕があれば1日あたり34床を超えても受入れることから、病床利用率が100%を上回った。</p>	区分	CT	MR I	その他	合計	広島市民病院	143	79	7	229	安佐市民病院	844	294	549	1,687	リハビリテーション病院	0	0	0	0	3	年度計画を順調に実施しているため、「3」と評価した。	3
区分	CT	MR I	その他	合計																					
広島市民病院	143	79	7	229																					
安佐市民病院	844	294	549	1,687																					
リハビリテーション病院	0	0	0	0																					

中期計画	令和3年度	地方独立行政法人広島市立病院機構による自己評価		市長による評価																																			
	年度計画	評価理由等	記号	評価理由・コメント等	記号																																		
	<ul style="list-style-type: none"> 地域の医療従事者を対象とした各種研修会等の開催 	<p>【各種研修会等の開催】</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和3年度は以下のとおり、各病院において研修会等及びオープンカンファレンスを開催した。 <p>(令和3年度研修会等・オープンカンファレンスの開催状況)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">区分</th> <th colspan="2">研修会等</th> <th colspan="2">オープンカンファレンス</th> </tr> <tr> <th>回数</th> <th>延べ参加者数</th> <th>回数</th> <th>延べ参加者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>広島市民病院</td> <td>14回</td> <td>1,274人</td> <td>4回</td> <td>105人</td> </tr> <tr> <td>安佐市民病院</td> <td>15回</td> <td>693人</td> <td>0回</td> <td>0人</td> </tr> <tr> <td>舟入市民病院</td> <td>0回</td> <td>0人</td> <td>0回</td> <td>0人</td> </tr> <tr> <td>リハビリテーション病院</td> <td>1回</td> <td>104人</td> <td>0回</td> <td>0人</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>30回</td> <td>2,071人</td> <td>4回</td> <td>105人</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> 安佐市民病院では、Web会議システムを用いて芸北地域の関係病院及び診療所と意見交換を行った。 リハビリテーション病院では、新型コロナウイルス感染症予防のため、地域の病院、介護施設、居宅サービス事業所等を対象に、他の地域リハビリテーション広域支援センターの指定病院及び広島県と合同でオンライン研修を行った。 <p>【Webを用いたかかりつけ医との診療相談（安佐市民病院）】</p> <ul style="list-style-type: none"> かかりつけ医が紹介する当院の診療科を分かりやすくするため、Webを使用し、かかりつけ医と安佐市民病院で診療相談を行う体制を構築した。 	区分	研修会等		オープンカンファレンス		回数	延べ参加者数	回数	延べ参加者数	広島市民病院	14回	1,274人	4回	105人	安佐市民病院	15回	693人	0回	0人	舟入市民病院	0回	0人	0回	0人	リハビリテーション病院	1回	104人	0回	0人	計	30回	2,071人	4回	105人			
区分	研修会等			オープンカンファレンス																																			
	回数	延べ参加者数	回数	延べ参加者数																																			
広島市民病院	14回	1,274人	4回	105人																																			
安佐市民病院	15回	693人	0回	0人																																			
舟入市民病院	0回	0人	0回	0人																																			
リハビリテーション病院	1回	104人	0回	0人																																			
計	30回	2,071人	4回	105人																																			
<p><u>イ 安佐市民病院の北館に整備する病院への支援（小項目）</u></p> <p>広島市や関係機関と協議の上、安佐市民病院の北館に整備する病院への医師の派遣等に取り組むとともに、当該整備する病院の円滑な開設に向けた建物の改修等の支援を行います。</p>	<p><u>イ 安佐市民病院の北館に整備する病院への支援（小項目）</u></p> <ul style="list-style-type: none"> 安佐市民病院の機能分化に伴い整備する安佐医師会病院（仮称）との連携に関する具体的な検討 北館に整備する病院の円滑な開設に向けた改修工事の実施 	<p>【安佐医師会病院（仮称）との連携に関する具体的な検討】</p> <ul style="list-style-type: none"> 新病院における多職種カンファレンス、PFMの導入に向けた協議を開始した。また、看護師の転籍募集、内定決定を実施した。 <p>【北館に整備する病院の改修工事の実施】</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和3年3月10日に工事請負者と契約締結し工事に着手した。 	3	<p>年度計画を順調に実施しているため、「3」と評価した。</p>	3																																		

中期計画	令和3年度	地方独立行政法人広島市立病院機構による自己評価		市長による評価	
	年度計画	評価理由等	記号	評価理由・コメント等	記号
<u>ウ 安佐市民病院における地域完結型医療の提供に向けた取組（小項目）</u> 県北西部地域の関係機関と連携し、地域内の医療機関の役割分担と再編を行い、それぞれの医療機関が連携し相互補完を行う地域完結型の医療の提供に向けた取組を行います。	<u>ウ 安佐市民病院における地域完結型医療の提供に向けた取組（小項目）</u> ・地域医療構想調整会議北部病院部会への参画等による、地域完結型医療の提供体制の構築に向けた取組	【安佐市民病院における地域完結型医療の提供に向けた取組】 ○ 平成30年度に広島医療圏北部地域の公立・公的病院が担う役割を明確にするとともに、その役割を担うために行う病床の再編についてとりまとめを行った。さらにその内容を「地域医療構想調整会議北部病院部会」及び「地域医療構想調整会議」に協議し了承を得るとともに、「広島県医療審議会」の承認後、病床の再編上必要となる厚生労働省の同意を得た。 ○ また、北広島町及び安芸太田町と医療連携実施協定を結び、医師派遣などによる医療機関間の連携による地域完結型医療の提供に向けた取組を行っている。 ○ 令和元年度に安佐市民病院に病院機能分化推進室を設置し、令和3年度においても安佐医師会（安佐医師会病院準備担当）とともに、地域完結型医療の提供体制の構築に向け北部医療センター安佐市民病院及び安佐医師会病院（仮称）開設及び連携に向けた具体的な検討を引き続き行った。	3	年度計画を順調に実施しているため、「3」と評価した。	3

第1 市民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置

4 地域の医療機関等との連携

(3) 保健機関、福祉機関との連携

中期目標	ア 保健所や福祉事務所等と連携して、疾病の予防や再発防止に取り組むこと。 イ 病院を退院した患者が円滑に在宅医療に移行するための支援を行うこと。また、地域包括支援センターや介護サービス事業所等との連携を図ることで、地域包括ケアシステムの構築に取り組むこと。
------	---

中期計画	令和3年度	地方独立行政法人広島市立病院機構による自己評価		市長による評価	
	年度計画	評価理由等	記号	評価理由・コメント等	記号
(3) 保健機関、福祉機関との連携	(3) 保健機関、福祉機関との連携				
<u>ア 保健機関、福祉機関との連携（小項目）</u> 高齢化の進展等に伴う疾病構造の変化に対応するため、保健所等と連携し、疾病の予防や再発防止等に取り組むとともに、退院前から地域包括支援センター、介護サービス事業所等と連携し、患者の退院後の療養や介護などを支援します。	<u>ア 保健機関、福祉機関との連携（小項目）</u> ・高齢化の進展等に伴う疾病構造の変化に対応するための保健所等との連携 ・退院前からの福祉機関との連携による患者の退院後の療養や介護などの支援	【高齢化の進展等に伴う疾病構造の変化に対応するための保健所等との連携】 ○ 広島市民病院では、「救急医療コントロール機能運営協議会」に参画するなど、受入困難事案の総合的対策の調整に協力し、広島市、保健機関、福祉機関等との連携に努めた。 ○ 安佐市民病院では、保健センター（安佐南区・安佐北区）との精神障害者に係る事例検討会や情報交換会を新型コロナウイルス感染症対策により実施できなかったが、特定妊婦など複雑な家庭環境により育児が困難と予測される場合や高齢者虐待の疑われるケースなどについて、患者・家族の不安軽減や継続した支援・介入につながるよう保健センターと情報共有し連携を図った。 ○ 舟入市民病院では、広島市が実施する市政出前講座等で講習を予定していたが、新型コロナウイルス感染症の影響により中止した。 ○ リハビリテーション病院では、広島市が実施する市政出前講座において視覚障害についての講習・講演を4回行った。 【退院前からの福祉機関との連携による患者の退院後の療養や介護などの支援】 ○ 各病院とも、福祉事務所や地域包括支援センター、介護サービス事業所等の福祉機関と連携し、患者の退院後の療養などの支援を行った。 ○ 広島市民病院では、中区医師会が実施する在宅医療相談支援窓口運営事業に後方支援病院として協力した。 ○ 安佐市民病院では、入院早期から介護保険施設や居宅介護支援事業所、障害者相談支援事業所等の福祉機関と、同病院にて患者、家族及び福祉機関の担当者とのカンファレンス等を行っている。そのカンファレンスで情報共有や	3	年度計画を順調に実施しているため、「3」と評価した。	3

中期計画	令和3年度	地方独立行政法人広島市立病院機構による自己評価		市長による評価	
	年度計画	評価理由等	記号	評価理由・コメント等	記号
	<p>・感染症対策（新型コロナウイルス感染症）の緊密な連携</p>	<p>連携を図りながら、退院後、患者、家族が安心して地域で生活が送れるように支援を図った。</p> <p>【感染症対策（新型コロナウイルス感染症）の緊密な連携】</p> <p>○ 広島市民病院では、新型コロナウイルス感染症患者を受け入れるため専用病棟を設け、入院患者の受け入れを行った。</p> <p>また、新型コロナウイルス感染症患者対応では、クラスター発生施設や酸素センター、補液センターに看護師の派遣を行った。更に、宿泊療養者対応として広島県と業務委託契約を締結し、令和3年4月1日～6月27日、令和3年8月3日～10月22日、令和4年1月3日～3月25日の間、夜間対応を含むオンコール体制で対応した。</p> <p>○ 舟入市民病院では、広島市や広島県と連携し、コロナ陽性者外来や入院調整等を行った。また、感染症医療支援チームの派遣事業では、高齢者施設等に感染管理認定看護師を複数回派遣してゾーニングの確認や個人防護具の着脱確認、感染管理に係る指導を行った。</p> <p>○ 安佐市民病院は新型コロナウイルス感染症入院受入、CTトリアージ外来、発熱外来（現在、休日・夜間の新型コロナウイルス感染症患者入院受入医療機関）、ワクチン接種、職員発熱外来などを実施してきた。</p> <p>病院入口を正面玄関のみとし、院内に入る患者の検温を実施し37度以上の発熱があった場合、中央処置室レッドゾーンに誘導しコロナ抗原検査又はPCR検査を実施してきた。</p> <p>○ リハビリテーション病院では、新型コロナウイルス感染症患者の受入医療機関と連携し、新型コロナウイルス感染症の療養終了後、引き続き入院管理が必要な患者の転入受入を行った。</p>			
<p><u>イ 地域包括ケアシステムの構築に向けた的確な対応（小項目）</u></p> <p>高齢者が疾病を抱えても住み慣れた地域で生活を継続できるよう、地域包括ケアシステム構成員として、各病院が現在担っている機能を維持・強化するとともに、かかりつけ医を含めた地域の</p>	<p><u>イ 地域包括ケアシステムの構築に向けた的確な対応（小項目）</u></p> <p>・地域包括ケアシステム構成員としての各病院が担っている機能の維持・強化</p>	<p>【地域包括ケアシステム構成員としての各病院が担っている機能の維持・強化】</p> <p>○ 関係機関との連携をよりスムーズに行うため、地域包括支援センター等との情報の交換、交流の場を設けた。</p> <p>○ 安佐市民病院では関係機関との連携をよりスムーズに行うため、安佐北区や安佐南区の地域包括支援センター、居宅介護支援事業所、安佐北区役所厚生部地域支えあい課や安佐医師会で情報交換、交流の場として地域包括連携会議を設け、新型コロナウイルス感染症が流行している中での地域連携の方</p>	3	<p>年度計画を順調に実施しているため、「3」と評価した。</p>	3

中期計画	令和3年度	地方独立行政法人広島市立病院機構による自己評価		市長による評価	
	年度計画	評価理由等	記号	評価理由・コメント等	記号
医療機関、施設、行政との連携を図り、患者・家族の療養生活を支援して包括的かつ継続的な在宅医療等の提供の一翼を担います。		<p>法を検討し、Webでの情報の共有化を図った。</p> <p>○ 舟入市民病院においては、平成27年度途中から地域包括ケア病床（6階病棟のうち10床）を導入し運用していたが、新型コロナウイルス感染症患者の受け入れ体制を強化するため、令和2年3月7日より受け入れを中止した。</p> <p>また、地域の医療・介護力の質向上と地域の多職種との連携（ネットワーク作り）を目的に、多職種合同地域連携研修会を年3回計画していたが、新型コロナウイルス感染症対策により、実施できなかった。</p> <p>○ リハビリテーション病院では、広島市がリハ職を派遣する等の支援を行う地域リハビリテーション活動支援事業（地域包括支援センター等が行う介護予防拠点の立上げ・運営支援や要支援者等に対する介護予防ケアマネジメント支援など）において、地域リハビリテーション広域支援センターとしてリハ職の派遣調整業務を広島市から受託している。</p> <p>令和3年度も前年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症の影響に伴う派遣先の事業の休止等により、派遣調整を行った人数は、コロナ禍以前よりも大きく減少した。</p> <p>また、令和元年度から、広島二次保健医療圏における「通いの場」設置の推進を目的として関係機関のネットワークを構築する事業を広島県から受託し、令和3年度も引き続き実施した。</p>			
	<p>・かかりつけ医を含めた地域の医療機関、施設、行政との連携を図り、包括的かつ継続的な在宅医療等の提供</p>	<p>【かかりつけ医を含めた地域の医療機関、施設、行政との連携を図り、包括的かつ継続的な在宅医療等の提供】</p> <p>○ 広島市民病院では、以下の取組を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・緩和ケアセンターにおいて、地域の医療機関、在宅療養支援診療所等と協働し、連携協力に関するカンファレンス「緩和ケア地域連携カンファレンス」を月1回程度開催した。（地域がん連携拠点病院（高度型）の指定要件） ・退院支援室において、20施設以上の医療機関または介護サービス事業所等と年3回以上面会し、転院・退院体制について情報の共有等を行うなどの連 			

(リハ職派遣調整業務の実績) ※ () 内は令和2年度

区分	令和3年度 派遣調整人数	備考
介護予防拠点整備における支援	55人(72人)	うちリハビリテーション病院からの派遣人数 9人(16人)
介護予防ケアマネジメントの支援	10人(4人)	うちリハビリテーション病院からの派遣人数 2人(0人)

中期計画	令和3年度	地方独立行政法人広島市立病院機構による自己評価		市長による評価	
	年度計画	評価理由等	記号	評価理由・コメント等	記号
	<ul style="list-style-type: none"> ・安佐医師会が運営する広島市北部在宅医療・介護連携センターに設置された認知症初期集中支援チームに対する医師の指導 (安佐市民病院) ・広島市が運営する介護認定審査会への医師出席による、地域包括ケア能力の向上 (安佐市民病院) ・緊急入院患者に対する早 	<p>携を図った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域医療連携室において、地域の医療連携協力病院等を対象に、年2回の研修会「マルチケアフォーラム広島」を開催し、情報共有と連携強化を図った。 ・退院支援室において、中区の医療機関、居宅介護支援事業所、地域包括支援センターが集まる情報交流会に参加し、情報共有と連携協力を行った。 ・当院の在宅療養支援部会において、地域包括支援センター、訪問看護ステーション、居宅介護支援事業所、広島市社会福祉協議会の関係者を招き、勉強会を開催した。 <p>○ リハビリテーション病院では、以下の取組を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・広島県が指定する地域リハビリテーション広域支援センターとして、広島市との連携のもと、地域ケアマネジメント会議への参加、リハ職による介護予防ケアマネジメント支援、地域介護予防拠点整備促進事業など地域における介護予防活動の支援を行った。 ・脳卒中（脳梗塞・脳出血）の患者については、退院時に脳卒中地域連携クリニカルパスを診療情報提供書と合わせてかかりつけ医に送り、急性期から回復期そして在宅医療まで一貫性のある医療が提供できるよう情報提供及び情報共有を行った。 ・入院患者の状況を踏まえ必要な場合は、退院前に合同カンファレンスを開始し、医療機関や介護サービス事業者が来院又はオンラインで参加し、情報提供及び情報共有を行った。 <p>【認知症初期集中支援チームに対する医師の指導 (安佐市民病院)】</p> <p>○ 医師が広島市北部在宅医療・介護連携センターに設置された認知症初期集中支援チームと24回会合を持ち（令和3年度）、意見交換や指導を行った。</p> <p>【介護認定審査会への出席による地域包括ケア能力の向上 (安佐市民病院)】</p> <p>○ 2名の医師が介護認定審査会に出席し、審査会を通して介護保険の制度や介護サービス等についての具体的な知識や理解が深まった。</p> <p>【緊急入院患者に対する多職種介入、退院調整支援の強化 (安佐市民病院)】</p>			

中期計画	令和3年度	地方独立行政法人広島市立病院機構による自己評価		市長による評価	
	年度計画	評価理由等	記号	評価理由・コメント等	記号
	<p>期の多職種介入、後方支援医療機関との連携による退院調整支援の強化 (安佐市民病院)</p> <p>・中区医師会が実施する在宅医療相談支援窓口運営事業への参加(舟入市民病院)</p>	<p>○ 救急担当の医療ソーシャルワーカーが中央処置室に常駐し、入退院支援看護師とともに入院患者に対する早期介入による円滑なPFMに努めている。令和3年度は特に脳神経疾患領域の後方支援病院への連携強化に努め、患者や家族が安心して治療を受けることができる体制を強化した。特に高齢患者の入退院支援について医療支援センター付けの退院支援委員会と生活機能改善センター準備室が協同し、医療ソーシャルワーカーの早期介入による必要な社会資源の導入、カンファレンスによる円滑なPFMを実施して緊急入院患者の在院日数短縮、早期の後方支援病院への連携、介護体制の充実、在宅復帰への不安の解消に努めた。また部長会、医局会でPFMの重要性についてアナウンスすることにより、多職種、特に医師のPFMについての理解と協力が得られるようになってきた。</p> <p>【在宅医療相談支援窓口運営事業への積極的な参加等(舟入市民病院)】</p> <p>○ 中区医師会と協力し、中区在宅医療相談支援窓口運営事業へ参加しており、在宅からの緊急入院(サブアキュート)を積極的に受け入れ、引き続き地域に根ざした医療が提供できるよう連携した。</p>			

第1 市民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置
5 市立病院間の連携の強化
(1) 一つの病院群としての病院運営の推進
(2) 広島市立病院機構医療情報システムの運用

中期目標	ア 市立病院間の相互連携や効果的なマンパワーの活用による交流を進めることで、各病院の医療機能を補完するとともに、4病院が一つの病院群として、本市の医療施策上必要な医療を提供すること。特に、広島市民病院と舟入市民病院の連携強化により、効果的かつ効率的な病院運営を一層進めること。また、本市が指定管理者制度により運営している安芸市民病院とも、引き続き連携を図ること。 イ 広島市立病院機構医療情報システム（電子カルテシステムを中心とした医療情報を電子化して総合的に活用するシステム）等の活用により、効率的で質の高い医療を提供すること。
------	--

中期計画	令和3年度	地方独立行政法人広島市立病院機構による自己評価		市長による評価	
	年度計画	評価理由等	記号	評価理由・コメント等	記号
5 市立病院間の連携の強化（大項目）	5 市立病院間の連携の強化（大項目）				
(1) 一つの病院群としての病院運営の推進（小項目） ・市立病院が相互に連携し、各病院の医療機能を補完し合い、一つの病院群として、広島市の医療施策上必要な医療を提供するとともに、各病院の役割の見直しや連携強化などを進め、効果的かつ効率的な病院運営を行います。 ・病院間の人事交流など効果的なマンパワーを活用し、各病院が必要とする人材の育成や、病院間の連携を推進します。 ・広島市が指定管理者制度により運営している安芸市民病院との連携を図り、患者の受入れや紹介を積極的に行います。	(1) 一つの病院群としての病院運営の推進（小項目） ・効率的、効果的な病院運営 ・安佐南区の医療需要の動向等を踏まえた役割分担の下、広島市民病院と安佐市民病院との連携と協調 ・急性期から回復期までのリハビリテーションを継続的・一体的提供を図るため、リハビリテーション病院と広島市民病院及び安佐市民病院との連携強化 ・安佐市民病院からリハビリテーション病院への診療支援による円滑な急性期・亜急性期入院診療、医療安全の確保 ・広島市民病院と舟入市民病院との連携強化	【効率的、効果的な病院運営】 ○ 毎月、本部事務局及び各病院の病院長、看護部長・総看護師長、事務長が出席する経営会議を開催し、課題の検討、意思の統一化を図った。また、副理事長は、毎月各病院をラウンドし、病院の現状把握及び現場での意見交換を行った。 ○ 広島市民病院と安佐市民病院から急性期医療を終えた患者をリハビリテーション病院で受け入れ、高度で専門的な回復期リハビリテーション医療を提供した。令和3年度は、新型コロナウイルス感染症が収束しない中、広島市民病院からは令和2年度を38人上回る168人、安佐市民病院からは令和2年度を32人上回る112人の入院患者を受け入れた。（全入院患者に占める割合は52.6%と、令和2年度の43.4%を上回った。） ○ 回復期リハビリテーションと急性期リハビリテーションとの連携強化について検討するため、10月から3月までリハビリテーション病院の理学療法士1人を広島市民病院に試行的に派遣した。 ○ 安佐市民病院では、後方支援病院であるリハビリテーション病院、日比野病院への診療支援を進める予定であるが、令和3年度は新型コロナウイルス感染症が収束せず、実現していない。引き続き支援体制を進めていく。 ○ 広島市民病院と舟入市民病院の連携について、舟入市民病院では、広島市民病院から急性期医療を終えた患者の受入れを積極的に行い、令和3年度は74人の入院等患者を受け入れるとともに、MRI検査についても広島市民病院から201人の患者を受け入れた。	3	年度計画を順調に実施しているため、「3」と評価した。	3

中期計画	令和3年度	地方独立行政法人広島市立病院機構による自己評価		市長による評価																					
	年度計画	評価理由等	記号	評価理由・コメント等	記号																				
	<ul style="list-style-type: none"> ・病院間の人事交流 ・各病院の職員が協議、交流する部門会議の開催 ・安芸市民病院との連携 	<p>【病院間の人事交流】</p> <p>○ 職員の適性等を生かし、各病院運営の活性化を図るため、令和3年度は以下のとおり、病院間における異動を行った。</p> <p>(令和3年度病院間異動者数)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区 分</th> <th>異動者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>看護師</td> <td>9人</td> </tr> <tr> <td>薬剤師</td> <td>7人</td> </tr> <tr> <td>診療放射線技師</td> <td>4人</td> </tr> <tr> <td>理学療法士</td> <td>4人</td> </tr> <tr> <td>作業療法士</td> <td>2人</td> </tr> <tr> <td>臨床検査技師</td> <td>6人</td> </tr> <tr> <td>栄養士</td> <td>2人</td> </tr> <tr> <td>医療ソーシャルワーカー</td> <td>2人</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>36人</td> </tr> </tbody> </table> <p>【各病院の職員が協議、交流する場づくり】</p> <p>○ 病院の枠を越えて、採用、職員配置、業務内容等の現状と課題等について、協議、交流、検討する場として、以下の職種について、各病院の責任者が出席する部門会議を開催した。</p> <p>【部門会議】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・看護師 ・薬剤師 ・臨床検査技師 ・診療放射線技師 ・理学療法士・作業療法士・言語聴覚士 ・臨床工学技士 ・医療ソーシャルワーカー ・事務職 <p>【安芸市民病院との連携】</p> <p>○ 各病院において、安芸市民病院との連携強化、受入体制の強化を図ることにより、紹介・逆紹介を積極的に行った。</p>	区 分	異動者数	看護師	9人	薬剤師	7人	診療放射線技師	4人	理学療法士	4人	作業療法士	2人	臨床検査技師	6人	栄養士	2人	医療ソーシャルワーカー	2人	計	36人			
区 分	異動者数																								
看護師	9人																								
薬剤師	7人																								
診療放射線技師	4人																								
理学療法士	4人																								
作業療法士	2人																								
臨床検査技師	6人																								
栄養士	2人																								
医療ソーシャルワーカー	2人																								
計	36人																								

中期計画	令和3年度	地方独立行政法人広島市立病院機構による自己評価		市長による評価																	
	年度計画	評価理由等		記号	評価理由・コメント等																
		(令和3年度安芸市民病院、紹介・逆紹介件数) <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>安芸市民病院からの紹介件数</th> <th>安芸市民病院への逆紹介件数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>広島市民病院</td> <td>21件</td> <td>70件</td> </tr> <tr> <td>安佐市民病院</td> <td>0件</td> <td>3件</td> </tr> <tr> <td>舟入市民病院</td> <td>17件</td> <td>8件</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>38件</td> <td>81件</td> </tr> </tbody> </table>		区分	安芸市民病院からの紹介件数	安芸市民病院への逆紹介件数	広島市民病院	21件	70件	安佐市民病院	0件	3件	舟入市民病院	17件	8件	計	38件	81件			
区分	安芸市民病院からの紹介件数	安芸市民病院への逆紹介件数																			
広島市民病院	21件	70件																			
安佐市民病院	0件	3件																			
舟入市民病院	17件	8件																			
計	38件	81件																			
<u>(2) 広島市立病院機構医療情報システムの運用 (小項目)</u> 広島市立病院機構医療情報システム(電子カルテシステムを中心とした医療情報を電子化して総合的に活用するシステム)の運用等により、4病院間の診療情報の円滑な伝達や共有化を推進します。また、同システムを活用し、地域の医療機関との診療情報の共有化等を行います。	<u>(2) 広島市立病院機構医療情報システムの運用 (小項目)</u> <ul style="list-style-type: none"> 広島市立病院機構医療情報システムによる、4病院間の診療情報の円滑な伝達や共有化の推進 ひろしま医療情報ネットワークの活用による、地域の医療機関への市立病院の医療情報の提供 	【4病院間の診療情報の円滑な伝達や共有化の推進】 ○ 平成27年度に更新等を実施した4病院の医療情報システムにおいて、電子カルテシステムを中心にシステムの円滑な運用を行い、4病院間の診療情報の円滑な伝達や共有化を推進した。 【地域の医療機関への市立病院の医療情報の提供】 ○ 平成29年4月からひろしま医療情報ネットワークに開示病院として参加し、約1,000の医療機関(令和4年3月31日時点)、薬局等と連携して診療情報の共有化を図った。	3	年度計画を順調に実施しているため、「3」と評価した。	3																

第1 市民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置

6 保健、医療、福祉、教育に係る行政分野への協力

中期目標 本市が実施する保健、医療、福祉、教育などの施策に協力するとともに、市行政全般との連携に努めること。

中期計画	令和3年度	地方独立行政法人広島市立病院機構による自己評価		市長による評価	
	年度計画	評価理由等	記号	評価理由・コメント等	記号
6 保健、医療、福祉、教育に係る行政分野への協力（大項目）	6 保健、医療、福祉、教育に係る行政分野への協力（大項目）				
<p>保健、医療、福祉、教育に係る行政分野への協力については、引き続き、広島市の担当する部局との連携を維持し、広島市が実施する保健や医療、福祉、教育に係る施策に協力します。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・広島市が実施する保健、医療、福祉、教育施策への協力 ・広島市の保健医療福祉担当部局との情報共有及び調整 ・重症心身障害児（者）医療型短期入所事業の継続実施（舟入市民病院） ・自殺未遂者支援窓口と医療機関等との連携（広島市民病院、安佐市民病院） ・中学生を対象としたがん教育の実施（広島市民病院、安佐市民病院） 	<p>【広島市が実施する保健、医療、福祉、教育施策への協力】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 広島市立看護専門学校の講師としての医師及び看護師の派遣、広島市立特別支援学校の修学旅行への医師同行派遣等を行った。 <p>【保健医療福祉担当部局との情報共有等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 広島市の保健医療福祉担当部局との情報共有及び調整に係る業務について、本部事務局に一元化し、各病院に対して適宜、適切な情報提供を行うとともに、法人内の調整を行った。 <p>【重症心身障害児（者）医療型短期入所事業の継続実施】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 医療型重症心身障害児（者）の短期入所利用者は延べ441人であった。新型コロナウイルス感染症に関連する患者を受け入れるために、令和3年5月17日～6月17日及び令和4年1月21日～3月17日の間はレスパイトの受入れを2床から1床に減らしたが、利用者は令和2年度に比べて延べ191人増加した。 <p>【自殺未遂者支援窓口と医療機関等との連携】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 広島市民病院では、広島市が進める自殺未遂者の自殺再企図防止支援事業への協力を継続するとともに、弁護士会「自死ハイリスク者のための支援事業」にも協力し自殺再企図防止に取り組んだ。 ○ 安佐市民病院では、広島市からの委託を受け、平成30年4月から自殺未遂者支援コーディネーターを配置して支援体制を構築し、引き続き、「自傷患者への早期介入を行う」ことを目標として支援を行うとともに、月1回、市の担当部署（精神保健福祉センター）や他の病院（広島市民病院等）のコーディネーターとともに会議を行い、支援内容の実施報告や課題等について協議を実施した。 <p>【中学生を対象としたがん教育の実施】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 広島市民病院では、「がん教育出前授業」として、市立中学校2校において、広島県第3次がん対策推進計画の学校教育におけるがん教育の実践及び 	3	<p>年度計画を順調に実施しているため、「3」と評価した。</p>	3

中期計画	令和3年度	地方独立行政法人広島市立病院機構による自己評価		市長による評価	
	年度計画	評価理由等	記号	評価理由・コメント等	記号
		<p>学校保健計画のがん教育に沿った講義を実施した。</p> <p>○ 安佐市民病院では、市立中学校6校、北広島町立中学校2校、県立高校1校に対して、広島県第3次がん対策推進計画の学校教育におけるがん教育の実践及び学校保健計画のがん教育に沿った講義を実施した。</p>			

第2 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置	
1 業務運営体制の確立	
(1) 迅速かつ的確な組織運営	
(2) 業務改善に取り組む風土づくり	

中期目標	<p>ア 理事長が強力なリーダーシップを発揮するとともに、各病院長への適切な権限移譲などを進め、迅速かつ的確な意思決定を行うこと。また、職員の経営参画意識やコスト意識の向上などにより、自律的かつ機動的な病院運営を行うこと。</p> <p>イ 積極的に業務改善に取り組むなど、効果的かつ効率的な業務運営体制を整備すること。</p>
------	--

中期計画	令和3年度	地方独立行政法人広島市立病院機構による自己評価		市長による評価	
	年度計画	評価理由等	記号	評価理由・コメント等	記号
<p>第3 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置</p> <p>1 業務運営体制の確立(大項目)</p> <p>中期目標、中期計画に掲げる目標、取組の達成を目指し、法人の運営を自律的、機動的に行うため、次のことに取り組みます。</p>	<p>第2 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置</p> <p>1 業務運営体制の確立(大項目)</p>				
<p>(1) 迅速かつ的確な組織運営(小項目)</p> <p>理事会や理事長、病院長等が出席する経営会議を中心に、適正かつ効果的な業務運営を図るとともに、病院内の委員会等を通じ、効率的な業務執行を行います。また、理事長がリーダーシップを発揮するとともに、病院長や病院内での適切な権限移譲等を進めることで、迅速かつ的確な意思決定を行います。</p>	<p>(1) 迅速かつ的確な組織運営(小項目)</p> <ul style="list-style-type: none"> 理事会や経営会議を中心とした迅速かつ的確な組織運営の推進 新型コロナウイルス対策等緊急時における病院長を中心とする統括組織運営の推進 	<p>【理事会を中心とした組織体制の整備等】</p> <ul style="list-style-type: none"> 定期的に理事会を開催(5回)し、法人の経営方針等の検討、規程改正等について審議した。 毎月、各病院長が出席する経営会議において、法人の主要な課題等について協議、検討するとともに、副理事長が毎月各病院をラウンドし、病院の現状把握及び現場での意見交換を行った。 <p>【新型コロナウイルス対策等緊急時における統括組織運営の推進】</p> <ul style="list-style-type: none"> 広島市民病院では、新型コロナウイルス感染症対策本部を設置し、毎週月曜日に新型コロナウイルス感染症対策本部を定例開催し、更に必要に応じて臨時的に対策本部を開催して、必要となる情報共有や専用病棟の開設や閉鎖、診療制限といった感染拡大防止対策等の協議を行った。 安佐市民病院では医師会に対して指導的にPCRセンターを開設し、ワクチン接種では、全病院体制で積極的に実施した。 <p>コロナ患者の対応や受入では、自宅療養者のCTトリアージ外来の実施や、</p>	3	<p>年度計画を順調に実施しているため、「3」と評価した。</p>	3

中期計画	令和3年度	地方独立行政法人広島市立病院機構による自己評価		市長による評価	
	年度計画	評価理由等	記号	評価理由・コメント等	記号
		<p>休日等におけるコロナ患者の受け入れ当番を積極的に受託した。</p> <p>受け入れ患者の治療にあたっては、コロナ病棟を内科全体で支え、全病院体制で受け入れを進めるとともに、一部の職員負担とならないよう、災害医療と同等に考え、病院長指示の下、全職員体制で対応した。</p>			
<p>(2) <u>業務改善に取り組む風土づくり(小項目)</u></p> <p>経営状況や業務運営上の課題等について、常に問題意識を持ち、その改善に取り組もうとする組織風土を醸成します。</p>	<p>(2) <u>業務改善に取り組む風土づくり(小項目)</u></p> <p>・組織の再編の実施(組織改正、法人採用職員への移行)</p> <p>・KPI(重要経営指標)の設定によるPDCAサイクルの確立</p>	<p>【組織の再編の実施】</p> <p>○ 安佐市民病院において患者サービス向上の一環として、患者に分かりやすい診療科名称とするため「外科」を「肝胆膵外科」に名称変更した。</p> <p>○ 舟入市民病院において、人間ドック業務の終了に伴い「健康管理センター」を廃止した。</p> <p>○ 法人採用職員については、令和3年度に9人の新規採用を行い、合計57人となり、市派遣職員の切替えを進めた。</p> <p>【KPI(重要経営指標)の設定によるPDCAサイクルの確立】</p> <p>○ 安佐市民病院では、14項目のKPIを設定し毎月部長会で報告し職員に周知徹底した。</p>	3	<p>年度計画を順調に実施しているため、「3」と評価した。</p>	3

第2 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置

2 人材の確保、育成

- (1) 病院を取り巻く環境変化に迅速、柔軟に対応した人材の確保
- (2) 事務職員の専門性の向上
- (3) 研修の充実

中期目標
 ア 多様な採用方法や雇用形態などにより、組織全体を活性化させるとともに、病院を取り巻く環境変化に迅速、柔軟に対応できる人材の確保の在り方について検討すること。
 イ 職種に応じた研修制度の充実を図るとともに、職員の専門性やスキル、倫理観を向上させること。また、本市との人事交流等により、保健医療福祉分野に関して、幅広い知識・経験を有する職員の育成を図ること。

中期計画	令和3年度	地方独立行政法人広島市立病院機構による自己評価		市長による評価	
	年度計画	評価理由等	記号	評価理由・コメント等	記号
2 人材の確保、育成 (大項目)	2 人材の確保、育成 (大項目)				
(1) 病院を取り巻く環境変化に迅速、柔軟に対応した人材確保 収支への影響も踏まえながら、病院を取り巻く環境変化に迅速、柔軟に対応した人材確保に努めます。	(1) 病院を取り巻く環境変化に迅速、柔軟に対応した人材確保				
ア 診療体制の充実 (小項目) 業務の量や質に応じた適切な人員配置を行い、診療・看護体制の充実や医療スタッフの負担軽減を図ります。	ア 診療体制の充実 (小項目) ・診療体制を強化するための医療スタッフの再編 ・業務の実状に即した機動的な人員配置(職員の随時募集の実施等) ・オンライン診療体制の構築(安佐市民病院)	【医療スタッフの再編】 ○ 広島市民病院においては、放射線技術部のCT検査体制を強化するため、診療放射線技師1人を増員し、安佐市民病院においては、臨床検査部における検査業務の増加に対する体制を強化するため、臨床検査技師1名を増員した。 【業務の実状に即した機動的な人員配置】 ○ 医療技術職については、退職等による欠員を解消するため、次のとおり採用試験を実施し、職員を確保した。 ・令和3年10月試験：言語聴覚士1人採用 ○ PCやタブレットを利用して予約、診察、決済までをインターネット上で行うオンライン診療体制を構築し新型コロナウイルス感染症流行時、在宅療養患者に対してオンライン診療を実施した。	3	年度計画を順調に実施しているため、「3」と評価した。	3

中期計画	令和3年度	地方独立行政法人広島市立病院機構による自己評価		市長による評価	
	年度計画	評価理由等	記号	評価理由・コメント等	記号
<u>イ 多様な採用方法と雇用形態の活用（小項目）</u> 新規採用や中途採用の実施、退職者の再任用の活用などにより、迅速、柔軟な人材確保を進めます。	<u>イ 多様な採用方法と雇用形態の活用（小項目）</u> ・経験者採用試験の実施など迅速・柔軟な人材確保 ・多様な勤務時間、勤務シフトの導入検討	【迅速・柔軟な人材確保】 ○ 配置数の少ない職種において、採用後すぐに業務に従事可能な実務経験者を対象とした採用試験を、保健師、心理療法士で実施した。 【多様な勤務時間、勤務シフトの導入検討】 ○ 業務の実態に対応するため、早出勤務、遅出勤務の開始時間を随時見直した。 ○ 広島市民病院では、令和4年2月から、東7A病棟において変則2交代制を開始した。 ○ 子育てと仕事との両立を支援するため、育児休業から復帰する際、個別・丁寧な面談を行うとともに、育児短時間勤務制度の周知を図った。	3	年度計画を順調に実施しているため、「3」と評価した。	3
<u>ウ 医師確保の推進（小項目）</u> 臨床研修プログラムや指導体制の充実、整備等に取り組み、専門医制度の動向にも適切に対応しながら、臨床研修医や後期研修医等の受入拡大、定着を図ります。	<u>ウ 医師確保の推進（小項目）</u> ・臨床研修病院としての研修プログラムの充実等による臨床研修医の確保	【臨床研修病院としての研修プログラムの充実等による臨床研修医の確保】 ○ 広島市民病院では、Webで臨床研修医師向け病院説明会に参加し研修プログラムをPRするとともに、指導医体制強化のため指導医資格取得講習会に医師を派遣し、指導医を中心に研修プログラムの充実を図った。 ○ 広島市民病院では、昨年度に引き続き、新専門医制度において内科、小児科、外科、産婦人科、麻酔科、病理診断科、救急科、耳鼻咽喉科及び形成外科については研修基幹病院としてのプログラム申請を行うとともに、その他の科に関しては岡山大学病院、広島大学病院等の連携施設として専攻医を受け入れるための申請を行い、研修体制の充実に取り組んだ。 ○ 安佐市民病院では、双方向会議システム（ZOOM）を利用し、病院発信のオンライン説明会を複数回開催し、研修プログラムをPRした。指導医体制強化のための指導医資格取得講習会については全て中止となりオンラインへの振替も行われなかったため、指導医数増とはならなかった。 ○ 安佐市民病院では新病院の移転開設を迎えるため、マッチングによる初期臨床研修医の定員を8名から10名に増員した。上記のZOOMによる病院説明会を複数回行ったが1次募集でフルマッチしなかったため2次募集を行い、9名の令和4年度採用の初期臨床研修医を確保した。マッチング割れの原因として、新病院移転による環境変化に対する不安が一因との学生の意見があり、医師住宅や駐車場などの環境整備に努めることとした。 ○ 安佐市民病院では、令和3年度に広島大学病院の卒業臨床研修たすきがけプログラムの2年目初期臨床研修医の研修を行った。また、同病院の総合診療研	3	年度計画を順調に実施しているため、「3」と評価した。	3

中期計画	令和3年度	地方独立行政法人広島市立病院機構による自己評価		市長による評価																																																	
	年度計画	評価理由等	記号	評価理由・コメント等	記号																																																
		<p>修を総合診療科で受け入れ、令和3年度は14名の初期臨床研修医を指導した。さらに、広島共立病院初期臨床研修医3名の産婦人科研修を当院産婦人科で指導した。</p> <p>○ 安佐市民病院では、新専門医制度において内科及び総合診療科については研修基幹病院としてのプログラム申請を行うとともに、その他の科に関しては広島大学病院の連携施設として専攻医を受け入れるための申請を、引き続き行った。また、内科は呉共済病院、病理診断科は広島市民病院、集中治療部（救急）は広島市民病院、県立広島病院の連携施設である。</p> <p>○ 「協力型臨床研修病院」である舟入市民病院では、基幹型臨床研修病院である広島大学病院臨床実習教育研修センターなどから、初期臨床研修医を受け入れた。</p> <p>○ リハビリテーション病院では、昨年度に引き続き、教育研修施設の認定を受けている4学会の研修プログラムの充実を図り受入体制を整えた。また、広島大学病院の連携施設として専攻医を受け入れるための申請についても引き続き行った。</p> <p>○ 各病院において、以下のとおり、令和3年度の臨床研修医を受け入れた。</p> <p>(参考) 臨床研修医受入状況 (単位:人)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">区 分</th> <th colspan="3">令和2年度</th> <th colspan="3">令和3年度</th> </tr> <tr> <th>初期研修</th> <th>後期研修</th> <th>合計</th> <th>初期研修</th> <th>後期研修</th> <th>合計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>広島市民病院</td> <td>27</td> <td>63</td> <td>90</td> <td>28</td> <td>56</td> <td>84</td> </tr> <tr> <td>安佐市民病院</td> <td>17</td> <td>33</td> <td>50</td> <td>17</td> <td>33</td> <td>50</td> </tr> <tr> <td>舟入市民病院</td> <td>17</td> <td>—</td> <td>17</td> <td>30</td> <td>0</td> <td>30</td> </tr> <tr> <td>リハビリテーション病院</td> <td>—</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>61</td> <td>98</td> <td>159</td> <td>75</td> <td>89</td> <td>164</td> </tr> </tbody> </table> <p>・ 専門医制度に基づく専攻医の確保</p> <p>【専門医制度に基づく専攻医の確保】</p> <p>○ 広島市民病院においては、令和3年度には同病院の基幹プログラムに13人、連携プログラムに20人、合計33人の専攻医を受け入れた。</p> <p>○ 安佐市民病院においては、令和3年度には同病院の基幹プログラムに2人(内科)、連携プログラムに18人、合計20人の専攻医を受け入れた。</p> <p>・ 広島大学及び広島県と連携し、広島県北西部地域医療連携センターへのふ</p> <p>【ふるさと枠医師及び自治医科大学出身医師の配属の推進】</p> <p>○ 安佐市民病院では広島大学及び広島県と連携し、令和3年度に広島大学ふるさと枠出身の内科専攻医2名、自治医科大学出身の内科専攻医2名を広島県北</p>	区 分	令和2年度			令和3年度			初期研修	後期研修	合計	初期研修	後期研修	合計	広島市民病院	27	63	90	28	56	84	安佐市民病院	17	33	50	17	33	50	舟入市民病院	17	—	17	30	0	30	リハビリテーション病院	—	2	2	0	0	0	合計	61	98	159	75	89	164			
区 分	令和2年度			令和3年度																																																	
	初期研修	後期研修	合計	初期研修	後期研修	合計																																															
広島市民病院	27	63	90	28	56	84																																															
安佐市民病院	17	33	50	17	33	50																																															
舟入市民病院	17	—	17	30	0	30																																															
リハビリテーション病院	—	2	2	0	0	0																																															
合計	61	98	159	75	89	164																																															

中期計画	令和3年度	地方独立行政法人広島市立病院機構による自己評価		市長による評価																					
	年度計画	評価理由等	記号	評価理由・コメント等	記号																				
	るさと梓医師及び自治医科大学出身医師の配属の推進（安佐市民病院）	西部地域医療連携センターに配属した。																							
<u>エ 看護師確保の推進（小項目）</u> 広島市立看護専門学校との連携等の在り方を検討するとともに、推薦試験の実施などにより、優れた看護師の確保に取り組みます。	<u>エ 看護師確保の推進（小項目）</u> ・ガイダンス等へ積極的に参加するとともに、看護師養成機関への働きかけの強化など受験者増につながる取組の推進 ・特別試験（学校推薦や経験者採用）の実施	【ガイダンス等への積極的な参加等】 ○ 採用試験受験者の拡大を図るため、各病院において説明会・インターンシップを開催するとともに、看護師養成施設への訪問を3校、電話での受験案内説明（新型コロナウイルス感染症にて訪問予定を変更）を3校に行い、連携強化、受験生の確保に努めた。 【特別試験（学校推薦や経験者採用）の実施】 ○ 優秀な人材を早期に確保するため、令和3年5月に推薦試験を実施し、28人採用した。 ○ 一般採用受験資格を実務経験の有無に応じ、A区分（看護師免許取得見込み又は実務経験3年未満）とB区分（実務経験3年以上）とに区分して、令和3年7月に一般採用試験を実施し、103人（A区分89人、B区分14人）を採用した。なお、7月の一般採用試験で採用予定人数を確保できたため、中途試験は実施しなかった。 ・育児、介護を理由とする退職者が対象の採用試験は応募がなく実施しなかった。 ○ 合格後の採用辞退をできるだけ少なくするため、採用内定者を対象に、令和3年10月に合同懇談会をWebで行い、同年12月から令和4年3月までの間に配属病院による懇談会を実施した。 （令和3年度採用試験受験者数、合格者数、採用者数） （単位：人） <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> <th>採用者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>推薦（5月）</td> <td>30</td> <td>28</td> <td>28</td> </tr> <tr> <td>一般（7月）</td> <td>165</td> <td>110</td> <td>103</td> </tr> <tr> <td>機構経験者（9月）</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>195</td> <td>138</td> <td>131</td> </tr> </tbody> </table>	区分	受験者数	合格者数	採用者数	推薦（5月）	30	28	28	一般（7月）	165	110	103	機構経験者（9月）	0	0	0	合計	195	138	131	3	年度計画を順調に実施しているため、「3」と評価した。	3
区分	受験者数	合格者数	採用者数																						
推薦（5月）	30	28	28																						
一般（7月）	165	110	103																						
機構経験者（9月）	0	0	0																						
合計	195	138	131																						

中期計画	令和3年度	地方独立行政法人広島市立病院機構による自己評価		市長による評価	
	年度計画	評価理由等	記号	評価理由・コメント等	記号
	<ul style="list-style-type: none"> ・4病院が実施するインターンシップや各病院のホームページ、SNSからの新人教育の広報を支援 ・看護部門年報のホームページ掲載 ・特定行為研修のパッケージへの対応と医師の共同参画の推進（安佐市民病院） 	<p>【インターンシップやホームページ、SNSからの新人教育の広報支援】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 広島市民病院看護部では、インターンシップWebを2時間3日間実施し、107名の参加があった。 ○ 広島市民病院看護部では、SNSからの新人教育広報の発信を行った。 ○ 令和3年5月に、SNSからの新人教育広報の支援のため、本部事務局経営管理課看護管理担当はTwitterを開設した。 ○ 令和4年2月にナース専科オンライン合同就職説明会に参加した。 <p>【看護部門年報のホームページ掲載】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 冊子としていた看護部門年報は、令和2年度からホームページに掲載する方法も追加した。 <p>【特定行為研修のパッケージへの対応と医師の共同参画の推進（安佐市民病院）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 特定行為15行為中10行為を実施している「外科術後病棟棟管理領域」パッケージから開始できるよう、「教育研修管理センター開設準備室」会議で検討を行った。 			
<p><u>オ 看護師等の安定的な職場定着の推進（小項目）</u></p> <p>看護師等の職場への定着を図るため、意欲的に働くことができる働きやすい職場環境づくりや指導体制の充実に取り組みます。</p>	<p><u>オ 看護師等の安定的な職場定着の推進（小項目）</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・看護師等の負担軽減を図る看護補助者の配置 ・病院間の連携を図り、より良い指導体制の検討と支援 	<p>【看護師等の負担軽減を図る看護補助者の配置】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 令和3年度は、広島市民病院で4人の業務員を、身体の清潔・排泄・食事などの介助業務も行う介助業務員に移行した。さらに、令和3年4月から順次5人の遅出介助業務員と12月から4人の介助業務員の育成に取り組んでいる。 ○ 安佐市民病院では、令和3年度は3人の業務員を介助業務員に移行した。また、新型コロナウイルス感染症の影響により土日の介助業務を実施していた学生アルバイトの雇用が困難となったため、令和2年11月より介助業務員が業務を行っている。さらに、令和4年2月から1人の介助業務員の育成に取り組んでいる。 ○ 舟入市民病院では、看護補助者を対象とした業務の質の向上を図るための研修会（延べ2回）を行い、eラーニングを導入し、何時でも視聴・活用できる体制を整備した。看護補助者を確保することが困難なため、多様な雇用形態を取り入れている。 <p>【病院間の連携を図り、より良い指導体制の検討と支援】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 月1回の看護部門長会議と年3回の教育担当者会議で、情報共有及びより良い指導体制を検討した。また、病院間の連携として、9名の看護師の人材交流を実施した。 	3	年度計画を順調に実施しているため、「3」と評価した。	3

中期計画	令和3年度	地方独立行政法人広島市立病院機構による自己評価		市長による評価																					
	年度計画	評価理由等	記号	評価理由・コメント等	記号																				
	<ul style="list-style-type: none"> ・メンタルヘルスサポートシステムの運用 ・新人看護師ストレスチェックを毎月実施し、ストレスの軽減に向けて早期に対応 ・看護提供方式（PNS）の評価 	<p>【メンタルヘルスサポートシステムの運用】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 本部事務局は、各病院との連携を図り、病休者、退職者の状況把握を行い、職場環境の改善に向けた各病院の取り組みを支援した。 ○ 広島市民病院では、メンタルヘルス部会でハラスメント研修会として、中間管理職を対象の研修を行い、医師1人・看護師34人・医療技術職7人・事務員7人の合計49人が参加した。 ○ リハビリテーション病院では、平成28年度に導入したメンタルヘルスサポートシステムを活用し、令和3年度も年2回のストレスチェックの実施や、メンタルヘルスの自己学習の利用について職員に紹介した。 <p>【新人看護師ストレスチェックの実施及びストレスの軽減への対応】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 新規採用職員を対象としたストレス解消法についての研修を実施し、65人が参加した。 <p>【看護提供方式（PNS）の評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 令和2年度に看護提供方式PNS（Partnership Nursing System®）を完全導入し、令和3年度はマインド醸成研修、他己監査を実施した。 																							
<p><u>カ 病院間の人事交流の推進</u> <u>（小項目）</u></p> <p>各病院が必要とする人材を市立病院全体で確保・育成するため、病院間の人事交流を推進します。</p>	<p><u>カ 病院間の人事交流の推進</u> <u>（小項目）</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・人事交流の推進 	<p>【人事交流の推進】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 法人全体で職員を確保・育成するため、令和3年度は以下のような病院間の異動を行った。 <p>（令和3年度病院間異動者数）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>異動者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>看護師</td> <td>9人</td> </tr> <tr> <td>薬剤師</td> <td>7人</td> </tr> <tr> <td>診療放射線技師</td> <td>4人</td> </tr> <tr> <td>理学療法士</td> <td>4人</td> </tr> <tr> <td>作業療法士</td> <td>2人</td> </tr> <tr> <td>臨床検査技師</td> <td>6人</td> </tr> <tr> <td>栄養士</td> <td>2人</td> </tr> <tr> <td>医療ソーシャルワーカー</td> <td>2人</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>36人</td> </tr> </tbody> </table>	区分	異動者数	看護師	9人	薬剤師	7人	診療放射線技師	4人	理学療法士	4人	作業療法士	2人	臨床検査技師	6人	栄養士	2人	医療ソーシャルワーカー	2人	計	36人	3	年度計画を順調に実施しているため、「3」と評価した。	3
区分	異動者数																								
看護師	9人																								
薬剤師	7人																								
診療放射線技師	4人																								
理学療法士	4人																								
作業療法士	2人																								
臨床検査技師	6人																								
栄養士	2人																								
医療ソーシャルワーカー	2人																								
計	36人																								

中期計画	令和3年度	地方独立行政法人広島市立病院機構による自己評価		市長による評価	
	年度計画	評価理由等	記号	評価理由・コメント等	記号
<p><u>(2) 事務職員の専門性の向上</u> <u>(小項目)</u> 法人職員の計画的な採用と育成 広島市からの派遣職員を法人採用職員に段階的に切り替え、病院経営、医療事務に係る専門知識を有する職員の確保を図ります。また、事務職員の専門性を向上するため、広島市への職員派遣や研修の充実を図るとともに、スキルアップを支援する仕組みを検討します。</p>	<p><u>(2) 事務職員の専門性の向上</u> <u>(小項目)</u> 法人職員の計画的な採用と育成 ・法人採用職員の計画的な採用 ・法人内の研修の実施などによる事務職員の専門性の向上 ・管理監督者を対象とした研修の実施</p>	<p>【法人採用職員の計画的な採用】 ○ 令和2年度に採用試験を実施し、令和3年度に8人の新規採用を行った。法人化後における法人採用事務職員数は、退職者を除き57人となった。</p> <p>【事務職員の専門性の向上】 ○ 事務職員に対しては、本部事務局が新規採用職員研修を実施したほか、令和2年度に引き続き各病院で医療クラークを対象とした実務研修、医事課職員を対象に診療報酬請求、DPC（診断群分類包括医療制度）の分析に関する研修などを実施し、専門性の向上を図った。</p> <p>【中堅管理職員の育成】 ○ 監督職としてのマネジメント力の向上を図るため、係長級の職員を対象に、業務改善、部下の育成や指導方法等について、令和2年度に引き続き外部講師による新任係長級研修を実施した。</p>	3	年度計画を順調に実施しているため、「3」と評価した。	3
<p><u>(3) 研修の充実</u> <u>ア 多様な研修機会の提供と参加しやすい環境づくり</u> (小項目) 院内研修の充実、各種学会・研修会への参加の促進、専門資格取得のための研修など、多様な研修機会の提供と参加しやすい環境づくりに取り組みます。</p>	<p><u>(3) 研修の充実</u> <u>ア 多様な研修機会の提供と参加しやすい環境づくり</u> (小項目) ・院内研修の充実</p>	<p>【院内研修の充実】 ○ 広島市民病院では、看護部の年間教育計画冊子を各部署に配布した。ラダーレベル別教育目的が達成できる研修内容としては、ラダーⅣ・Ⅴ研修内容に診療報酬・病院経営の導入を設定した。キャリア開発ラダーの受審を推進し、ジェネラリストラダー237人（Ⅰ37人、Ⅱ133人、Ⅲ46人、Ⅳ21人、Ⅴ0人）を認定した。マネジメントラダーは25人（Ⅰ8人、Ⅱ13人、Ⅲ2人、Ⅳ2人）を認定した。 全職員を対象として、医療安全、感染対策、メンタルヘルス及び看護必要度に関する研修を動画形式で実施するなど、受講率の増加を図った。 チーム医療の人材育成を目的に、RST、NST、摂食嚥下口腔ケア、排尿ケアの院内認定教育課程を継続し、合計68人を認定した。 ○ 安佐市民病院では、キャリアラダーをもとに昨年度の研修内容を見直し、年間計画に沿って研修を実施した。また、管理者の育成を目指した「OJT研修」</p>	3	年度計画を順調に実施しているため、「3」と評価した。	3

中期計画	令和3年度	地方独立行政法人広島市立病院機構による自己評価		市長による評価	
	年度計画	評価理由等	記号	評価理由・コメント等	記号
	<ul style="list-style-type: none"> ・自発的勉強会の促進（安佐市民病院） ・チーム一体研修（多職種と共に臨床現場でのOJT）の計画立案と実施（安佐市民病院） 	<p>を実施し、OJTステップ1は1人、OJTステップ2は1名修了した。また、全職員を対象として、感染対策、医療安全、接遇、倫理、認知症の研修をWEB開催で実施した。</p> <p>○ 舟入市民病院では、医療安全や感染対策、倫理研修等については従来、集合研修で行っていた。令和3年度は、昨年度と同様に新型コロナウイルス感染対策として、基本的にはパソコンからの閲覧とし、研修対象者全員の閲覧形式とした。集合研修を行う場合は、最大40人までに制限して実施した。</p> <p>看護科では、看護協会が推奨しているクリニカルラダーの目標が達成できるよう支援を行った。さらに、院内認定看護師制度（感染管理分野・小児救急看護分野、皮膚・排泄ケア看護分野、IVナース）については、5～7回シリーズの研修を延べ12回行った。</p> <p>○ リハビリテーション病院では、教育研修委員会で院内研修の年間計画や研修テーマや内容の検討を行い、研修内容の充実を図っている。</p> <p>新型コロナウイルス感染症の感染防止のため、集合形式での研修とオンライン等の活用による分散形式での研修を組み合わせ実施した。</p> <p>また、看護科では、リハビリテーション看護クリニカルラダーとマネジメントラダーを取り入れ、看護師のキャリア開発に向けて取り組み、クリニカルラダーは21人（Ⅰ1人、Ⅱ3人、Ⅲ11人、Ⅳ6人）、マネジメントラダーは7人（Ⅰ4人、Ⅱ3人）を認定した。</p> <p>○ 本部事務局経営管理課看護管理担当では、新看護師長研修として、機構組織の役割を理解し看護管理者の責務を遂行するための実践力を図る目的で、広島市民病院企画課職員を講師として、診療報酬のしくみについて講義・演習を行った。</p> <p>【自発的勉強会の促進】</p> <p>○ 職員の自発的勉強会開催や参加を促進するため、自己研鑽ではなく、診療報酬やチーム医療など病院機能として重要な勉強会の場合、出張費、参加費などの法人負担や、参加者の勤務代替などの支援を行う体制づくりを行っている。</p> <p>【チーム一体研修（多職種と共に臨床現場でのOJT）の計画立案と実施】</p> <p>○ 多職種と協働し臨床現場で実践的に習得したい知識・技術を抽出し8テーマの動画研修ビデオを作成し、電子カルテでWeb公開し、スタッフがいつでもどこでも視聴できるようにした。</p>			

中期計画	令和3年度	地方独立行政法人広島市立病院機構による自己評価		市長による評価	
	年度計画	評価理由等	記号	評価理由・コメント等	記号
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 院外の学会・研修会等への参加機会の確保 ・ 法人内の合同研修会の開催 ・ 専門資格取得のための教育研修参加の支援 	<p>【院外の学会・研修会等への参加機会の確保】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 広島市民病院では、国内の学会や研修会等への参加機会を、法人負担で延べ527件確保した。 ○ 安佐市民病院では、国内の学会・研修会等への参加機会を、法人負担で延べ354件確保した。 ○ 舟入市民病院では、院外の学会・研修会については、予算及び職員学会等出張取扱要領の範囲内で所属ごとに参加者を選定している。 ○ リハビリテーション病院では、院外の学会・研修会については、予算及び職員学会等出張取扱要領の範囲内で所属ごとに参加者を選定している。 <p>【合同研修会の開催】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 法人の新規採用者全員に対して、職場への円滑な適応を図るため、職員倫理・人権問題・メンタルヘルスなど、社会人として必要な心構えについて合同研修を行う予定としていたが、新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、各職員の動画視聴による研修を実施した。 ○ 法人の看護師を対象に、キャリア形成の節目研修として、「新師長研修」、「新主任研修」及び「ラダーⅡ取得者研修」の合同研修を実施した。 <p>【専門資格取得のための教育研修参加の支援】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 広島市民病院では、資格取得を促進するため、専門教育を受けるための費用を法人で負担し教育参加の支援を行った。認定看護師では2人（クリティカルケア・緩和）が教育課程を修了し、うち、クリティカルケアでは1人が特定行為研修を終了した。また、手術室認定看護師1名が教育課程を修了し令和4年度に認定試験を受験予定となったことから、手術室パッケージの特定行為研修は終了した。 ○ 安佐市民病院では、資格取得を促進するため、専門教育を受けるための費用を法人で負担し教育参加の支援を行った。認定看護師2名が（感染管理：特定行為、手術室看護）認定となった。 ○ 舟入市民病院では、専門資格取得のための教育研修参加については、必要な費用等を法人が負担し認定看護師等の資格取得を促進している。今後、認知看護分野やがん化学療法看護分野の認定看護師の資格を取得できるよう支援を行うこととした。 ○ リハビリテーション病院では、専門資格取得のための教育研修参加については、必要な費用等を法人が負担し認定看護師等の資格取得を促進しており、令 			

中期計画	令和3年度	地方独立行政法人広島市立病院機構による自己評価		市長による評価	
	年度計画	評価理由等	記号	評価理由・コメント等	記号
		和3年度は、日本看護協会の助成金も活用し、感染管理認定看護師の教育課程に1人の看護師が参加し課程を修了した。			
イ 新規採用看護師に対する指導・研修の充実（小項目） 専任の教育担当看護師による新規採用の看護師への指導や研修の充実を図ります。	イ 新規採用看護師等に対する指導・研修の充実（小項目） ・教育担当看護師による指導の実施 ・研修プログラムの充実	【教育担当看護師による指導の実施】 ○ 広島市民病院では、教育担当看護師による指導の充実を図るため、教育担当者研修を4回開催した。また、部署のサポート体制作りとキャリア支援室との連携を強化した。さらに、フレッシュパートナー研修を5回実施し、課題への対応策を検討し、新人のサポートに取り組んだ。新人教育は、165時間の集合研修を実施した。実習経験の少ない新人看護師に対し、2週間の看護過程の展開を実施し、早くに部署に慣れるように支援した。新人看護師の離職は1人の2.3%で（2020年看護協会調査全国平均11.5%）離職防止に成果があった。 ○ 安佐市民病院では、新規採用看護師の個人育成マップ（技術チェックリスト）を再検討し、各部署の担当者と教育担当者が、個々の成長に合わせた支援体制を図った。 ○ 舟入市民病院では1人体制（専任）で、教育担当看護師が新規採用看護師等の教育担当として指導、研修を行った。 ○ リハビリテーション病院では、新人看護職員教育チェックリストを用いて指導を行った。実施指導者が主にOJTを通して技術の習得をサポートし、教育担当者は、実地指導者の相談役となったり、実際に指導を行ったりして新人教育に関わった。また、令和3年度は、ラダー教育プログラムに沿った教育体制を構築し育成強化に取り組んだ。令和3年度の新人離職率は0%（0人/8人）（令和2年度20%（1人/5人））であった。	3	年度計画を順調に実施しているため、「3」と評価した。	3
		【研修プログラムの充実】 ○ 広島市民病院では、集合研修に加えて、臨床研修として、部署・部門・クリティカル研修を7日間実施した。ジェネラリストラダーIの取得率は93%であった。 ○ 安佐市民病院では、キャリアラダーをもとに研修内容を再検討した。令和3年度のラダー認定者は、総計で131人であった。また、看護部教育映像コンテンツを開設し、医師と協働して動画による教育ビデオを作成し電子カルテで視聴できるような体制を作った。 ○ 舟入市民病院では、新人教育年間スケジュールパスを作成し、各々の看護技術習得時期と習得状況を分かりやすくし、指導を行った。			

中期計画	令和3年度	地方独立行政法人広島市立病院機構による自己評価		市長による評価	
	年度計画	評価理由等	記号	評価理由・コメント等	記号
	<ul style="list-style-type: none"> ・教育担当看護師、新人看護師をサポートする先輩看護師（フレッシュパートナー）の育成研修（広島市民病院） ・新たにIVナース院内認定研修の実施（広島市民病院） 	<p>○ リハビリテーション病院では、リハビリテーション看護や緊急時の対応、フィジカルアセスメントなど、スキルアップに向けたプログラムで研修を行った。</p> <p>【先輩看護師（フレッシュパートナー）の育成研修（広島市民病院）】</p> <p>○ フレッシュパートナー研修を教育担当者と共に、年間5回実施し、主に新人看護師への技術指導方法・メンタルのサポート支援方法についての学びを深めた。研修での学びを部署の新人指導へ活かすことができ、新人看護師の定着へとつながった。</p> <p>【IVナース院内認定研修の実施（広島市民病院）】</p> <p>○ 第1期生である技術指導者研修を行い、各部署の指導者を育成。リンクナースによる新人研修での指導を行った。また、各部署の部署監査を行い、静脈注射の標準化の定着に努めた。新たに始めたIVナース院内認定はレベルⅢ415人、レベルⅣ22人と増えており、手技の標準化と根拠のある知識で質を向上させている。</p>			

第2 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置

3 弾力的な予算の執行、組織の見直し

中期目標	地方独立行政法人制度の利点を十分に生かし、弾力的な予算執行等を進めるとともに、医療需要や病院の実態等に応じた組織や人員配置とすること。
------	---

中期計画	令和3年度	地方独立行政法人広島市立病院機構による自己評価		市長による評価	
	年度計画	評価理由等	記号	評価理由・コメント等	記号
<p>3 弾力的な予算の執行、組織の見直し(大項目)</p> <p>地方独立行政法人制度の利点を十分に生かし、引き続き、病院実態に即した弾力的な予算執行、組織や人員配置の見直しを行い、効果的かつ効率的な業務運営を行います。</p>	<p>3 弾力的な予算の執行、組織の見直し(大項目)</p>				
	<ul style="list-style-type: none"> ・病院実態に即した弾力的な予算の執行 ・組織、人員配置の見直しによる効果的かつ効率的な業務運営体制の確保 	<p>【弾力的な予算執行】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 令和4年度予算編成において、各病院長の意見を反映させて、医療機器整備計画を病院の実態や必要性に応じて見直した。 <p>【組織、人員配置の見直しによる効果的かつ効率的な業務運営体制の確保】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 患者サービス向上の一環として、患者に分かりやすい診療科名称とするため、安佐市民病院において、「外科」を「肝胆膵外科」に名称変更した。また、舟入市民病院の人間ドック業務の終了に伴い、「健康管理センター」を廃止した。 ○ 業務の効率化を図るため、リハビリテーション病院の情報システム運用管理業務を、令和4年度から、本部事務局財務課情報システム係に統合することとし、令和3年度は、その統合準備を行った。 	3	<p>年度計画を順調に実施しているため、「3」と評価した。</p>	3

第2 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置

4 意欲的に働くことのできる、働きやすい職場環境づくり

- (1) 病院の実態に即した人事・給与制度の構築
- (2) 適切な役割分担と業務の負担軽減
- (3) ワーク・ライフ・バランスの推進
- (4) メンタルヘルス対策の実施

中期目標

職員のインセンティブの向上を図るとともに、法人の経営状況を踏まえつつ、職員の能力や業績を的確に反映できる人事・給与制度とすること。また、働き方改革の実現や子育て支援の充実など、ワーク・ライフ・バランスの推進に取り組むことで、職員が誇りや働きがいを持てる職場環境を整備すること。

中期計画	令和3年度	地方独立行政法人広島市立病院機構による自己評価		市長による評価	
	年度計画	評価理由等	記号	評価理由・コメント等	記号
4 意欲的に働くことのできる、働きやすい職場環境づくり（大項目）	4 意欲的に働くことのできる、働きやすい職場環境づくり（大項目）				
(1) 病院の実態に即した人事・給与制度の構築（小項目） 病院職員が意欲的に働くことができるよう、法人の経営状況を踏まえつつ、職員の勤務実態や能力、業績等が適正に評価される人事・給与制度を構築します。	(1) 病院の実態に即した人事・給与制度の構築（小項目） ・勤務実態に応じた手当の見直し	【勤務実態に応じた手当の新設、見直し】 ○ 給与制度について、広島市人事委員会の勧告を踏まえ、広島市と同様に給与制度の改定を行った。 ○ 感染症防疫作業等従事職員の特殊勤務手当の見直しについて、国や他の政令指定都市の状況を踏まえ、一類感染症及び二類感染症の患者に対する診療、看護等の業務に従事した場合に限り支給対象とすることで労使協議を行い、令和4年度から実施することで妥結した。 なお、経過措置として、現行の支給対象者であって、見直し後に支給対象外となる者については、令和4年度末まで2分の1の額を支給することとした。	3	年度計画を順調に実施しているため、「3」と評価した。	3
(2) 適切な役割分担と業務の負担軽減（小項目） 医療クラークや看護補助者等、医療スタッフが行う業務を補助する職員の確保や民間事業者の活用などにより、医療スタッフの負担軽減を図ります。	(2) 適切な役割分担と業務の負担軽減（小項目） ・医療スタッフが行う業務を補助する職員の配置	【医療スタッフが行う業務を補助する職員の配置】 ○ 広島市民病院では、看護師の業務負担軽減を図るため、介助業務員の雇用形態を変更し人材確保に努めた。また、介助業務員に必要な技術や知識を習得するための研修会を行い、看護補助業務の質の向上を図った。 ○ 安佐市民病院では、看護補助者に対する定期的な研修を実施するとともに、期間限定の6時間業務員の雇用及び部署間の応援体制で対応し、看護師の業務負担軽減を図った。	3	年度計画を順調に実施しているため、「3」と評価した。	3

中期計画	令和3年度	地方独立行政法人広島市立病院機構による自己評価		市長による評価	
	年度計画	評価理由等	記号	評価理由・コメント等	記号
	<ul style="list-style-type: none"> ・人材派遣を活用し、欠員が生じている部署の負担軽減 ・医療クレークの増員による医師の負担軽減（広島市民病院、安佐市民病院） ・ソフトウェアによる自動的な操作によって人間の操作を代替するRPAの適用業務の拡大（安佐市民病院） 	<p>【人材派遣を活用し、欠員が生じている部署の負担軽減】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 広島市民病院では、受付業務の一部を委託化し、欠員解消を図った。 ○ 広島市民病院では、入院患者が入院生活に必要な物品を洗濯付きで貸与する「入院セットサービス」システムを導入した。これまで、患者の私物を看護補助者が回収し集金・洗濯場へ搬送していたが、入院セットサービスを導入することで回収・集金業務がなくなり業務負担軽減となった。 <p>【医療クレークの増員】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 広島市民病院では、外来の医師事務作業補助者を9名増員し、総計42名とした。精神科、脳神経内科、小児科の診察室に配置することで医師の負担軽減に取り組んだ。また、令和3年11月から令和4年1月の3か月間、病棟クレークの試験的配置を行った。今回は内科系と外科系に関して行ったが、サマリーの下書きや診療情報提供書の作成等の文書作成業務において、医師の負担軽減につなげることができた。 ○ 安佐市民病院では、医師の働き方改革を推進するために、医療クレークを13名増員し総計45名とした。歯科や救命救急センター・医療支援センターに配置することで、外来診療補助業務、周術期管理等に関わる医師の負担軽減に取り組んだ。また、医療クレークの業務の平準化・業務能力の向上を目的として、新採用研修・フォローアップ研修を計画的に実施し育成した。 <p>【RPAの適用業務の拡大（安佐市民病院）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ RPA（ロボットによる業務自動化）のシナリオ作成技能を習得した多職種の職員（放射線技師、看護師、理学療法士、薬剤師、事務、栄養士）がそれぞれの部門での課題を持ち寄り、自動化可能な業務について協力してRPAのシナリオを作成した。令和3年度においては、医薬品購入金額集計、リハビリ処方予約集計など12の業務が自動化された。 			

中期計画	令和3年度	地方独立行政法人広島市立病院機構による自己評価		市長による評価	
	年度計画	評価理由等	記号	評価理由・コメント等	記号
(3) <u>ワーク・ライフ・バランスの推進（小項目）</u>	(3) <u>ワーク・ライフ・バランスの推進</u>				
ワーク・ライフ・バランスの実現に向け、院内保育の充実や長時間労働の是正に向けた取組などを推進し、職員が働きやすい職場環境を整備します。	<u>ア 子育てと仕事との両立の支援（小項目）</u> ・ 育児短時間勤務制度の維持 ・ 院内保育等の実施	【育児短時間勤務制度の維持】 ○ 子育てと仕事との両立を支援するため、現場や育児短時間勤務職員からの意見を聴きながら、職員にとって働きやすい勤務形態を導入している。また、育児休業から復帰する際には、所属長等が個別に面談を行い、子育て支援に係る制度の周知を図った。 【院内保育等の実施】 ○ 平成30年度から院内保育を利用している乳幼児の兄弟等についても夜間保育の利用対象としたことや夜間保育の開設日数を増やし、令和3年度においても体制を維持することで、子育てと仕事との両立を支援した。	3	年度計画を順調に実施しているため、「3」と評価した。	3
	<u>イ 長時間労働の是正（小項目）</u> ・ 長時間労働の是正のための取組推進	【時間外勤務縮減のための取組推進】 ○ 時間外勤務縮減のための取組を推進し、法人全体でコロナ禍前の令和元年度と比べ、時間外勤務を25,951時間削減（元年度から4.1%減少）した。 ○ 広島市民病院では次の取組を行っている。 ・ 時間外につながりやすい夕方以降の業務に対応するため、遅出出勤の導入 ・ 土日祝日の患者説明は行わない。 ・ 土日祝日の病棟業務は当番医が行う。 ・ 毎月の時間外実績を各所属長へ送付し、長時間労働の職員への指導配慮 ・ 医師の長時間労働に関する院内アンケートの実施結果を踏まえた改善策の検討 ○ 安佐市民病院では、遅出出勤を導入したこと、土日祝日において患者説明を行わないこと及び病棟業務を当番医が行うことにより、引き続き、時間外勤務縮減に取り組んだ。 ○ 舟入市民病院では、業務分担や記録のあり方の見直しを行うとともに業務改善に取り組んだ。また、患者数や看護度等を考慮し、看護単位をこえた応援を流動的に行い、時間外勤務の縮減に努めた。	3	年度計画を順調に実施しているため、「3」と評価した。	3

中期計画	令和3年度	地方独立行政法人広島市立病院機構による自己評価		市長による評価	
	年度計画	評価理由等	記号	評価理由・コメント等	記号
	<ul style="list-style-type: none"> 職員への意識啓発の取組 	<p>【職員への意識啓発の取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 毎月、全職員の時間外勤務時間数をチェックし、基準を超える勤務時間の職員には産業医による問診や面談を通じて、長時間労働が心身に与える悪影響や時間外勤務削減の必要性についての意識啓発、メンタルサポートに取り組んだ。 ○ 広島市民病院では、部長会において病院長から時間外勤務削減に向けた取組を周知しており、チーム医療体制を整え患者に対応することで職員の長時間労働の削減を図っている。 ○ 安佐市民病院では、経営会議や部長会等の会議で病院長から削減の取組のことを会議のたびに伝えており、チーム医療体制を整え患者に対応することで職員の長時間労働の削減を図っている。 ○ 舟入市民病院では、経営会議や院内幹部会等の会議で病院長から削減の取組のことを会議のたびに伝えており、チーム医療の推進、患者や家族への説明を基本的に開院時間内に行うよう周知するなど、職員の長時間労働の削減を図っている。 ○ リハビリテーション病院では、毎月の幹部会議、運営会議及び安全衛生委員会において、前月までの各所属の時間外勤務の実施状況を報告している。 また、「保健だより」でストレスへの対処方法等のメンタルヘルスに関する情報提供や、認知行動療法に基づくセルフケアに関する研修を実施するなど、保健師が職員のメンタルヘルスケアをサポートする活動を行った。 			
	<ul style="list-style-type: none"> 勤務間インターバル導入 (終業から翌日の始業までの一定の休息時間の確保)への取組 	<p>【勤務間インターバル導入】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 広島市民病院では、後期研修医の救急夜間勤務(22時～3時)について、勤務間インターバルの確保のため、廃止に向けて検討や院内調整を行った。 ○ 安佐市民病院では、勤務間インターバルの確保のため、新病院での救命救急センターの設置に伴い、医師の2交代制の導入や宿日直体制の見直しの検討・院内調整を行った。 			
	<p>ウ 年次有給休暇の取得促進 (小項目)</p> <ul style="list-style-type: none"> 取得義務日数達成のための取組推進 	<p>【取得義務日数達成のための取組推進】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 年次有給休暇の取得義務に関して、随時、事務連絡会議や各病院における部長会等において周知するなど、取得の促進に取り組んだ。また、所属長が所属職員の取得済みの日数や取得予定日について、容易に確認ができるよう勤怠管理システムの修正を行い、取得義務日数未達成の職員に対し取得の促 	3	年度計画を順調に実施しているため、「3」と評価した。	3

中期計画	令和3年度	地方独立行政法人広島市立病院機構による自己評価		市長による評価	
	年度計画	評価理由等	記号	評価理由・コメント等	記号
		進を図った。			
(4) <u>メンタルヘルス対策の実施</u> <u>(小項目)</u> 職員心の健康対策として、過重労働による健康障害の防止のための教育・研修の実施、相談体制の整備、職場復帰支援等を推進します。	(4) <u>メンタルヘルス対策の実施</u> <u>(小項目)</u> ・職員への意識啓発の取組 ・相談体制の整備 ・職場復帰の支援等 ・ストレスチェックの実施及び結果に基づいた対応	【意識啓発の取組】 ○ 各病院においてメンタルヘルス部会等を開催し、メンタルヘルスに関する様々な問題点について議論し、職員間への意識啓発を図った。 ○ 新規採用職員を対象とした合同研修会の中で、メンタルヘルスの研修を行う予定であったが、新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、機構全体の合同研修の開催ができなかった。これにより、今後において集合研修の開催が困難な場合に対応するため、視聴研修用の動画を作成した。 【相談体制の整備】 ○ 職員のストレスチェックを行い、職員のメンタル状況を把握するとともに、相談窓口の周知を図り、産業医、保健師等が必要な相談及び助言を行った。 【職場復帰の支援】 ○ 長期病休者等の職場復帰に当たっては、復帰が円滑に行えるよう、職場復帰訓練を行うとともに、産業医等による面接を行うなど、再度の病休入りの防止に努めた。 【ストレスチェックの実施及び結果に基づいた対応】 ○ 本部事務局では、令和3年11月に全職員を対象にストレスチェックを実施した。ストレスチェックの結果がハイリスクの職員に対しては、保健師が個別に相談窓口を案内するとともに、希望者には面談・電話・メールなどによる対応を行う体制としていたが、該当者はいなかった。 ○ 広島市民病院では、年2回(令和3年6月・11月)全職員へストレスチェックを実施(実施率:6月95.2%、11月98.2%)。ストレス度の高かった者には、保健師より相談窓口を案内した。ストレス度の高かった者の割合が多い部署には所属長に連絡し、状況把握するとともに、必要に応じて介入した。また、新人看護師については毎月実施し、キャリア支援室と連携をとりながら、ストレス度の高かった者や部署への早期対応に取り組んだ。 ○ 安佐市民病院では、令和3年6月及び令和4年1月に全職員を対象にストレスチェックを実施した(実施率:6月97.7%、1月81.2%)。特に新型コロナウイルス感染症患者を受入れる部署のストレス度は高い数値を示してお	3	年度計画を順調に実施しているため、「3」と評価した。	3

中期計画	令和3年度	地方独立行政法人広島市立病院機構による自己評価		市長による評価	
	年度計画	評価理由等	記号	評価理由・コメント等	記号
		<p>り、部署ごとに面接等を実施し、また、保健師からは面談勧奨等を行い職員のメンタルケアに努めた。</p> <p>○ 舟入市民病院では、年1回、時期を決めてストレスチェックを実施した。ストレスチェックの結果がハイリスクの職員に対しては、保健師が個別に相談窓口を案内するとともに、希望者には面談を行った。</p> <p>小児心療科において、新型コロナウイルス感染症関連メンタルヘルスケアチームを令和2年度に立ち上げ、当院の全職員を対象に新型コロナウイルス感染症関連の悩み相談を受け、メンタルの不調を予防・サポートする体制を整え、令和3年度も継続した。</p> <p>○ リハビリテーション病院では、ストレスチェックを年2回実施し、安全衛生委員会メンタルヘルス部会で結果の報告及び総合的な対策の検討を行っている。</p>			

第2 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置

5 外部評価等の活用

中期目標	会計監査人による監査、患者等利用者や本市評価委員会の意見を踏まえ、法人の業務運営の改善を図ること。
------	---

中期計画	令和3年度	地方独立行政法人広島市立病院機構による自己評価		市長による評価	
	年度計画	評価理由等	記号	評価理由・コメント等	記号
5 外部評価等の活用（大項目）	5 外部評価等の活用（大項目）				
<p>会計監査人による監査等の結果を踏まえ、対応を速やかに検討し、必要な業務運営の改善に取り組みます。また、病院運営の透明性を高めるため、その結果や対応について、ホームページ等を活用して積極的に公開します。</p>	<p>・監査等の結果を踏まえた業務運営の改善及びその公表</p>	<p>【監査等の結果を踏まえた業務運営の改善及びその公表】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 監事による監査規程に基づき、監事による4病院の<u>実地監査及び書類監査</u>を行った（令和4年2月～3月）。 ○ 会計監査人による、病院の医薬品等の棚卸の立会い、財務諸表等の決算に係る審査等を行った。また、安佐市民病院の<u>建替整備において、北館の固定資産の処分等に係る複雑な会計処理を、会計監査人に相談・助言を受け適正に行った。</u> ○ 会計規程に基づき、本部事務局職員が、毎月、本部事務局及び各病院において、現金残高の確認等の内部監査（自主監査）を実施した。 ○ 会計監査、監事監査の結果は、速やかに理事長及び理事会へ報告した上で、広島市へ報告するとともに公表した。 	3	<p>年度計画を順調に実施しているため、「3」と評価した。</p>	3

第3 財務内容の改善に関する目標を達成するためとるべき措置

経営の安定化の推進

- (1) 中期目標期間中の経常収支の黒字化
- (2) 診療科別・部門別の収支状況の把握と迅速な対応
- (3) 経費の削減
- (4) 収入の確保

中期目標	<p>ア 法人の経営努力だけでは維持することが困難な公共性の高い医療を提供するために必要となる経費（北館の病院の整備に係る経費を含む。）については、引き続き本市が負担するが、中期目標期間中の経常収支の黒字化を図ること。</p> <p>イ 適正な病床管理による病床利用率の向上、診療報酬改定への的確な対応、適切な未収金対策に引き続き取り組むことなど、安定的な収入の確保を図るとともに、各病院の部門ごとの詳細な収支状況の把握・分析、多様な契約手法の導入による調達コストの縮減など、経費の削減に取り組むことにより、地方独立行政法人制度の利点を生かした効率的な病院運営を行うこと。</p>
------	--

中期計画	令和3年度	地方独立行政法人広島市立病院機構による自己評価		市長による評価																							
	年度計画	評価理由等	記号	評価理由・コメント等	記号																						
<p>第4 財務内容の改善に関する目標を達成するためとるべき措置</p> <p><u>経営の安定化の推進（大項目）</u></p>	<p>第3 財務内容の改善に関する目標を達成するためとるべき措置</p> <p><u>経営の安定化の推進（大項目）</u></p>																										
<p>(1) <u>中期目標期間中の経常収支の黒字化（小項目）</u></p> <p>公共性の高い医療を提供するために必要な広島市からの運営費負担金の交付の下、中期目標期間中の経常収支の黒字化を図ります。</p> <p>【目標値】（単位：％）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>平成28年度実績</th> <th>令和3年度目標値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>経常収支比率</td> <td>98.4</td> <td>101.1</td> </tr> </tbody> </table> <p>※経常収支比率＝（経常収益／経常費用）×100</p>	区分	平成28年度実績	令和3年度目標値	経常収支比率	98.4	101.1	<p>(1) <u>中期目標期間中の経常収支の黒字化（小項目）</u></p> <p>・経営状況・分析を踏まえた病院運営の実施</p> <p>【目標値】（単位：％）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>令和3年度目標値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>経常収支比率</td> <td>101.6</td> </tr> </tbody> </table> <p>※経常収支比率＝（経常収益／経常費用）×100</p>	区分	令和3年度目標値	経常収支比率	101.6	<p>【経営状況・分析を踏まえた病院運営の実施】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 毎月開催する経営会議において、各病院の経営指標の現状と課題及びその対応策を報告し、意見交換を行って健全な病院運営を行うよう努めた。 ○ 令和3年度は、手術件数の増の取組みなどにより入院・外来収入が前年度に比べ増加し、新型コロナウイルス感染症に係る補助金が増加したことにより、前年度を上回る収入となったものの、安佐市民病院の移転に伴い今後取り壊す建物等の償却期間の短縮により、減価償却費が前年度に比べ増加し、経常収支比率は103.7%となった。 <p>【実績】（単位：％）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>平成29年度実績</th> <th>平成30年度実績</th> <th>令和元年度実績</th> <th>令和2年度実績</th> <th>令和3年度実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>経常収支比率</td> <td>99.6</td> <td>100.7</td> <td>99.7</td> <td>103.2</td> <td>103.7</td> </tr> </tbody> </table> <p>※経常収支比率＝（経常収益／経常費用）×100</p>	区分	平成29年度実績	平成30年度実績	令和元年度実績	令和2年度実績	令和3年度実績	経常収支比率	99.6	100.7	99.7	103.2	103.7	3	<p>毎月の経営会議で各病院の経営指標の現状を報告し、改善策等について協議するとともに、手術件数増の取組などにより、入院・外来収入が増加したが、経常収支の黒字化においては、新型コロナウイルス感染症の補助金収入が大きかったことを踏まえ「3」と評価した。</p>	3
区分	平成28年度実績	令和3年度目標値																									
経常収支比率	98.4	101.1																									
区分	令和3年度目標値																										
経常収支比率	101.6																										
区分	平成29年度実績	平成30年度実績	令和元年度実績	令和2年度実績	令和3年度実績																						
経常収支比率	99.6	100.7	99.7	103.2	103.7																						

中期計画	令和3年度		地方独立行政法人広島市立病院機構による自己評価		市長による評価																																																																						
	年度計画		評価理由等	記号	評価理由・コメント等	記号																																																																					
<p>【目標値】病院ごとの経常収支比率 (単位：%)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>平成28年度 実績</th> <th>令和3年度 目標値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>広島市民病院</td> <td>98.4</td> <td>100.4</td> </tr> <tr> <td>安佐市民病院</td> <td>97.8</td> <td>102.8</td> </tr> <tr> <td>舟入市民病院</td> <td>103.5</td> <td>103.3</td> </tr> <tr> <td>リハビリテーション病院</td> <td>93.4</td> <td>94.2</td> </tr> </tbody> </table> <p>【目標値】病院ごとの医業収支比率 (単位：%)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>平成28年度 実績</th> <th>令和3年度 目標値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>広島市民病院</td> <td>93.3</td> <td>95.4</td> </tr> <tr> <td>安佐市民病院</td> <td>93.2</td> <td>98.0</td> </tr> <tr> <td>舟入市民病院</td> <td>72.4</td> <td>75.5</td> </tr> <tr> <td>リハビリテーション病院</td> <td>76.7</td> <td>74.7</td> </tr> </tbody> </table> <p>※医業収支比率 = (医業収益 / 医業費用) × 100</p>	区分	平成28年度 実績	令和3年度 目標値	広島市民病院	98.4	100.4	安佐市民病院	97.8	102.8	舟入市民病院	103.5	103.3	リハビリテーション病院	93.4	94.2	区分	平成28年度 実績	令和3年度 目標値	広島市民病院	93.3	95.4	安佐市民病院	93.2	98.0	舟入市民病院	72.4	75.5	リハビリテーション病院	76.7	74.7	<p>【目標値】病院ごとの経常収支比率 (単位：%)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>令和3年度 目標値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>広島市民病院</td> <td>100.7</td> </tr> <tr> <td>安佐市民病院</td> <td>104.0</td> </tr> <tr> <td>舟入市民病院</td> <td>102.4</td> </tr> <tr> <td>リハビリテーション病院</td> <td>95.8</td> </tr> </tbody> </table> <p>【目標値】病院ごとの医業収支比率 (単位：%)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>令和3年度 目標値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>広島市民病院</td> <td>96.6</td> </tr> <tr> <td>安佐市民病院</td> <td>98.7</td> </tr> <tr> <td>舟入市民病院</td> <td>68.0</td> </tr> <tr> <td>リハビリテーション病院</td> <td>73.9</td> </tr> </tbody> </table> <p>※医業収支比率 = (医業収益 / 医業費用) × 100</p>	区分	令和3年度 目標値	広島市民病院	100.7	安佐市民病院	104.0	舟入市民病院	102.4	リハビリテーション病院	95.8	区分	令和3年度 目標値	広島市民病院	96.6	安佐市民病院	98.7	舟入市民病院	68.0	リハビリテーション病院	73.9	<p>【実績】病院ごとの経常収支比率 (単位：%)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>令和3年度 実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>広島市民病院</td> <td>103.0</td> </tr> <tr> <td>安佐市民病院</td> <td>104.3</td> </tr> <tr> <td>舟入市民病院</td> <td>126.8</td> </tr> <tr> <td>リハビリテーション病院</td> <td>96.5</td> </tr> </tbody> </table> <p>【実績】病院ごとの医業収支比率 (単位：%)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>令和3年度 実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>広島市民病院</td> <td>94.0</td> </tr> <tr> <td>安佐市民病院</td> <td>90.6</td> </tr> <tr> <td>舟入市民病院</td> <td>66.8</td> </tr> <tr> <td>リハビリテーション病院</td> <td>73.6</td> </tr> </tbody> </table> <p>※医業収支比率 = (医業収益 / 医業費用) × 100</p>	区分	令和3年度 実績	広島市民病院	103.0	安佐市民病院	104.3	舟入市民病院	126.8	リハビリテーション病院	96.5	区分	令和3年度 実績	広島市民病院	94.0	安佐市民病院	90.6	舟入市民病院	66.8	リハビリテーション病院	73.6			
区分	平成28年度 実績	令和3年度 目標値																																																																									
広島市民病院	98.4	100.4																																																																									
安佐市民病院	97.8	102.8																																																																									
舟入市民病院	103.5	103.3																																																																									
リハビリテーション病院	93.4	94.2																																																																									
区分	平成28年度 実績	令和3年度 目標値																																																																									
広島市民病院	93.3	95.4																																																																									
安佐市民病院	93.2	98.0																																																																									
舟入市民病院	72.4	75.5																																																																									
リハビリテーション病院	76.7	74.7																																																																									
区分	令和3年度 目標値																																																																										
広島市民病院	100.7																																																																										
安佐市民病院	104.0																																																																										
舟入市民病院	102.4																																																																										
リハビリテーション病院	95.8																																																																										
区分	令和3年度 目標値																																																																										
広島市民病院	96.6																																																																										
安佐市民病院	98.7																																																																										
舟入市民病院	68.0																																																																										
リハビリテーション病院	73.9																																																																										
区分	令和3年度 実績																																																																										
広島市民病院	103.0																																																																										
安佐市民病院	104.3																																																																										
舟入市民病院	126.8																																																																										
リハビリテーション病院	96.5																																																																										
区分	令和3年度 実績																																																																										
広島市民病院	94.0																																																																										
安佐市民病院	90.6																																																																										
舟入市民病院	66.8																																																																										
リハビリテーション病院	73.6																																																																										

中期計画	令和3年度	地方独立行政法人広島市立病院機構による自己評価		市長による評価	
	年度計画	評価理由等	記号	評価理由・コメント等	記号
<p>(2) 診療科別・部門別の収支状況の把握と迅速な対応（小項目）</p> <p>各病院の診療科別、部門別の収支状況を、常時把握、分析し、迅速に対応策を検討、実施します。</p>	<p>(2) 診療科別・部門別の収支状況の把握と迅速な対応（小項目）</p> <p>・各病院の診療科別、部門別収支状況を把握・分析し、迅速な対応策を検討・実施</p>	<p>【診療科別・部門別の収支状況の把握と迅速な対応】</p> <p>○ 広島市民病院では、毎月の経営状況の把握、診療科別、病棟別に収入、診療単価、平均在院日数、患者数、病床利用率、DPC入院期間比較等の可視化を行い、院内へ情報発信し、在院日数短縮等の意識付けを行った。</p> <p>○ 安佐市民病院では、診療科の患者数を勘案しつつ、新型コロナウイルス感染症患者受け入れに向けて随時病棟再編を臨機応変に対応してきた。あわせて、各診療科の新入院患者の受け入れを出来るだけ減少させないように、在院日数の短縮を進め診療単価の増加に結び付けた。また、病院長による各科主任部長等のヒヤリングを行い、新型コロナウイルス感染症の対応検討を進めるとともに、新病院に向けた準備を進めた。</p>	3	年度計画を順調に実施しているため、「3」と評価した。	3
<p>(3) 経費の削減（小項目）</p> <p>・各病院で使用する医薬品や診療材料の品目の共通化を進め、共同購入の拡大等に取り組みます。</p> <p>・診療経費の節減や患者負担の軽減の観点から、後発医薬品の採用拡大に取り組みます。</p>	<p>(3) 経費の削減（小項目）</p> <p>・複数年契約の推進</p> <p>・価格交渉落札方式による調達推進</p> <p>・SPDと連携した診療材料の共通化と購入品目数の削減</p>	<p>【複数年契約の推進】</p> <p>○ 「リハビリテーション病院等感染性医療廃棄物収集運搬及び処分業務」他20件について、複数年契約で一括発注を行った。</p> <p>【価格交渉落札方式による調達推進】</p> <p>○ 予算額2,000万円以上の医療機器10件について、価格交渉落札方式により調達を行い、全件について入札参加者が価格交渉に応じた結果、821万7,231円の購入価格低減が図られた。</p> <p>【SPDと連携した診療材料の共通化と購入品目数の削減】</p> <p>○ 診療材料の共通化については、前年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症の影響で、病院負担分の診療材料（マスク、アイソレーションガウン等）の価格と納品が安定しなかったが、SPD（院内物流管理業務）業者と連携を図りながら対応できるものから共通化を推進した。</p>	3	年度計画を順調に実施しているため、「3」と評価した。	3

中期計画	令和3年度	地方独立行政法人広島市立病院機構による自己評価		市長による評価																													
	年度計画	評価理由等	記号	評価理由・コメント等	記号																												
	<ul style="list-style-type: none"> 政府調達で購入する医療機器の複合契約（保守業務との）推進及び共同購入の推進 契約課と薬剤部共同による医薬品の価格交渉の実施 医薬品の採用品目の共通化 後発医薬品の使用量増加の推進 	<p>【政府調達で購入する医療機器の複合契約推進及び共同購入の推進】</p> <p>○ 「広島市民病院治療計画用マルチスライスCT装置の購入及び保守点検業務」他2件について複合契約を締結した。また、複数病院の共同購入案件はなかったが、関係者に共同購入について啓発するなどし、推進に努めた。</p> <p>【契約課と薬剤部共同による医薬品の価格交渉の実施】</p> <p>○ 契約課と薬剤部共同による価格交渉を上半期と下半期に分けて実施した結果、13.79%の加重値引率となり、令和2年度の加重値引率13.6%と比較して0.19ポイントのアップとなった。</p> <p>【医薬品の採用品目の共通化】</p> <p>○ 採用品目数の共通化について検討した結果、病院機能や使用医薬品の種類・数量が病院ごとに異なり、先発医薬品の共通化が難しいことから、後発医薬品の新規採用品目の共通化を進めた結果、33品目を共通化した。</p> <p>【後発医薬品の使用量増加の推進】</p> <p>○ 先発医薬品から後発医薬品への切替え及び後発医薬品の使用量増加を推進した。病院別で見ると、広島市民病院と安佐市民病院は目標値を達成したものの、舟入市民病院では、新型コロナウイルス感染症患者の受入れが前年度と同様にあり、後発医薬品の使用ができない事例が増えたため、目標値が達成できなかった。</p> <p>○ 広島市民病院では、後発医薬品への切替えを積極的に推進した結果、令和2年度3月末の77.6%から大幅に上昇し、目標値を達成できた。</p>																															
	<p>【目標値】後発医薬品数量シェア (単位：%)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>平成28年度実績</th> <th>令和3年度目標値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>広島市民病院</td> <td>74.1</td> <td>80.0</td> </tr> <tr> <td>安佐市民病院</td> <td>76.9</td> <td>80.0</td> </tr> <tr> <td>舟入市民病院</td> <td>-</td> <td>80.0</td> </tr> </tbody> </table> <p>※1 数量シェア＝(後発医薬品の数量／(後発医薬品のある先発医薬品の数量＋後発医薬品の数量))×100</p> <p>※2 平成28年度実績＝平成27</p>	区分	平成28年度実績	令和3年度目標値	広島市民病院	74.1	80.0	安佐市民病院	76.9	80.0	舟入市民病院	-	80.0	<p>【目標値】後発医薬品数量シェア (単位：%)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>令和3年度目標値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>広島市民病院</td> <td>80.0</td> </tr> <tr> <td>安佐市民病院</td> <td>85.0</td> </tr> <tr> <td>舟入市民病院</td> <td>80.0</td> </tr> </tbody> </table> <p>※ 数量シェア＝(後発医薬品の数量／(後発医薬品のある先発医薬品の数量＋後発医薬品の数量))×100</p>	区分	令和3年度目標値	広島市民病院	80.0	安佐市民病院	85.0	舟入市民病院	80.0	<p>【実績】後発医薬品数量シェア(3月末実績) (単位：%)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>令和3年度実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>広島市民病院</td> <td>80.9</td> </tr> <tr> <td>安佐市民病院</td> <td>93.1</td> </tr> <tr> <td>舟入市民病院</td> <td>68.0</td> </tr> </tbody> </table> <p>※数量シェア＝(後発医薬品の数量／(後発医薬品のある先発医薬品の数量＋後発医薬品の数量))×100</p>	区分	令和3年度実績	広島市民病院	80.9	安佐市民病院	93.1	舟入市民病院	68.0		
区分	平成28年度実績	令和3年度目標値																															
広島市民病院	74.1	80.0																															
安佐市民病院	76.9	80.0																															
舟入市民病院	-	80.0																															
区分	令和3年度目標値																																
広島市民病院	80.0																																
安佐市民病院	85.0																																
舟入市民病院	80.0																																
区分	令和3年度実績																																
広島市民病院	80.9																																
安佐市民病院	93.1																																
舟入市民病院	68.0																																

中期計画	令和3年度	地方独立行政法人広島市立病院機構による自己評価					市長による評価																								
	年度計画	評価理由等					記号	評価理由・コメント等	記号																						
年10月から平成28年9月までの実績 ※3 令和3年度目標値は厚生労働省が定めた数量シェアの目標値 【目標値】後発医薬品採用品目比率 (単位：%)	【目標値】後発医薬品採用品目比率 (単位：%)	【実績】後発医薬品採用品目比率 (各年度3月末実績) (単位：%)																													
<table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>平成28年度実績</th> <th>令和3年度目標値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>リハビリテーション病院</td> <td>27.2</td> <td>29.0</td> </tr> </tbody> </table>	区分	平成28年度実績	令和3年度目標値	リハビリテーション病院	27.2	29.0	<table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>令和3年度目標値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>リハビリテーション病院</td> <td>29.0</td> </tr> </tbody> </table>	区分	令和3年度目標値	リハビリテーション病院	29.0	<table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>平成29年度実績</th> <th>平成30年度実績</th> <th>令和元年度実績</th> <th>令和2年度実績</th> <th>令和3年度実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>リハビリテーション病院</td> <td>27.0</td> <td>29.3</td> <td>32.7</td> <td>32.5</td> <td>35.2</td> </tr> </tbody> </table>					区分	平成29年度実績	平成30年度実績	令和元年度実績	令和2年度実績	令和3年度実績	リハビリテーション病院	27.0	29.3	32.7	32.5	35.2			
区分	平成28年度実績	令和3年度目標値																													
リハビリテーション病院	27.2	29.0																													
区分	令和3年度目標値																														
リハビリテーション病院	29.0																														
区分	平成29年度実績	平成30年度実績	令和元年度実績	令和2年度実績	令和3年度実績																										
リハビリテーション病院	27.0	29.3	32.7	32.5	35.2																										
※1 採用品目比率 = (後発医薬品目数 / 医薬品目数総数) × 100 ※2 平成28年度実績 = 平成29年3月末 ・医療の質の向上、医療安全の確保、患者サービスの向上などに十分に配慮した上で、職員の適正配置、長時間労働の是正などに努め、適正な人件費の維持に努めます。	※1 採用品目比率 = (後発医薬品目数 / 医薬品目数総数) × 100 ・職員の適正配置、長時間労働の是正による適正な人件費の維持	※採用品目比率 = (後発医薬品目数 / 医薬品目数総数) × 100 【適正な人件費の維持】 ○ 職員の適正配置等により、適正な人件費の維持に努めた。 ○ 毎月、全職員の時間外勤務時間数をチェックし、基準を超える勤務時間の職員へは産業医による面談を受けさせることで、長時間労働が心身に与える悪影響や時間外勤務削減の必要性についての意識啓発、メンタルサポートに努めた。 ○ 広島市民病院では、長時間労働の是正のために、次の取組を行っている。 ・時間外に付き合いやすい夕方以降の業務に対応するため、遅出出勤の導入 ・土日祝日の患者説明は行わない。 ・土日祝日の病棟業務は当番医が行う。 ・毎月の時間外実績を各所属長へ送付し、長時間労働の職員への指導配慮 ・医師の長時間労働に関する院内アンケートの実施結果を踏まえた改善策の検討 ○ 安佐市民病院では、遅出出勤を導入したこと、土日祝日において患者説明を行わないこと及び病棟業務を当番医が行うことにより、時間外勤務縮減に取り組んだ。 ○ 舟入市民病院では、業務分担や記録のあり方の見直しを行うとともに業務改善に取り組んだ。また、患者数や看護度等を考慮し、看護単位をこえた応援を流動的に行い、時間外勤務の縮減に努めた。 ○ リハビリテーション病院では、毎月の幹部会議、運営会議及び安全衛生委																													

中期計画	令和3年度	地方独立行政法人広島市立病院機構による自己評価					市長による評価																				
	年度計画	評価理由等					記号	評価理由・コメント等	記号																		
<p>【目標値】 (単位：%)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>平成29年度 実績</th> <th>令和3年度 目標値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>給与費対医業収益比率</td> <td>53.7</td> <td>53.5</td> </tr> </tbody> </table> <p>※1 給与費対医業収益比率＝ (給与費/医業収益)×100 ※2 給与費は、退職手当を除く。</p>	区分	平成29年度 実績	令和3年度 目標値	給与費対医業収益比率	53.7	53.5	<p>【目標値】 (単位：%)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>令和3年度 目標値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>給与費対医業収益比率</td> <td>50.3</td> </tr> </tbody> </table> <p>※1 給与費対医業収益比率＝ (給与費/医業収益)×100 ※2 給与費は、退職手当を除く。</p>	区分	令和3年度 目標値	給与費対医業収益比率	50.3	<p>員会において、前月までの各所属の時間外勤務の実施状況を報告し職員への意識啓発を行っている。</p> <p>【実績】 (単位：%)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>平成29年度 実績</th> <th>平成30年度 実績</th> <th>令和元年度 実績</th> <th>令和2年度 実績</th> <th>令和3年度 実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>給与費対医業収益比率</td> <td>53.4</td> <td>52.2</td> <td>51.8</td> <td>55.0</td> <td>52.1</td> </tr> </tbody> </table> <p>※給与費対医業収益比率＝(給与費/医業収益)×100 ※給与費は、医業費用の給与費から退職給付費用を除いた額</p>	区分	平成29年度 実績	平成30年度 実績	令和元年度 実績	令和2年度 実績	令和3年度 実績	給与費対医業収益比率	53.4	52.2	51.8	55.0	52.1			
区分	平成29年度 実績	令和3年度 目標値																									
給与費対医業収益比率	53.7	53.5																									
区分	令和3年度 目標値																										
給与費対医業収益比率	50.3																										
区分	平成29年度 実績	平成30年度 実績	令和元年度 実績	令和2年度 実績	令和3年度 実績																						
給与費対医業収益比率	53.4	52.2	51.8	55.0	52.1																						
<p>(4) 収入の確保 (小項目)</p> <ul style="list-style-type: none"> 今後の疾病動向や診療報酬改定の情報収集、分析を行い、それらに迅速かつ確に対応した病院経営を行います。 効果的な経営戦略を企画立案し、経営改善に取り組み、必要に応じて医療経営コンサルタント等を活用します。 地域の医療機関との役割分担と連携の下、適正な在院日数や病床管理による病床利用率の向上に取り組み、診療報酬収入の確保に努めます。 	<p>(4) 収入の確保 (小項目)</p> <ul style="list-style-type: none"> 疾病動向の変化や診療報酬改定への対応 適正な在院日数や病床管理による診療報酬収入の確保 	<p>【疾病動向の変化や診療報酬改定への対応】</p> <ul style="list-style-type: none"> 診療報酬改定に関する調査・分析・検証を行うとともに、施設基準取得のため、職員配置等の検討や必要な研修へ医師等を派遣するなど、収入確保に向けた取組を進めた。 広島市民病院では、DPCと医療経営、及びクリニカルパスとの関わりの内容で看護部長を対象とした看護師長研修を開催し、当院や部署の課題、解決方法を検討した。また、新たに看護師主任クラスに対して経営改善策を協議するため主任クラス研修を開催した。 <p>【診療報酬収入の確保】</p> <ul style="list-style-type: none"> 広島市民病院では、過去の医療経営コンサルタントからの助言等に基づき、毎月の経営改善委員会でDPC分析システムを活用したDPC特定病院群(旧Ⅱ群)の実績要件や係数指標のベンチマークを行い、着眼点を周知し係数向上に取り組んだ。診療科ごとのDPCコード別の入院期間Ⅱの日数と当該コード別当院の平均在院日数比較表を作成し、各科に情報提供を行うことにより在院日数や病床管理の意識付けを行った。 広島市民病院では、入院患者が入院生活に必要な物品を洗濯付きで貸与する入院セットサービスシステムを導入し、プロポーザルにより受託した事業者から、病院内の受付窓口及び倉庫の貸付料として年額435,040円と入院セットサービスの月額売上高の15%の手数料の収入確保を図った。 安佐市民病院では、過去の医療経営コンサルタントからの助言等に基づき、分析ツール等を利用して、毎週前日までのデータを使って「病棟別患者状況一覧」を作成し、病棟看護師長・各科主任部長等に情報提供を行うことによ 	2	新型コロナウイルス感染症の影響による患者の減少が一因ではあるが、新型コロナウイルス感染症患者受入病床等を除く病床利用率や医療費個人負担分の収納率が年度計画を下回っているため、「2」と評価した。	2																						

中期計画	令和3年度	地方独立行政法人広島市立病院機構による自己評価			市長による評価																																																										
	年度計画	評価理由等			記号	評価理由・コメント等	記号																																																								
	<p>・診療報酬請求内容の精度調査による算定漏れの防止</p> <p>【目標値】病床利用率（単位：％）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>平成28年度実績</th> <th>令和3年度目標値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>広島市民病院（一般病床）</td> <td>96.1</td> <td>97.5</td> </tr> <tr> <td>安佐市民病院</td> <td>85.7</td> <td>90.3</td> </tr> <tr> <td>舟入市民病院（内科、外科）</td> <td>82.9</td> <td>85.0</td> </tr> <tr> <td>リハビリテーション病院</td> <td>96.5</td> <td>96.5</td> </tr> </tbody> </table> <p>※1 病床利用率＝（入院延べ患者数／診療日数）÷病床数 ※2 入院延べ患者数は退院日を含む。</p>	区分	平成28年度実績	令和3年度目標値	広島市民病院（一般病床）	96.1	97.5	安佐市民病院	85.7	90.3	舟入市民病院（内科、外科）	82.9	85.0	リハビリテーション病院	96.5	96.5	<p>り、適正な在院日数や病床管理に向けて活用を行った。また、予定入院や救急医療入院の検証や定義副傷病名の確認等を行ったり、医師と事務職員が診療内容を毎週確認し、適切なDPCコーディングになっているか、請求点数の算定漏れがないか検討会を行い、診療報酬増につながった。</p> <p>【診療報酬請求内容の精度調査による算定漏れの防止】</p> <p>○ 広島市民病院では、診療報酬請求内容の精度調査による算定漏れの防止を図った。</p> <p>【実績】病床利用率（単位：％）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>平成29年度実績</th> <th>平成30年度実績</th> <th>令和元年度実績</th> <th>令和2年度実績</th> <th>令和3年度実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>広島市民病院（一般病床）</td> <td>96.7</td> <td>96.4</td> <td>95.2</td> <td>85.9</td> <td>83.6</td> </tr> <tr> <td>安佐市民病院</td> <td>88.5</td> <td>87.9</td> <td>87.7</td> <td>72.7</td> <td>73.5</td> </tr> <tr> <td>舟入市民病院（内科、外科）</td> <td>76.1</td> <td>76.8</td> <td>73.4</td> <td>51.0</td> <td>52.5</td> </tr> <tr> <td>リハビリテーション病院</td> <td>95.1</td> <td>94.4</td> <td>95.3</td> <td>89.4</td> <td>93.8</td> </tr> </tbody> </table> <p>※病床利用率＝（入院延べ患者数／診療日数）÷病床数 ※入院延べ患者数は退院日を含む。 ※舟入市民病院の病床利用率は、小児科病床を除く内科、外科の病床利用率（新型コロナウイルス感染症患者を含む）</p> <p>【参考】新型コロナウイルス感染症患者受入病床等を除いて算出した病床利用率（単位：％）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>令和2年度実績</th> <th>令和3年度実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>広島市民病院（一般病床）</td> <td>88.3</td> <td>89.7</td> </tr> <tr> <td>安佐市民病院</td> <td>82.5</td> <td>80.9</td> </tr> <tr> <td>舟入市民病院（内科、外科）</td> <td>74.8</td> <td>67.2</td> </tr> </tbody> </table>	区分	平成29年度実績	平成30年度実績	令和元年度実績	令和2年度実績	令和3年度実績	広島市民病院（一般病床）	96.7	96.4	95.2	85.9	83.6	安佐市民病院	88.5	87.9	87.7	72.7	73.5	舟入市民病院（内科、外科）	76.1	76.8	73.4	51.0	52.5	リハビリテーション病院	95.1	94.4	95.3	89.4	93.8	区分	令和2年度実績	令和3年度実績	広島市民病院（一般病床）	88.3	89.7	安佐市民病院	82.5	80.9	舟入市民病院（内科、外科）	74.8	67.2				
区分	平成28年度実績	令和3年度目標値																																																													
広島市民病院（一般病床）	96.1	97.5																																																													
安佐市民病院	85.7	90.3																																																													
舟入市民病院（内科、外科）	82.9	85.0																																																													
リハビリテーション病院	96.5	96.5																																																													
区分	平成29年度実績	平成30年度実績	令和元年度実績	令和2年度実績	令和3年度実績																																																										
広島市民病院（一般病床）	96.7	96.4	95.2	85.9	83.6																																																										
安佐市民病院	88.5	87.9	87.7	72.7	73.5																																																										
舟入市民病院（内科、外科）	76.1	76.8	73.4	51.0	52.5																																																										
リハビリテーション病院	95.1	94.4	95.3	89.4	93.8																																																										
区分	令和2年度実績	令和3年度実績																																																													
広島市民病院（一般病床）	88.3	89.7																																																													
安佐市民病院	82.5	80.9																																																													
舟入市民病院（内科、外科）	74.8	67.2																																																													

中期計画	令和3年度	地方独立行政法人広島市立病院機構による自己評価		市長による評価																															
	年度計画	評価理由等	記号	評価理由・コメント等	記号																														
<p>・診療報酬制度に基づく適正な診療、事務処理を徹底し、請求漏れの解消、査定減（診療報酬を支払基金等に請求した際の減額）の縮減を図ります。</p> <p>・収入の確保及び公平性の観点から、医療費個人負担分に係る未収金の発生防止に取り組むとともに、回収困難な事案については弁護士法人への回収委託等を行うなど、発生した未収金の早期回収に取り組みます。</p>	<p>・診療報酬制度に基づく適正な診療及び事務処理の徹底</p> <p>・保険者による医療費の査定金額の縮減</p> <p>・医療費個人負担分に係る未収金の発生防止及び早期回収</p> <p>・回収困難な事案について弁護士法人への回収委託</p>	<p>【診療報酬制度に基づく適正な診療及び事務処理の徹底】</p> <p>○ 診療報酬の支払基金等への請求に当たっては、医師及び事務職員による診療の妥当性や算定誤りのチェックを行い、適正な請求に努めた。また、査定資料を医師に情報提供し、請求漏れや査定減の縮減に努めた。</p> <p>○ 広島市民病院では、令和2年度に行った入院レセプトの精度調査について報告会を行い、各部署への周知徹底を図った。令和3年度も引き続き精度調査を行い、大きな算定漏れ等は発見されなかった。</p> <p>【医療費個人負担分に係る未収金の発生防止及び早期回収】</p> <p>○ 従来から医療費個人負担分に係る未収金の発生防止に取り組むとともに、回収困難な事案については弁護士法人への回収委託等を行うなど、発生した未収金の早期回収に取り組み、収納率は、安佐市民病院で目標を達成することができた。</p> <p>【回収困難な事案について弁護士法人への回収委託】</p> <p>○ 広島市民病院では、令和3年度は、53万9,185円を回収し、新規に161万8,218円の回収を委託した。</p> <p>○ 安佐市民病院では、令和3年度は、25万3,426円を回収し、新規に90万6,840円の回収を委託した。</p> <p>○ 舟入市民病院では、令和3年度は、24万4,286円を回収し、新規に47万7,756円の回収を委託した。</p> <p>【実績】医療費個人負担分の収納率 (単位：%)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>平成29年度 実績</th> <th>平成30年度 実績</th> <th>令和元年度 実績</th> <th>令和2年度 実績</th> <th>令和3年度 実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>広島市民病院</td> <td>95.7</td> <td>95.3</td> <td>95.5</td> <td>95.6</td> <td>96.4</td> </tr> <tr> <td>安佐市民病院</td> <td>94.9</td> <td>97.4</td> <td>98.0</td> <td>98.4</td> <td>98.2</td> </tr> <tr> <td>舟入市民病院</td> <td>93.3</td> <td>95.1</td> <td>95.8</td> <td>88.8</td> <td>95.4</td> </tr> <tr> <td>リハビリテーション病院</td> <td>95.7</td> <td>96.8</td> <td>97.4</td> <td>97.4</td> <td>96.1</td> </tr> </tbody> </table> <p>※現年分収納率と滞納繰越分収納率とを合わせた収納率</p>	区分	平成29年度 実績	平成30年度 実績	令和元年度 実績	令和2年度 実績	令和3年度 実績	広島市民病院	95.7	95.3	95.5	95.6	96.4	安佐市民病院	94.9	97.4	98.0	98.4	98.2	舟入市民病院	93.3	95.1	95.8	88.8	95.4	リハビリテーション病院	95.7	96.8	97.4	97.4	96.1			
区分	平成29年度 実績	平成30年度 実績	令和元年度 実績	令和2年度 実績	令和3年度 実績																														
広島市民病院	95.7	95.3	95.5	95.6	96.4																														
安佐市民病院	94.9	97.4	98.0	98.4	98.2																														
舟入市民病院	93.3	95.1	95.8	88.8	95.4																														
リハビリテーション病院	95.7	96.8	97.4	97.4	96.1																														
<p>【目標値】医療費個人負担分の収納率 (単位：%)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>平成28年度 実績</th> <th>令和3年度 目標値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>広島市民病院</td> <td>96.6</td> <td>97.0</td> </tr> <tr> <td>安佐市民病院</td> <td>94.3</td> <td>95.5</td> </tr> <tr> <td>舟入市民病院</td> <td>93.5</td> <td>95.0</td> </tr> <tr> <td>リハビリテーション病院</td> <td>96.8</td> <td>99.0</td> </tr> </tbody> </table> <p>※現年分収納率と滞納繰越分収納率とを合わせた収納率</p>	区分	平成28年度 実績	令和3年度 目標値	広島市民病院	96.6	97.0	安佐市民病院	94.3	95.5	舟入市民病院	93.5	95.0	リハビリテーション病院	96.8	99.0	<p>【目標値】医療費個人負担分の収納率 (単位：%)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>令和3年度 目標値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>広島市民病院</td> <td>97.0</td> </tr> <tr> <td>安佐市民病院</td> <td>98.0</td> </tr> <tr> <td>舟入市民病院</td> <td>95.0</td> </tr> <tr> <td>リハビリテーション病院</td> <td>99.0</td> </tr> </tbody> </table> <p>※現年分収納率と滞納繰越分収納率とを合わせた収納率</p>	区分	令和3年度 目標値	広島市民病院	97.0	安佐市民病院	98.0	舟入市民病院	95.0	リハビリテーション病院	99.0									
区分	平成28年度 実績	令和3年度 目標値																																	
広島市民病院	96.6	97.0																																	
安佐市民病院	94.3	95.5																																	
舟入市民病院	93.5	95.0																																	
リハビリテーション病院	96.8	99.0																																	
区分	令和3年度 目標値																																		
広島市民病院	97.0																																		
安佐市民病院	98.0																																		
舟入市民病院	95.0																																		
リハビリテーション病院	99.0																																		

第4 その他業務運営に関する重要事項を達成するためとるべき措置
安佐市民病院の建替えと医療機能の拡充

中期目標 本市が示した機能分化整備方針を踏まえ、本市と十分に連携を図りながら、安佐市民病院の建替えを進めること。

中期計画	令和3年度	地方独立行政法人広島市立病院機構による自己評価		市長による評価	
	年度計画	評価理由等	記号	評価理由・コメント等	記号
第5 その他業務運営に関する重要事項を達成するためとるべき措置	第4 その他業務運営に関する重要事項を達成するためとるべき措置 <u>安佐市民病院の建替えと医療機能の拡充（大項目）</u>				
<p><u>1 安佐市民病院の建替えと医療機能の拡充（小項目）</u></p> <p>(1) 基本的な考え方</p> <p>耐震性の向上と老朽化・狭あい化の解消、高度で先進的な医療機能の拡充等を図るため、安佐市民病院の建替えを進めます。</p> <p>建替えに当たっては、広島市の機能分化整備方針に基づき、高度で先進的な医療機能、災害拠点病院としての機能及びへき地医療拠点病院としての機能を荒下地区に、日常的に高齢者などの地域住民が受診できる医療機能等を広島市、関係機関と協議しながら、現在の北館にそれぞれ整備します。</p> <p>現在の北館に整備する病院は、広島市の要請により一般社団法人安佐医師会が設置運営を行い、同医師会に対し広島市と共に必要な支援</p>	<p><u>安佐市民病院の建替えと医療機能の拡充（小項目）</u></p> <p>耐震性の向上と老朽化・狭あい化の解消、高度で先進的な医療機能の拡充等安佐市民病院が担うべき医療機能の拡充への対応を図るため、安佐市民病院の建替えを進めます。</p> <p>建替えに当たっては、高度で先進的な医療機能災害拠点病院としての機能といった主要な医療機能を荒下地区に、日常的に高齢者などの地域住民が受診できる医療機能等を現在の北館に整備します。</p> <p>なお、現在の北館に整備する病院に併設する病院以外の部分（可部夜間急病センター、広島市北部在宅医療・介護連携支援センター、地域開放施設（コミュニティセンター及び子育て支援施設）及び安佐准看護学院）については、広島市の依頼により法人が整備します。</p>		3	年度計画を順調に実施しているため、「3」と評価した。	3

中期計画	令和3年度	地方独立行政法人広島市立病院機構による自己評価		市長による評価	
	年度計画	評価理由等	記号	評価理由・コメント等	記号
<p>を行います。</p> <p>なお、現在の北館に整備する病院に併設する病院以外の部分(可部夜間急病センター、広島市北部在宅医療・介護連携支援センター、地域開放施設(コミュニティセンター及び子育て支援施設)及び安佐准看護学院)については、広島市の依頼により法人が整備します。</p> <p>(2) 整備する場所</p> <p>ア 高度で先進的な医療機能等の主要な医療機能 広島市安佐北区亀山南一丁目「荒下地区」</p> <p>イ 日常的に高齢者などの地域住民が受診できる医療機能等 広島市安佐北区可部南二丁目「現在地」</p> <p>2 荒下地区に整備する病院</p> <p>(1) 担うべき医療の基本的な方向性</p> <p>ア 高度で先進的な医療の拡充 救命救急センター、ヘリポートの整備等</p> <p>イ 災害拠点病院としての機能の拡充 免震構造の採用、1階部分に災害傷病者の受入れスペース及び設備の整備、災害備蓄倉庫の整備等</p>	<p>(令和3年度の取組)</p> <p>(1) 効率的な業務の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・工事のスケジュール、コスト、品質管理等のマネジメントを民間委託することによる限られた人員での業務の推進 <p>(2) 建替え業務の着実な推進</p> <p>① 荒下地区</p> <ul style="list-style-type: none"> ・建設工事(R1~3) 事業費(R3) 6,705,534千円 ・工事監理等(R1~4) 事業費(R3) 576,021千円 ・用地取得(R1・3) 事業費(R3) 949,102千円 ・医療機器購入等(R3・4) 事業費(R3) 693,856千円 <p>② 現在地</p> <ul style="list-style-type: none"> ・改修工事等(R2~4) 事業費(R3) 928,643千円 <p>※事業費には、病院に併設する病院以外の部分の整備に要する費用を含む。</p>	<p>【効率的な業務の推進】</p> <p>○ 平成29年度より設計、工事等の各段階におけるスケジュール、コスト、品質管理等のマネジメントを民間委託するCM(コンストラクションマネジメント)方式を導入しており、限られた人員で業務を推進できる体制を構築することで、執行体制の効率化を図っている。</p> <p>【建替え事業の着実な推進】</p> <p>○ 建替え事業の状況は、次のとおりである。</p> <p>① 荒下地区</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和元年6月に着手した建設工事は、令和3年12月28日に完了した。 ・建設工事に係る工事監理は、令和3年度中に完了し、医療機器の設置調整等に係る監理業務は、引き続き行っている。 ・広島市荒下土地区画整理区域内の病院敷地部分の土地は、令和4年1月までに全ての地権者から購入を完了した。 ・医療機器購入等は、令和3年度に全体の1割は、設置が完了し、残りについては、令和4年度に設置することとしている。 <p>② 現在地</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和3年3月10日に改修工事に着手し、合併浄化槽及び感染外来棟を撤去するとともに、エレベーター棟の増築工事を行っている。 			

中期計画	令和3年度	地方独立行政法人広島市立病院機構による自己評価			市長による評価													
	年度計画	評価理由等		記号	評価理由・コメント等	記号												
ウ 県北西部地域等の病院支援と患者の受入れの拡充 ・医師の派遣等の支援、研修機能等の充実等 ・県北西部地域の公立病院等との連携強化 (2) 整備概要 ア 敷地面積 約38,000㎡ イ 建物(病院本体) ・面積 延床面積 約50,000㎡ (建築面積 約15,000㎡) ・構造 鉄骨造・鉄筋コンクリート造 ウ 医療機能 ・病床数 434床 一般病床 414床 [うち ICU 8床, HCU 19 床] 精神病床 20床 (3) 整備スケジュール																		
<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 15%;">平成29年度まで</th> <th style="width: 15%;">平成30年度</th> <th style="width: 15%;">令和元年度</th> <th style="width: 15%;">令和2年度</th> <th style="width: 15%;">令和3年度</th> <th style="width: 15%;"></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: center;">基本計画 基本設計</td> <td style="text-align: center;">→ 実施設計</td> <td style="text-align: center;">←</td> <td style="text-align: center;">← 建設工事</td> <td style="text-align: center;">→</td> <td style="text-align: center;">● 令和4年春開設 (見込み)</td> </tr> </tbody> </table>							平成29年度まで	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度		基本計画 基本設計	→ 実施設計	←	← 建設工事	→	● 令和4年春開設 (見込み)
平成29年度まで	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度														
基本計画 基本設計	→ 実施設計	←	← 建設工事	→	● 令和4年春開設 (見込み)													

中期計画	令和3年度		地方独立行政法人広島市立病院機構による自己評価					市長による評価	
	年度計画		評価理由等					記号	評価理由・コメント等
(4) 整備費	(単位：百万円)								
	平成29年度まで	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	(計)	令和4年度	合計	
基本計画	20							20	
建替整備費	基本設計	152						152	
	工事監理等	66	147	188	282	270	887	5	958
	実施設計		400				400		400
	建設費			2,254	8,196	10,040	20,490		20,490
	小計	218	547	2,442	8,478	10,310	21,777	5	22,000
	土地購入費			1,920			1,920		1,920
	医療機器購入費					7,330	7,330		7,330
合計	238	547	4,362	8,478	17,640	31,027	5	31,270	
財源	運営費負担金	109	4	4	5	7	20	1	130
	長期借入金		539	4,354	8,468	17,425	30,786	3	30,789
	自己財源	129	4	4	5	8	21	1	151
	補助金(へき地)					200	200		200
3 現在の北館に整備する病院	<p>(1) 担うべき医療の基本的な方向性</p> <p>日常的に高齢者などの地域住民が受診できる医療機能の拡充等</p> <p>(2) 整備概要</p> <p>ア 敷地面積 約10,000㎡</p> <p>イ 建物(病院部分)</p> <ul style="list-style-type: none"> 面積 延床面積 約7,000㎡ 構造 鉄骨鉄筋コンクリート造 <p>ウ 医療機能</p> <ul style="list-style-type: none"> 病床数 102床[地域包括ケア病床 82床, 緩和ケア病床 20床] 								

中期計画	令和3年度		地方独立行政法人広島市立病院機構による自己評価			市長による評価																	
	年度計画		評価理由等	記号	評価理由・コメント等	記号																	
・診療科 総合内科, 緩和ケア内科 (3) 整備スケジュール																							
<table border="1" style="width:100%; text-align:center;"> <tr> <td>平成29年度まで</td> <td>平成30年度</td> <td>令和元年度</td> <td>令和2年度</td> <td>令和3年度</td> <td>令和4年度</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td colspan="2">← 整備計画</td> <td colspan="2">設計 →</td> <td>← 改修工事</td> <td>令和4年12月開設 (見込み) ● →</td> <td></td> <td></td> </tr> </table>								平成29年度まで	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度			← 整備計画		設計 →		← 改修工事	令和4年12月開設 (見込み) ● →		
平成29年度まで	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度																		
← 整備計画		設計 →		← 改修工事	令和4年12月開設 (見込み) ● →																		
(4) 整備費	(単位:百万円)																						
	区分	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	計	令和4年度	合計															
整備費	工事監理等			2	15	17	60	77															
	実施設計		110			110		110															
	建設費			85	539	624	2,134	2,758															
	合計		110	87	554	751	2,194	2,945															
財源	運営費負担金		110	49	508	667	1,825	2,492															
	長期借入金			19		19	152	171															
	県補助金			19	46	65	217	282															
(5) 現在の北館に整備する病院への支援の基本的な考え方 広島市の支援の下、医療に関する地域支援を行うため、現在の北館に整備する病院への支援を行います。																							

※1 整備費については、1(1)の病院以外の部分の整備に要する費用を含む。

※2 財源については、国等からの確保方策を更に検討する。